



Cisco BroadWorks 版Webex設定ガイド

リリース 44.3

ドキュメントバージョン 1



目次

1 変更の概要	1
1.1 2024 年 3 月のリリース 44.3 の変更	1
1.2 2024 年 2 月のリリース 44.2 の変更	1
1.3 リリース 43.1、2024 年 1 月の変更	1
1.4 2023 年 12 月、リリース 43.12 の変更	1
1.5 リリース 43.11、2023 年 11 月の変更	2
1.6 リリース 43.10、2023 年 10 月の変更	2
1.7 リリース 43.9、2023 年 9 月の変更	2
1.8 リリース 43.8、2023 年 8 月の変更	2
1.9 リリース 43.7、2023 年 7 月の変更	3
1.10 リリース 43.6、2023 年 6 月の変更	3
1.11 リリース 43.5、2023 年 5 月の変更	3
1.12 リリース 43.4、2023 年 4 月の変更	3
1.13 リリース 43.3、2023 年 3 月の変更	3
1.14 リリース 43.2、2023 年 2 月の変更	3
1.15 リリース 43.1、2023 年 1 月の変更	4
2 設定ファイルの変更	5
2.1 リリース 44.3 の設定ファイルの変更	5
2.2 リリース 44.2 の設定ファイルの変更	5
2.3 リリース 44.1 の設定ファイルの変更	7
2.4 リリース 43.12 の設定ファイルの変更	7
2.5 リリース 43.11 の設定ファイルの変更	8
2.6 リリース 43.10 の設定ファイルの変更	8
2.7 リリース 43.9 の設定ファイルの変更	8
2.8 リリース 43.8 の設定ファイルの変更	9
2.9 リリース 43.7 の設定ファイルの変更	9
2.10 リリース 43.6 の設定ファイルの変更	9
2.11 リリース 43.5 の設定ファイルの変更	10
2.12 リリース 43.4 の設定ファイルの変更	10

2.13	リリース 43.3 の設定ファイルの変更	12
2.14	リリース 43.2 の設定ファイルの変更	12
2.15	リリース 43.1 の設定ファイルの変更	12
3	紹介	13
4	のインストール	14
4.1	ローカライズされたクライアントのダウンロード	14
4.2	Android クライアント	14
4.3	iOS クライアント	14
4.4	デスクトップ クライアント	15
5	デバイス管理	16
5.1	デバイス管理タグ	16
5.2	デバイス タイプ選択の部分一致の強化	17
5.3	クライアントの設定	18
5.4	config-wxt.xml の展開	18
5.5	設定ファイル (config-wxt.xml)	18
5.6	システム デフォルト タグ	19
5.7	Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ	20
6	カスタムタグ	23
6.1	一般的な機能	42
6.1.1	SIP サーバーの設定	42
6.1.2	SIP Over TLS およびセキュア リアルタイム トランスポート プロトコル	45
6.1.3	SRTP 用 3GPP SIP ヘッダー	48
6.1.4	TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーの強制	49
6.1.5	SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト	51
6.1.6	動的 SIP プロキシ検出	52
6.1.7	SIP の優先ポート使用状況	59
6.1.8	SIP フェールオーバーとフェールバック	59
6.1.9	SIP SUBSCRIBE および REGISTER 更新およびサブスクリプション再試行	65
6.1.10	REGISTER で P-Associated-URI を使用する	66
6.1.11	SIP P-Early Media (PEM) ヘッダー	67

6.1.12 SIP UPDATE サポート	67
6.1.13 レガシー SIP INFO FIR	68
6.1.14 NAT トラバーサル SIP report 管理	68
6.1.15 SIP セッション ID	69
6.1.16 着信通話拒否の動作	70
6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲	70
6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)	71
6.1.19 RTCP の MUX	72
6.1.20 転送	72
6.1.21 N-way 会議コール と参加者	74
6.1.22 コール プル	75
6.1.23 コールパーク/保留解除	75
6.1.24 通話の統計	76
6.1.25 コール自動回復 / シームレスなコールハンドオーバー	77
6.1.26 通話の録音	77
6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ	78
6.1.28 Webex Calling のボイスメールの文字起こし	81
6.1.29 通話設定	81
6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定	84
6.1.31 コールセンター/コールキューのログイン/ログアウト	90
6.1.32 XSI ルートとパス	90
6.1.33 XSI イベント チャンネル	91
6.1.34 コーデックの設定	92
6.1.35 SIP-URI ダイヤリング	94
6.1.36 すべてのデバイスでの通話履歴	94
6.1.37 ビデオ通話を無効にする	95
6.1.38 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーションレポート	96
6.1.39 アイデンティティとしての PAI	97
6.1.40 画面共有を無効にする	98
6.1.41 スпам通話の表示	98
6.1.42 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張	99

6.1.43	QoS DSCP マーキング	100
6.1.44	プライマリプロフィール	101
6.1.45	ブロック リスト (Webex Calling のみ)	102
6.1.46	メディア適応とレジリエンス実装 (MARI)	104
6.1.47	同じユーザーとの同時通話.....	106
6.1.48	RTCP-XRについて.....	106
6.1.49	コール転送情報.....	107
6.1.50	発信者 ID (Webex Calling のみ).....	107
6.2	デスクトップのみの機能.....	110
6.2.1	強制ログアウト	110
6.2.2	コールピックアップ	111
6.2.3	Boss-Admin (Executive-Assistant) サポート	111
6.2.4	SIP 通話をミーティング にエスカレーションする (Webex Calling のみ).....	112
6.2.5	卓上電話制御通話 – 自動応答	113
6.2.6	トーン通知による自動応答.....	114
6.2.7	卓上電話のコントロール – 通話中コントロール – 会議.....	114
6.2.8	コール ピックアップの通知.....	114
6.2.9	リモート コントロール イベント パッケージ	117
6.2.10	コール キュー エージェント CLID の選択	118
6.2.11	サバイバビリティ ゲートウェイ (Webex Calling のみ)	118
6.2.12	共有回線アピアランス	119
6.2.13	仮想回線 (Webex Calling のみ)	120
6.2.14	リモート ミュート制御イベント パッケージ (Webex Calling のみ).....	120
6.2.15	通話を移動.....	121
6.3	モバイルのみの機能.....	124
6.3.1	緊急コール.....	124
6.3.2	コールのプッシュ通知	125
6.3.3	単一のアラート.....	128
6.3.4	クリックしてダイヤル (コールバック)	128
6.3.5	MNO サポート.....	129
6.3.6	着信Caller ID.....	135

7	早期フィールドトライアル（ベータ）機能.....	136
8	Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング	137
9	付録A: TLS 暗号.....	144
10	付録B: DM タグプロビジョニング スクリプト	145
10.1	デスクトップ	146
10.2	モバイル	149
10.3	タブレット.....	152
10.4	システム タグ.....	155
11	頭字語と略語	156

1 変更の概要

このセクションでは、各リリースおよびドキュメントバージョンのこのドキュメントへの変更について説明します。

1.1 2024 年 3 月のリリース 44.3 の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.3.6](#) を更新しました。 [着信 Caller ID](#)
 - デスクトップとモバイルで共通の [6.1.50 発信者 ID \(Webex Calling のみ\)](#) セクションを移動し、詳細とともに更新しました

1.2 2024 年 2 月のリリース 44.2 の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.3.6](#) を追加しました。サブセクションを含む発信者 ID:
 - [6.3.6.1 着信発信者 ID](#)
 - [6.3.6.2 発信者 ID \(Webex Calling のみ\)](#)
- 更新されたセクション [6.2.8 コール ピックアップの通知](#)
 - サブセクション [6.2.8.1 にぎやかなランプ畑](#) を追加 - BLF の詳細を移動しました。
 - サブセクション [6.2.8.2 コール ピックアップ グループ \(Webex Calling のみ\)](#) を追加。
- セクション [6.1.49 コール転送情報](#) を追加。
- セクション [6.1.8.3 IP バージョンを強制する](#) を更新 - 新しい [nat64](#) モードの詳細を追加。
- 更新されたセクション [6.1.42 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張](#) - 新しい帯域幅拡張のサポートとノイズ除去の更新の詳細が追加されました。セクション **Error! Reference source not found.** はベータ版から削除されます。

1.3 リリース 43.1、2024 年 1 月の変更

このリリースでは、このドキュメントに変更はありません。

1.4 2023 年 12 月、リリース 43.12 の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 更新されたセクション [6.1.1SIP サーバーの設定](#) – 例を更新しました (回線ごとにドメインと外部 ID が追加されました)。
- セクション [6.2.15通話を移動](#) を追加。
- 更新されたセクション [6.3.5.1ネイティブ ダイアラーとの通話](#) – セルラー発信コールの設定可能なプレフィックスサポートに関する詳細を追加しました。
- 更新されたセクション [6.1.20転送](#) – 新しい自動保留オプションに関する詳細を追加しました。
- セクション [6.1.48RTCP-XRについて](#) を追加。
- ベータ版にセクション [Error! Reference source not found.](#) を追加。

1.5 リリース 43.11、2023 年 11 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 更新されたセクション [6.1.8.1SIP フェールオーバー](#) – 登録のクリーンアップとq値の更新に関する詳細を追加しました。

1.6 リリース 43.10、2023 年 10 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- ベータ版から [6.1.29.2ボイスメールへのコール転送](#) セクションに移動しました。
- セクション [6.3.5.2通話中のコントロール](#) を更新しました – 協議転送と別の進行中のコールへの転送に関する詳細を追加しました。
- [6.3.5.6MNO モビリティ - 通話中のウィジェット](#) セクションを更新しました – 完全な転送に関する詳細を追加しました。

1.7 リリース 43.9、2023 年 9 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.1.47同じユーザーとの同時通話](#) をベータから移動しました。
- 更新されたセクション [6.1.20転送](#) – 進行中のコールへの転送に関する詳細を追加しました。
- 追加されたセクション [0](#)
- [リモート ミュート制御イベント パッケージ \(Webex Calling のみ\)](#) です。
- ベータ版の「[ボイスメールへのコール転送](#)」セクションを追加。

1.8 リリース 43.8、2023 年 8 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- ベータ版のセクション [同じユーザーとの同時通話](#)を追加しました。

1.9 リリース 43.7、2023 年 7 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.3.5.6MNO モビリティ - 通話中のウィジェット](#) をベータから移動しました。

1.10 リリース 43.6、2023 年 6 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.1.46メディア適応とレジリエンス実装 \(MARI\)](#) をベータから移動しました。
- ベータ版にセクション [MNO モビリティ - 通話中のウィジェット](#)を追加。
- 更新されたセクション [5.4config-wxt.xml の展開](#) - 構成テンプレートを最新の Webex アプリケーションリリースバージョンで最新の状態に保つための推奨事項が追加されました。

1.11 リリース 43.5、2023 年 5 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.1.45ブロック リスト \(Webex Calling のみ\)](#)を追加。
- セクション [6.1.44のプライマリプロフィール](#)を更新しました。

1.12 リリース 43.4、2023 年 4 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 更新されたセクション [6.2.8 コール ピックアップの通知](#)
- です。
- セクション [6.2.13仮想回線 \(Webex Calling のみ\)](#)を追加。
- ベータ版にセクション [メディア適応とレジリエンス実装 \(MARI\)](#) を追加。

1.13 リリース 43.3、2023 年 3 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション [6.1.44](#) のプライマリプロファイルを追加。
- 更新されたセクション [0](#)
- [共有回線アピランスです。](#)

1.14 リリース 43.2、2023 年 2 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 更新されたセクション [0](#)
- [共有回線アピランスです。](#)
- [6.2.11 サバイバビリティ ゲートウェイ \(Webex Calling のみ\)](#) を追加しました。
- [6.1.4 TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーブの強制](#) セクションを更新しました。

1.15 リリース 43.1、2023 年 1 月の変更

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 更新されたセクション [0](#)
- [共有回線アピランスです。](#)

2 設定ファイルの変更

2.1 リリース 44.3 の設定ファイルの変更

- [デスクトップのみ] [Webex Calling のみ] 新しい <caller-id> セクションに <outgoing-calls> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <additional-numbers
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%"/>
      <call-center
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%"/>
      <hunt-group enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%"/>
      <clid-delivery-blocking
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%"/>
    </outgoing-calls>
```

2.2 リリース 44.2 の設定ファイルの変更

- [モバイルのみ] <services><calls> の <caller-id> セクションを追加しました。サブタグ <incoming-call> と <missed-call> を追加し、両方に対して新しいサブタグ <append-number> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <incoming-calls>
      <append-number
enabled="%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    </incoming-calls>
    <missed-calls>
      <append-number
enabled="%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    </missed-calls>
```

- [モバイルのみ] [Webex Calling のみ] 新しい <caller-id> セクションに <outgoing-calls> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <additional-numbers
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%"/>
      <call-center
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%"/>
      <hunt-group enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%"/>
      <clid-delivery-blocking
enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%"/>
    </outgoing-calls>
```

- セクション <services><calls> にタグ <call-forwarding-info> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <call-forwarding-info
enabled="%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%"/>
```

- [デスクトップのみ] [Webex Calling のみ] <services><calls> の下にある <group-call-pickup-notifications> セクションを <display-caller> と <max-timeout> をサブタグとして追加しました。また、<protocols><sip><lines> セクションの各 <line> タグの下に <group-call-pickup> タグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <group-call-pickup-notifications
enabled="%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%">
    <display-caller enabled="%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
    <max-timeout value="%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%"/>
  </group-call-pickup-notifications>
  ...
<protocols><sip>
  <lines>
    <line>
      <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
      ...
    </line>
    <line>
      <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-2%</group-call-pickup>
      ...
    </line>
  ...
  ...
```

次の%TAG%sが追加されました:

- %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%
- %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%
- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%
- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%
- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%
- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%
- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%
- %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%
- %ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%
- %ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%
- %GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%
- %BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%

次の %TAG% は廃止されました:

- %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT%

2.3 リリース 44.1 の設定ファイルの変更

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

2.4 リリース 43.12 の設定ファイルの変更

- <config><protocols><sip><lines> の <line> セクションごとに <domain> タグを追加しました。

```
<config>
<protocols><sip>
  <lines>
    <line>
      <domain>%BWHOST-1%</domain>
      ...
    </line>
    <line>
      <domain>%BWHOST-2%</domain>
      ...
    </line>
    ...
```

- [デスクトップのみ] セクション <config><services><calls> の下に <move-here> タグが付いた <call-move> セクションを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <call-move>
    <move-here enabled="%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%"/>
```

- セクション <config><services><calls> の下に <speech-enhancements> タグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
  <speech-enhancements enabled="%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%"/>
```

- [モバイルのみ] セクション <config><services><dialing><native> の下に <fac-prefix> タグを追加しました。

```
<config>
<services>
  <dialing>
    <native enabled="%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%" enable-bwks-mobility-
dependency="%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%">
      <fac-prefix value="%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%"/>
```

- タグ <config><services><calls><transfer-call> に自動保留属性を追加しました。

```
<config>
```

```
<services><calls>
  <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%" xsi-
enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%" type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"
auto-hold="%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%"/>
```

- <config><protocols><sip> の下に <rtcp-xr> セクションを追加しました。

```
<config>
<protocols><sip>
  <rtcp-xr>
    <negotiation enabled="%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%"/>
```

次の%TAG%sが追加されました:

- %BWHOST-n%
- %ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%
- %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%
- %DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%
- %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%
- %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%

2.5 リリース 43.11 の設定ファイルの変更

- セクション <config><protocols><sip> の下で、<registration-cleanup> をサブタグとする新しい <register-failover> セクションを追加しました。<q-value> タグは <register-failover> タグの下に移動されました。

```
<config>
<protocols><sip>
  <q-value>1.0</q-value> <!--DEPRECATED -->
  <register-failover>
    <registration-
cleanup>%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%</registration-
cleanup>
    <q-value>1.0</q-value>
```

次の%TAG%が追加されました:

- %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%

2.6 リリース 43.10 の設定ファイルの変更

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

2.7 リリース 43.9 の設定ファイルの変更

- <config><services><calls> セクションの <multiple-calls-per-user> というタグを <simultaneous-calls-with-same-user> に改名しました。

```
<config>
```

```
<services><calls>
<simultaneous-calls-with-same-user
enabled="%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%"/>
```

- セクション <config><services><calls> の下に新しいタグ <remote-mute-control> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
<remote-mute-control enabled="%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%"/>
```

- セクション <config><services><voice-mail> の下に新しいタグ <forwarding> を追加しました。

```
<config>
<services><voice-mail>
<forwarding enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%"/>
```

次の%TAG%が更新されました:

- %ENABLE_MULTIPLE_CALLS_PER_USER_WXT% 次の名称に変更されました:
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%

次の%TAG%sが追加されました:

- %ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%
- %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%

2.8 リリース 43.8 の設定ファイルの変更

- <config><services><calls> セクションに新しいタグ <multiple-calls-per-user> を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
<multiple-calls-per-user enabled="%ENABLE_MULTIPLE_CALLS_PER_USER_WXT%"/>
```

次の%TAG%が追加されました:

- %ENABLE_MULTIPLE_CALLS_PER_USER_WXT%

2.9 リリース 43.7 の設定ファイルの変更

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

2.10 リリース 43.6 の設定ファイルの変更

- [モバイルのみ] セクションのタグ <hold>、<transfer-call>、および <escalate-to-webex-meeting> で新しい属性ウィジェットが有効に追加されました <config><services><calls>

```
<config>
```

```
<services><calls>
  <hold xsi-enabled="%ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%"/>
  <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%" xsi-
enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%"
type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"/>
  <escalate-to-webex-meeting
enabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
```

次の%TAG%が追加されました:

- %ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%
- %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%
- %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%

2.11 リリース 43.5 の設定ファイルの変更

- [Webex Calling のみ]

セクションの下に <call-block> タグを<config><services><calls>追加しました

```
<config>
<services><calls>
  <call-block enabled="%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%"/>
```

次の%TAG%が追加されました:

- %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%

2.12 リリース 43.4 の設定ファイルの変更

- [Webex Calling のみ]

<line> タグごとに *lineType* 属性が追加されました。また、各 <line> タグの下に <external-id> タグを追加しました。

```
<config><protocols>
<sip>
  <line multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
    ...
    <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-1%">
      <external-id>%BWUSEREXTID-1%</external-id>
    ...
  </line>
  <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-2%">
    <external-id>%BWUSEREXTID-2%</external-id>
    ...
  </line>
  ...
  <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-10%">
    <external-id>%BWUSEREXTID-10%</external-id>
    ...
  </line>
```


- <services><calls><audio> の下の <audio-quality-enhancements> セクションと <services><calls><video> の下の <video-quality-enhancements> セクションを追加しました

```
<config>
<services><calls>
<calls>
  <audio>
    <audio-quality-enhancements>
      <mari>
        <fec enabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%">
          <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
          <payload>111</payload>
          <max_esel>1400</max_esel>
          <max_n>255</max_n>
          <m>8</m>
          <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
          <non_seq>1</non_seq>
          <feedback>0</feedback>
          <order>FEC_SRTP</order>
        </fec>
        <rtx enabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%">
          <mari-rtx>90000</mari-rtx>
          <payload>112</payload>
          <time>180</time>
          <data-flow>1</data-flow>
          <order>RTX_SRTP</order>
        </rtx>
      </mari>
    </audio-quality-enhancements>
    ...
  <video>
    <video-quality-enhancements>
      <mari>
        <fec enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%">
          <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
          <payload>111</payload>
          <max_esel>1400</max_esel>
          <max_n>255</max_n>
          <m>8</m>
          <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
          <non_seq>1</non_seq>
          <feedback>0</feedback>
          <order>FEC_SRTP</order>
        </fec>
        <rtx enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%">
          <mari-rtx>90000</mari-rtx>
          <payload>112</payload>
          <time>180</time>
          <data-flow>1</data-flow>
          <order>RTX_SRTP</order>
        </rtx>
      </mari>
    </video-quality-enhancements>
```

- [デスクトップのみ] <protocols><sip> で対応する <line> セクションで、最初の回線ラベル名のハードコードされた値を削除しました。

```
<config>
```

```
<protocols><sip>
<line multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
...
<line>
  <label>%BWAPPEARANCE-LABEL-1%</label>
  ...
```

次の%TAG%sが追加されました:

- %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%
- %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%
- %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%
- %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%

次のシステムレベル%TAG%sが追加されました:

- %BW-MEMBERTYPE-n%
- %BWUSEREXTID-n%(%BWUSEREXTID-n%)

2.13 リリース 43.3 の設定ファイルの変更

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

2.14 リリース 43.2 の設定ファイルの変更

セクション <services><calls> の下に <device-owner-restriction> タグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
<device-owner-restriction
enabled="%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%"/>
```

次の%TAG%が追加されました:

- %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%

2.15 リリース 43.1 の設定ファイルの変更

このバージョンの設定ファイルには更新はありませんでした。

3 紹介

このドキュメントでは、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの設定について説明します。

設定ファイル「`config-wxt.xml`」は、モバイル用 (Android および iOS) とデスクトップ用 (Windows および MacOS) の 2 つのバージョンで提供されています。

このクライアントは、エンド ユーザーには表示されない構成を使用して設定されます。`config-wxt.xml`は、サーバー固有の情報（サーバーのアドレス、ポート、クライアント自体のランタイムオプションなど）を提供します（たとえば、[設定] 画面で表示されるオプション）。

設定ファイルは、デバイス管理から取得された後、起動時にクライアントによって読み取られます。設定ファイルの情報は暗号化されて保存されるため、エンド ユーザーが情報を表示したりアクセスしたりすることはできません。

メモ: XML プロパティにはスペースを含めないでください（たとえば、`<TRANSFER-CALL ENABLED = "%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%"/>` の代わりに `<transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%"/>`）。

4 のインストール

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは以下からインストールできます。

<https://www.webex.com/webexfromserviceproviders-downloads.html>

4.1 ローカライズされたクライアントのダウンロード

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントのローカライズされたバージョンは、次のようにダウンロードできます。

<https://www.webex.com/ko/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/fr/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/pt/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/zh-tw/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/zh-cn/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/ja/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/es/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/de/webexfromserviceproviders-downloads.html>

<https://www.webex.com/it/webexfromserviceproviders-downloads.html>

4.2 Android クライアント

Androidクライアントはアプリケーション(Androidアプリケーションパッケージ[APK])としてインストールされ、設定と構成関連のデータをプライベートエリア内に保持します。

Google Playの手順に基づくバージョン管理があります。標準のGoogle Play通知が提供されます(つまり、Androidは自動的に新しいバージョンのソフトウェアが利用可能であることを示します)。

新しいバージョンがダウンロードされると、古いソフトウェアは上書きされますが、ユーザーデータはデフォルトで保持されます。

インストールまたはアンインストールのオプションを選択する必要はありません。

4.3 iOS クライアント

iOSクライアントはアプリケーションとしてインストールされ、設定関連のデータは「サンドボックス」内に保存され、設定ファイルのデータは暗号化されます。

Apple App Storeの手順に基づくバージョン管理があります。App Store アイコンが強調表示され、新しいバージョンのソフトウェアが利用可能であることを示します。

新しいバージョンがダウンロードされると、古いソフトウェアは上書きされますが、ユーザーデータはデフォルトで保持されます。

インストールまたはアンインストールのオプションを選択する必要はありません。

4.4 デスクトップ クライアント

デスクトップ クライアント (Windows および MacOS) のインストールとバージョン管理に関する情報は、以下に記載されています。 <https://help.webex.com/en-us/nw5p67g/Webex-Installation-and-Automatic-Upgrade>.

5 デバイス管理

5.1 デバイス管理タグ

Cisco BroadWorks 版 Webex は、次の図に示されているデバイス管理タグセットを使用します。特定のデバイス/クライアント設定をプロビジョニングするには、システムデフォルトおよびカスタムタグセットが必要です。このタグセットは、クライアントのネットワーク/サービスの接続設定と機能のアクティベーションコントロールを柔軟に管理できます。

このカスタムタグセットは、システム管理者が [システム] → [リソース] → [デバイス管理タグセット] オプションを使用してプロビジョニングします。管理者は新しいタグセットを追加する必要があります。

- モバイル: Connect_タグ
- タブレット: ConnectTablet_タグ
- デスクトップ: BroadTouch_タグ

個々のタグを作成し、その値を設定します。セクションの参照は、各タグの詳細な説明を提供します。カスタム タグは、機能に基づいてグループで区切られ、このドキュメントで後ほど説明します。

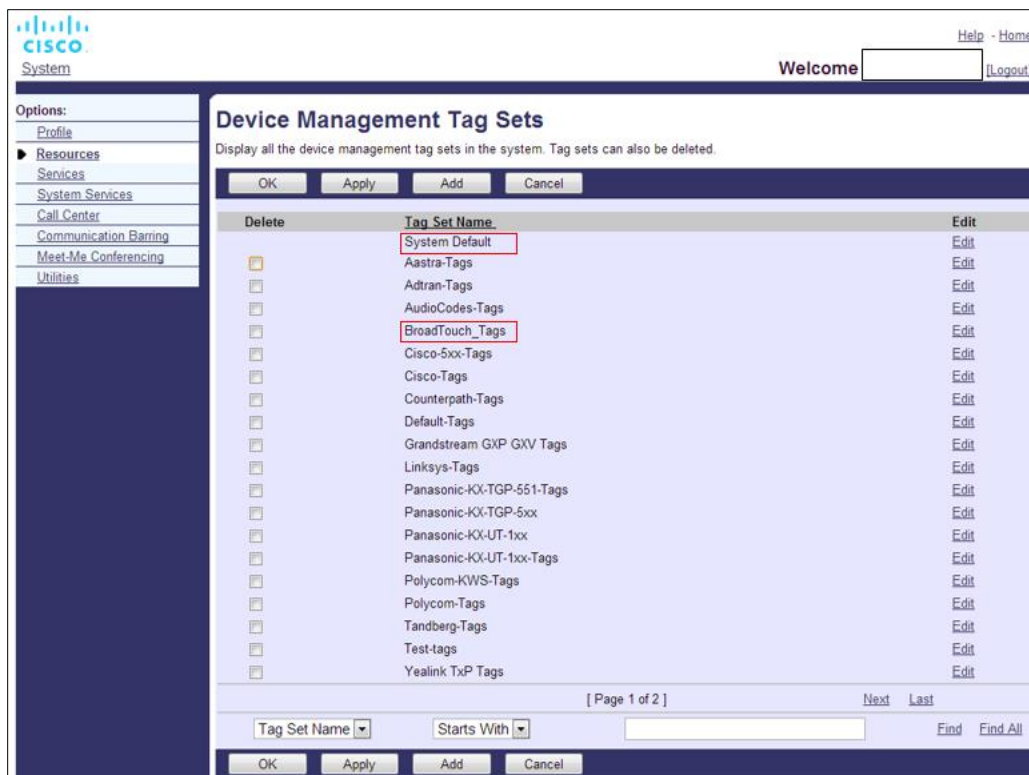


図1 デスクトップデバイス管理タグセット

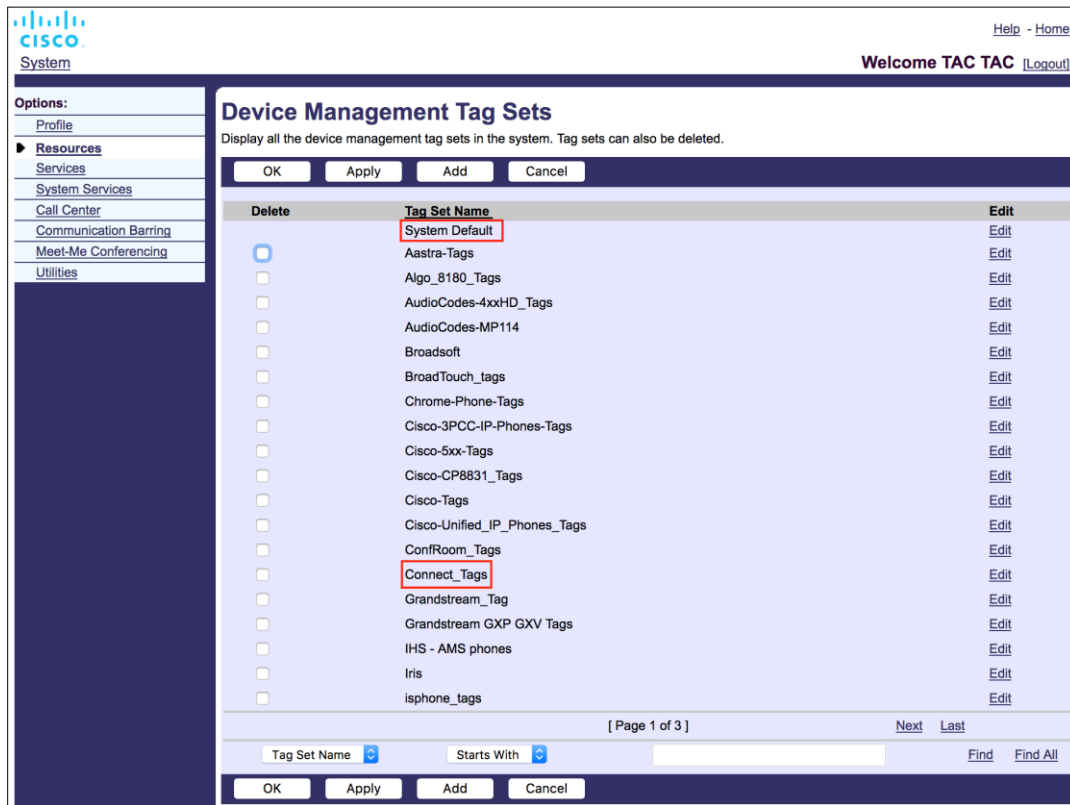


図2 モバイルデバイス管理タグセット

5.2 デバイス タイプ選択の部分一致の強化

ユーザーグループまたは個々のユーザーの機能パッケージを選択する際の柔軟性を高めるために、デバイスプロファイルタイプは（最初の）部分一致に基づいて選択されます。これにより、顧客は異なるデバイスタイプを使用できます。

一般的なデバイス管理手順では、Cisco BroadWorks アプリケーション サーバがデバイスプロファイルタイプを提供することを指定します。デスクトップは「Business Communicator – PC」、モバイルは「Connect – Mobile」、タブレットは「Connect – Tablet」という名称です。デバイスプロファイルを作成し、ユーザに割り当てることができます。その後、アプリケーションサーバは構成ファイルを構築し、プロファイルサーバに保存します。

ログイン時に、クライアントは Xsi 経由で割り当てられたデバイスリストをクエリし、対応するデバイスタイププロファイルを検索します。クライアントは、対応するデバイスタイプ名で始まる最初のプロファイルを選択します。次に、このデバイスプロファイルに関連付けられているデバイスプロファイルの設定データ（設定ファイル）を使用して、さまざまな機能を有効または無効にします。

これにより、同じクライアント実行ファイルをさまざまなデバイス プロファイル タイプで利用できるため、サービス プロバイダーは、ユーザ、またはユーザ グループの **DM** でデバイス プロファイル タイプを変更するだけで、個々のユーザ、またはユーザ グループの機能パッケージを変更できます。

たとえば、サービス プロバイダーは、「**Business Communicator – PC Basic**」、「**Business Communicator – PC Executive**」、または「**Business Communicator – PC Assistant**」など、ユーザ ロールに基づいてさまざまなデバイス プロファイル タイプを持ち、個々のユーザが利用できる機能を変更できます。

受信したデバイス リスト XML に複数の一致するデバイス プロファイル タイプは含まれませんが、1 つだけであることが期待されます。

5.3 クライアントの設定

クライアントの Webex for Cisco BroadWorks バージョンは、通話機能の設定に *config-wxt.xml* ファイルを使用します。Webex には、このドキュメントには含まれていない別の設定手順があります。

5.4 config-wxt.xml の展開

該当する *config-wxt.xml* ファイルを「**Connect – Mobile**」、「**Connect – Tablet**」、および「**Business Communicator – PC**」デバイスプロファイルに追加します。Cisco BroadWorks 版 Webex は、UC-One と同じデバイス プロファイルを使用して、展開を容易にします。

メモ1: 各デバイス プロファイルに設定ファイルが存在する必要があります。

メモ2: 最新版の Webex アプリでテンプレートを最新の状態に保つことを推奨します

5.5 設定ファイル (config-wxt.xml)

_WXT サフィックスを備えた新しいカスタムタグは、Cisco BroadWorks 用の新しい Webex 構成展開をレガシークライアントと区別するために使用されます。ただし、UC-One と Webex の間で共有されるいくつかの (システム) タグはまだあります。

Cisco BroadWorks システム カスタム タグの一部は、*config-wxt.xml* 構成ファイルでも使用されます。以下の各タグの詳細については、セクション [5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ](#) を参照してください。

- %BWNWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%
- %BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%
- %BWLINEPORT-n%
- %BWAUTHUSER-n%

- %BWAUTHPASSWORD-n%
- %BWE164-n%
- %BWHOST-n%
- %BWNAME-n%
- %BWEXTENSION-n%
- %BWAPPEARANCE-LABEL-n%
- %BWDISPLAYNAMELINEPORT%
- %BWLINEPORT-PRIMARY%
- %BWE911-PRIMARY-HELDURL%
- %BWE911-CUSTOMERID%
- %BWE911-SECRETKEY%
- %BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%
- %BW-MEMBERTYPE-n%
- %BWUSEREXTID-n%
- %BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%" (Webex Calling only)

5.6 システム デフォルト タグ

システム管理者は、[システム] → [リソース] → [デバイス管理タグ設定] オプションを使用して、システムのデフォルトタグにアクセスできます。VoIP Calling パッケージがインストールされている場合は、次のシステム デフォルト タグをプロビジョニングする必要があります。

タグ	説明
%SBC_ADDRESS_WXT%	これは、ネットワークに展開されているセッション ボーダー コントローラ (SBC) の完全修飾ドメイン名 (FQDN) または IP アドレスとして設定する必要があります。 例: sbc.yourdomain.com をご覧ください。
%SBC_PORT_WXT%	SBC_ADDRESS_WXT が IP アドレスの場合、このパラメータを SBC ポートに設定する必要があります。 SBC_ADDRESS_WXT が FQDN の場合、設定せずに残すことができます。 例: 1775年の戦闘

5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ

デフォルトのシステム タグと定義する必要があるカスタム タグに加えて、通常使用され、推奨されるデバイス タイプ アーカイブ ファイル (DTAF) の一部である既存の Cisco BroadWorks システム タグがあります。これらのタグはこのセクションにリストされています。インストールされているソリューションパッケージによっては、すべてのシステムタグが使用されるわけではありません。

タグ	説明
%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%	これは N-Way 会議を有効にするために使用されるサーバー URI です。
%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%	この番号はボイスメールに使用されます。ボイスメールを取得するときに、クライアントがこの番号をダイヤルします。
%BWLINEPORT-n%	登録などで、SIP シグナリングに使用される SIP ユーザー名。
%BWHOST-n%	これは、ユーザに割り当てられたデバイスのプロビジョニングされた回線ポートのドメイン部分です。ユーザーのプロファイルから取得されます。 通常は SIP ドメインとして使用されます。
%BWAUTHUSER-n%	これは認証ユーザー名です。サブスクライバに認証が割り当てられている場合は、デバイス タイプの選択した認証モードに関係なく、[認証] ページでプロビジョニングされたユーザー ID です。 SIP ユーザー名は、通常 401 および 407 シグナリングで使用されます。デフォルトの SIP ユーザー名とは異なる場合があります。
%BWAUTHPASSWORD-n%	これはユーザーの認証パスワードです。サブスクライバに認証が割り当てられている場合、これはデバイス タイプの選択した認証モードの値に関係なく、[認証] ページでプロビジョニングされたパスワードです。 SIP シグナリングで使用される SIP パスワード。
%BWE164-n%	このタグは、国際形式でユーザーの電話番号を提供します。
%BWNAME-n%	これは、ユーザーのプロファイル内のサブスクライバーの名と姓です。姓と名は一緒に連結されます。 複数回線設定の場合、回線ラベルが設定されておらず、空でない場合は、回線セレクトの回線の表示名として使用されます。

タグ	説明
%BWEXTENSION-n%	サブスクライバの拡張機能は、ユーザのプロファイルでプロビジョニングされた拡張機能から取得されます。 内線がプロビジョニングされていない場合、タグはサブスクライバの電話番号（DN）に置き換えられます。
%BWAPPEARANCE-LABEL-n%	これは、設定された回線ラベルです。 行名として使用します（空でない場合）。
%BWDISPLAYNAMELINEPORT%	これは、共有回線（共有コール アピアランス）とは対照的に、最初のプライベート回線の回線/ポートです。 これは、ユーザに割り当てられたデバイスでプロビジョニングされた回線ポートです。 これはユーザーのプロファイルから取得されます。 ユーザーのプライマリ回線を識別するために使用。
%BWLINEPORT-PRIMARY%	プライマリ回線ポートは、ユーザに割り当てられているデバイスでプロビジョニングされます。 このタグには、プロビジョニングされた回線ポートのドメイン部分は含まれません。 ユーザーのプロファイルから取得されます。
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%	HELD プロトコルをサポートする RedSky 緊急ロケーションプラットフォームへの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	RedSky HTTPS リクエストに使用される顧客 ID（HeldOrgId、CompanyID）。
%BWE911-SECRETKEY%	RedSky HTTPS 要求を認証する秘密。

タグ	説明
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%	<p>RedSky でサポートされている緊急番号のリスト。</p> <p>このタグを使用するには、デバイス タイプで使用するタグ セットに %RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% 予約済みカスタム タグを追加する必要があります。</p> <p>「予約済み」タグには、AS_CLI/System/CallP/CallTypes > の BroadWorks で定義された緊急番号を、911、0911、933 などのカンマ区切り形式で含める必要があります。</p> <p>メモ: Webex クライアントは緊急番号でワイルドカードをサポートしていません。そのため、「予約済み」カスタム タグには正確な緊急番号のみを追加する必要があります。</p> <p>次の例は、予約されたタグ機能の使い方の例を示しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ネイティブ タグ %BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% がデバイスのテンプレート ファイルに追加されました 2) 予約済みカスタムタグ %RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% が、デバイスで使用されているタグに 911、0911、933 の値が追加されます。 3) ファイルがリビルドされると、%RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% ネイティブタグが 911、0911、933 に解決されます。
%BW-MEMBERTYPE-n%	これは各行のタイプです。それは「仮想プロフィール」、 「ユーザー」、または「場所」の1つになることができます。
%BWUSEREXTID-n%	これは指定された回線の外部 ID です (Webex Calling のみ)
%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%"	対応する回線にコール ピックアップ グループが設定されているかどうかを示します。 (Webex Calling のみ)

6 カスタムタグ

このセクションでは、Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるカスタム タグについて説明します。デスクトッププラットフォームとモバイル/タブレットプラットフォームの両方で使用されるすべてのカスタムタグが一覧表示されます。

ただし、このセクションで説明されている一部の設定は、クライアントの特定のリリースでのみサポートされています。設定が古いクライアントバージョンに適用されないかどうかを判断するには、適切なリリース固有の設定ガイドを参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/ タブレット で使 用 さ れ る	既定値	セクション
%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、「 0 共有回線アピランス 」セクションを参照してください。
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、セクション 6.2.4 /SIP 通話をミーティングにエスカレーションする (Webex Calling) を参照してください。
%ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、「 6.3.5.3 発信コール 回線ID (CLID) 」セクションを参照してください。
%ENABLE_MOBILITY_PERSONAL_MANAGEMENT_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、「 6.3.5.3 発信コール回線 ID (CLID) 」セクションを参照してください。
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	はい	はい	true	詳細については、セクション 6.1.16 着信通話拒否の動作 を参照してください。
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	いいえ	はい	拒否_フォールス	詳細については、第 6.3.2 コールのプッシュ通知 項を参照してください。
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	いいえ	はい	取り込み中	詳細については、第 6.3.2 コールのプッシュ通知 項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%ENABLE_TRANSF ER_CALLS_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.20転送項を参 照してください。
%ENABLE_CONFE RENCE_CALLS_ WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.21N-way 会議コールと参加者 項を参照してください。
%ENABLE_NWAY_ PARTICIPANT_LIST _WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.21N-way 会議コールと参加者 項を参照してください。
%MAX_CONF_PAR TIES_WXT%	はい	はい	10	詳細については、第6.1.21N-way 会議コールと参加者 項を参照してください。
%ENABLE_CALL_S TATISTICS_WXT%	はい	はい	false	詳細については、セクション6.1.24通 話の統計を参照してください。
%ENABLE_CALL_ PULL_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.22コール プル項を参照してください。
%PN_FOR_CALLS_ CONNECT_SIP_ON _ACCEPT_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、第6.3.2コールのプ ッシュ通知項を参照してください。
%ENABLE_VOICE_ MAIL_TRANSCRIPTI ON_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.28Webex Calling のボイスメールの文字起こし 項を参照してください。
%ENABLE_MWI_ WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.27ボイスメー ル、ビジュアルボイスメール、メッセ ージ待機インジケータ 項を参照してください。
%MWI_MODE_WXT %	はい	はい	空	詳細については、第6.1.27ボイスメー ル、ビジュアルボイスメール、メッセ ージ待機インジケータ 項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.27ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ項を参照してください。
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.27ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ項を参照してください。
%ENABLE_FORCE_D_LOGOUT_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、セクションを参照してください 6.2.1 強制ログアウト です。
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	はい	いいえ	空	詳細については、セクションを参照してください 6.2.1 強制ログアウト です。
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.29.1 通話転送常時 項を参照してください。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.29.3 BroadWorks Anywhere 項を参照してください。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.29.3 BroadWorks Anywhere 項を参照してください。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.29.3 BroadWorks Anywhere 項を参照してください。
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.29.3 BroadWorks Anywhere 項を参照してください。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.29.3 BroadWorks Anywhere 項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%BROADWORKS_A NYWHERE_CALL_C ONTROL_DEFAULT _WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.29.3BroadWo rks Anywhere 項を参照してください。
%ENABLE_BROAD WORKS_ANYWHER E_DIVERSION_INHI BITOR_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.29.3BroadWo rks Anywhere 項を参照してください。
%BROADWORKS_A NYWHERE_DIVERS ION_INHIBITOR_DE FAULT_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.29.3BroadWo rks Anywhere 項を参照してください。
%ENABLE_BROAD WORKS_ANYWHER E_ANSWER_CONFI RMATION_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.29.3BroadWo rks Anywhere 項を参照してください。
%BROADWORKS_A NYWHERE_ANSWE R_CONFIRMATION_ DEFAULT_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.29.3BroadWo rks Anywhere 項を参照してください。
%ENABLE_EMERG ENCY_DIALING_WX T%	いいえ	はい	false	詳細については、第 6.3.1緊急コール 項を参照してください。
%EMERGENCY_DIA LING_NUMBERS_W XT%	いいえ	はい	911、11 2	詳細については、第 6.3.1緊急コール 項を参照してください。
%ENABLE_USE_RP ORT_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.14NAT トラバーサルの SIP rport 管理 項を参照してください。
%RPORT_USE_LO CAL_PORT_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.14NAT トラバーサルの SIP rport 管理 項を参照してください。
%USE_TLS_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.2SIP Over TLS およびセキュアリアルタイム ト ランスポート プロトコル 項を参照してください。
%SBC_ADDRESS_ WXT%	はい	はい	空	詳細については、第 5.6システム デフォルト タグ 項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%SBC_PORT_WXT%	はい	はい	5060	詳細については、第5.6システム デフォルト タグ 項を参照してください。
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.6動的 SIP プロキシ検出項を参照してください。
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.6動的 SIP プロキシ検出項を参照してください。
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.6動的 SIP プロキシ検出項を参照してください。
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.6動的 SIP プロキシ検出項を参照してください。
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	はい	はい	空	詳細については、第6.1.6動的 SIP プロキシ検出項を参照してください。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.6動的 SIP プロキシ検出項を参照してください。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.6動的 SIP プロキシ検出項を参照してください。
%PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT%	Y (Windows のみ)	いいえ	false	詳細については、第6.1.6動的 SIP プロキシ検出項を参照してください。
%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	5,000	詳細については、第6.1.5SIP ソケットを開くための設定可能なタイ ムアウト項を参照してください。
%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	10000	詳細については、第6.1.5SIP ソケットを開くための設定可能なタイ ムアウト項を参照してください。
%SOURCE_PORT_WXT%	はい	はい	5060	詳細については、第6.1.7SIP の優先ポート使用状況 項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT%	はい	いいえ	true	詳細については、第 6.1.8.2SIP フェイルバック 項を参照してください。
%SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT%	はい	いいえ	900	詳細については、第 6.1.8.2SIP フェイルバック 項を参照してください。
%SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、第 6.1.8.2SIP フェイルバック 項を参照してください。
%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%	はい	はい	dnsアド レス	詳細については、第 6.1.8.3項を参照してください。IPバージョンを強制する です。
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.10REGISTER で P-Associated-URI を使用する 項を参照してください。
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	はい	はい	18000	詳細については、第 6.1.4TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーの強制 項を参照してください。
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、第 6.1.8.4DNS TTL の管理 項を参照してください。
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.12SIP UPDATE サポート 項を参照してください。
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.11SIP P-Early Media (PEM) ヘッダー 項を参照してください。
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.15SIP セッション ID 項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.13レガシー SIP INFO FIR 項を参照してください。
%SRTP_ENABLED_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.2 SIP Over TLS およびセキュアリアルタイムトランスポートプロトコル項を参照してください。
%SRTP_MODE_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.2 SIP Over TLS およびセキュアリアルタイムトランスポートプロトコル項を参照してください。
%ENABLE_REKEYING_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.2 SIP Over TLS およびセキュアリアルタイムトランスポートプロトコル項を参照してください。
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	はい	はい	8000	詳細については、第6.1.17リアルタイム転送プロトコルのポート範囲項を参照してください。
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	はい	はい	8099	詳細については、第6.1.17リアルタイム転送プロトコルのポート範囲項を参照してください。
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	はい	はい	8100	詳細については、第6.1.17リアルタイム転送プロトコルのポート範囲項を参照してください。
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	はい	はい	8199	詳細については、第6.1.17リアルタイム転送プロトコルのポート範囲項を参照してください。
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.19 RTCPのMUX 項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第 6.1.33XSI/イベント チャンネル 項を参照してください。
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	はい	はい	10000	詳細については、第 6.1.33XSI/イベント チャンネル 項を参照してください。
%XSI_ROOT_WXT%	はい	はい	空 (元の URL を使用)	詳細については、第 6.1.32XSI/ルートとパス 項を参照してください。
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	はい	はい	/com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/ /com.broadsoft.xsi-actions/	詳細については、第 6.1.32XSI/ルートとパス 項を参照してください。

[illegible]

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%WEB_CALL_SETT INGS_URL_WXT%	はい	はい	空	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%USER_PORTAL_S ETTINGS_URL_ WXT%	はい	はい	空	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%ENABLE_CALL_ CENTER_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.31コールセンター/コールキューのログイン/ログアウト項を参照してください。
%WEB_CALL_SETT INGS_TARGET_ WXT%	はい	はい	外部	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETT INGS_CFA_VISIBLE _WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETT INGS_DND_VISIBLE _WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETT INGS_ACR_VISIBLE _WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETT INGS_CFB_VISIBLE _WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETT INGS_CFNR_VISIBL E_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETT INGS_CFNA_VISIBL E_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータルおよびウェブベースの通話設定項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.30設定ポータル およびウェブベースの通話設定項を参照してください。
%USE_MEDIASEC_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.3SRTP 用 3GPP SIP ヘッダー項を参照してください。
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、第6.3.4クリックしてダイヤル (コールバック)項を参照してください。
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	いいえ	はい	10	詳細については、第6.3.4クリックしてダイヤル (コールバック)項を参照してください。
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、第6.2.3Boss-Admin (Executive-Assistant) サポート項を参照してください。
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	いいえ	はい	35	詳細については、第6.3.2コールのプッシュ通知項を参照してください。
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.26通話の録音項を参照してください。
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、第6.3.3単一のアラート項を参照してください。
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.23コールパーク/保留解除項を参照してください。
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	はい	はい	10	詳細については、第6.1.23コールパーク/保留解除項を参照してください。
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.18ICE サポート (Webex Calling のみ)項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%RTP_ICE_MODE_WXT%	はい	はい	lcestun さん	詳細については、第 6.1.18ICE サポート (Webex Calling のみ) 項を参照してください。
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	はい	はい	空	詳細については、第 6.1.18ICE サポート (Webex Calling のみ) 項を参照してください。
%RTP_ICE_PORT_WXT%	はい	はい	3478	詳細については、第 6.1.18ICE サポート (Webex Calling のみ) 項を参照してください。
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、第 6.1.8.4DNS TTL の管理 項を参照してください。
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、第 6.2.4SIP 通話をミーティング 項を参照してください。
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTOMATICALLY_TO_ANSWER_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、第 6.2.5卓上電話制御通話 - 自動応答 項を参照してください。
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	いいえ	はい	true	詳細については、セクションを参照してください 6.3.5 MNO サポート ネイティブダイヤラーとの通話 です。
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、セクションを参照してください 6.3.5 MNO サポート ネイティブダイヤラーとの通話 です。
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第 6.1.35SIP-URI ダイヤリング 項を参照してください。
%ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第 6.1.37ビデオ通話を無効にする 項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第6.1.37ビデオ通話 を無効にする項を参照してください。
%VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT%	はい	はい	デスクトップ - true モバイル/ タブレット - false	詳細については、第6.1.37ビデオ通話 を無効にする項を参照してください。
%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.38緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケ ーションレポート 項を参照してください。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	0	詳細については、第6.1.38緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケ ーションレポート 項を参照してください。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	はい	はい	-1	詳細については、第6.1.38緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケ ーションレポート 項を参照してください。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	はい	はい	一度ロ ゲイン する	詳細については、第6.1.38緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケ ーションレポート 項を参照してください。
%ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、第6.2.6トーン通知 による自動応答 項を参照してください。
%ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.41スパム通話 の表示項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.42PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張項を参照してください。
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.46.2転送エラー修正 (FEC) およびパケット再送信 (RTX)項を参照してください。
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.46.2転送エラー修正 (FEC) およびパケット再送信 (RTX)項を参照してください。
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.46.2転送エラー修正 (FEC) およびパケット再送信 (RTX)項を参照してください。
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.46.2転送エラー修正 (FEC) およびパケット再送信 (RTX)項を参照してください。
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.45ブロックリスト (Webex Calling のみ)項を参照してください。
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	いいえ	はい	true	詳細については、第6.3.5.6MNO モビリティ - 通話中のウィジェット項を参照してください。
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	いいえ	はい	true	詳細については、第6.3.5.6MNO モビリティ - 通話中のウィジェット項を参照してください。
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	いいえ	はい	true	詳細については、第6.3.5.6MNO モビリティ - 通話中のウィジェット項を参照してください。
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.47同じユーザーとの同時通話項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、セクションを参照してください 0 リモート ミュート制御イベント パッケージ (Webex Calling のみ) です。
%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第 6.1.29.2 ボイスメールへのコール転送 項を参照してください。
%SIP_REGISTER_FAIL_OVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第 6.1.8.1 SIP フェールオーバー 項を参照してください。
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、第 6.2.15 通話を移動 項を参照してください。
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 Error! Reference source not found 項を参照してください。
%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%	いいえ	はい	空	詳細については、第 6.3.5.1 ネイティブダイアラーとの通話 項を参照してください。
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第 6.1.20 転送 項を参照してください。
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	はい	はい	true	詳細については、第 6.1.48 RTCP-XRについて 項を参照してください。
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、第 Error! Reference source not found Error! Reference source not found 項を参照してください。
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、第 Error! Reference source not found Error! Reference source not found 項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%ENABLE_CLID_O UTGOING_CALLS_ WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、第6.1.50発信者 ID (Webex Calling のみ) 項を参照してください。
%ENABLE_CLID_O UTGOING_CALLS_ ADDITIONAL_NUMB ERS_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、第6.1.50発信者 ID (Webex Calling のみ) 項を参照してください。
%ENABLE_CLID_O UTGOING_CALLS_ CALL_CENTER_WX T%	いいえ	はい	false	詳細については、第6.1.50発信者 ID (Webex Calling のみ) 項を参照してください。
%ENABLE_CLID_O UTGOING_CALLS_ HUNT_GROUP_WX T%	いいえ	はい	false	詳細については、第6.1.50発信者 ID (Webex Calling のみ) 項を参照してください。
%ENABLE_CLID_O UTGOING_CALLS_ DELIVERY_BLOCKI NG_WXT%	いいえ	はい	false	詳細については、第6.1.50発信者 ID (Webex Calling のみ) 項を参照してください。
%ENABLE_CALL_F ORWARDING_INFO _CALLS_WXT%	はい	はい	false	詳細については、第6.1.49コール転送 情報項を参照してください。
%ENABLE_BUSY_L AMP_FIELD_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、セクション6.2.8.1に ぎやかなランプ畑 を参照してください。
%ENABLE_BLF_DIS PLAY_CALLER_WX T%	はい	いいえ	true	詳細については、セクション6.2.8.1に ぎやかなランプ畑 を参照してください。
%BLF_NOTIFICATI ON_DELAY_TIME_ WXT%	はい	いいえ	0	詳細については、セクション6.2.8.1に ぎやかなランプ畑 を参照してください。
%ENABLE_GCP_N OTIFICATIONS_WX T%	はい	いいえ	false	詳細については、第6.2.8.2コール ピックアップグループ (Webex Calling のみ)項を参照してください。

タグ	デスクトップで 使用される	モバイル/タブ レット で使用 される	既定値	セクション
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	はい	いいえ	false	詳細については、第 6.2.8.2コール ピックアップグループ (Webex Calling のみ) 項を参照してください。
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	はい	いいえ	120	詳細については、第 6.2.8.2コール ピックアップグループ (Webex Calling のみ) 項を参照してください。

Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるカスタム タグを UC-One で使用されるタグにマッピングする方法の詳細については、セクション [8Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング](#) を参照してください。

6.1 一般的な機能

6.1.1 SIP サーバーの設定

クライアントは通常、*config-wxt.xml* ファイルを修正して SIP ネットワークを使用するように設定されます。通常、次のパラメータを変更する必要があります。

- **SIP ドメイン。** これは、SIP ヘッダーおよびリモート (XSI) コールで一般に、独自の SIP URI のドメイン部分として使用されます (独自の SIP URI は回線ポートとも呼ばれます)。独自の SIP URI のユーザ部分は、SIP クレデンシャル設定 (<credentials> の下のパラメータ <username>) から取得します。
- **DNS 解決に失敗した場合、SIP プロキシ サーバの SIP サーバ URI または IP アドレス。** TLS を使用するには、TLS 証明書の検証が失敗するため、プロキシ パラメータで IP アドレスを使用できません。プロキシ ポートの詳細については、DM タグ %SOURCE_PORT_WXT% を参照してください。プロキシ アドレス パラメータで IP アドレスを使用する場合、DNS TTL 管理機能を使用できないことに注意してください。一般的に、これらの理由から、このフィールドに IP アドレスを使用することはお勧めできません。

その他のパラメータを変更して、通話のさまざまな機能を有効にすることもできます。ただし、以前の設定では、次の基本的な機能を有効にします。

- SIP ネットワークに登録します。
- 音声またはビデオ通話を発信する。
- 複数のプロキシを使用できる DNS ベースのプロキシ検出を実行します。

SIP 登録が有効になると、MWI の SIP SUBSCRIBE を有効にするには、別の設定パラメータを使用して行う必要があります。ボイスメールの詳細については、セクション [6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ](#) を参照してください。

SIP コールが無効になっている場合でも、MWI では基本的な SIP 設定が常に必要であることに注意してください。MWI は SIP NOTIFY に依存します。

SIP サーバのセットアップは、次の基本スキームに従います。

- プロキシ アドレスには SIP サーバ URI が含まれます。
- 定義できるプロキシは 1 つのみです。
- DNS プロキシ検出は、DNS の適切なセットアップを必要とする多くのプロキシをサポートします。

さらに、SIP タイマーは設定ファイルで公開されます (変更は推奨されません)。

```
<config>
<protocols>
<sip>
  <timers>
    <T1>500</T1>
    <T2>4000</T2>
```

```
<T4>5000</T4>
</timers>
```

- **T1** - ネットワークの往復遅延の時間（ミリ秒）。
- **T2** - 非招待要求と招待応答を再送信するまでの最大時間（ミリ秒）。
- **T4** - メッセージがネットワークに残るまでの最大時間（ミリ秒）です。

各回線には、ボイスメール番号、会議 **URI**、ドメイン、**SIP** 認証資格情報などの独自のパラメータがあります。必要に応じて、**401** シグナリングと **407** シグナリング用に別のクレデンシャルを設定できます。

次の例と表は、**SIP** 設定に使用される最も典型的な **DM** タグに関する情報を提供します。

```
<config>
<protocols><sip>
<lines multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
  <line>
    <label>%BWAPPEARANCE-LABEL-1%</label>
    <name>%BWNAME-1%</name>
    <phone-number>%BWE164-1%</phone-number>
    <extension>%BWEXTENSION-1%</extension>
    <external-id>%BWUSEREXTID-1%</external-id>
    <voice-mail-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%</voice-mail-number>
    <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-1%</conference-service-uri>
    <domain>%BWHOST-1%</domain>
    <credentials>
      <username>%BWLINEPORT-1%</username>
      <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
      <auth>
        <auth401>
          <default>
            <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
            <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
          </default>
          <realm id="%BWHOST-1%">
            <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
            <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
          </realm>
        </auth401>
        <auth407>
          <default>
            <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
            <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
          </default>
          <realm id="%BWHOST-1%">
            <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
            <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
          </realm>
        </auth407>
      </auth>
    </credentials>
  </line>
  ...
</lines>
<proxy address="%SBC_ADDRESS_WXT%" port="%SBC_PORT_WXT%" />
```



```
<preferred-port>%SOURCE_PORT_WXT%</preferred-port>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%BWLINEPORT-n%	空	文字列	通常、SIP ユーザ名。 詳細については、セクション 5.7Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ を参照してください。 例: ジョンドー
%BWAUTHPASSWORD-n%	空	文字列	通常、SIP パスワード。 詳細については、セクション 5.7Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ を参照してください。 例: 秘密パスワード
%BWE164-n%	空	電話番号	国際形式でのユーザーのデフォルトの電話番号。 詳細については、セクション 5.7Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ を参照してください。 例: 12345678
%SBC_ADDRESS_WXT%	空	文字列	詳細については、セクション 5.6システム デフォルト タグ を参照してください。 例: sbexample.domain.com (sbexample.domain.com)
%SBC_PORT_WXT%	5060	番号	詳細については、第 5.6システム デフォルト タグ 項を参照してください。 例: 5060
%BWHOST-n%	空	文字列	通常は SIP ドメインとして使用されます。 詳細については、セクション 5.7Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ を参照してください。 例: 「exampledomain.com」

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SOURCE_PORT_WXT %	5060	番号	通常、 <i>preferred-port</i> パラメータに使用します。 詳細については、第 6.1.7 SIP の優先ポート使用状況 項を参照してください。 例: 5061
%BWUSEREXTID-n%	空	文字列	(Webex Calling のみ) 回線の外部 ID を保持します 詳細については、 6.2.13 仮想回線 (Webex Calling のみ) を参照してください。 例: 30f69bf7-710b-4cd0-ab4b35ab393a1709

メモ: モバイル端末で標準 SIP ポート (5060) を使用する際に発生する既知の問題のため、SIP ポートを 5060 以外 (5075 など) にすることが強く推奨されています。

6.1.2 SIP Over TLS およびセキュア リアルタイム トランスポート プロトコル

クライアントは、メディア暗号化のために TLS およびセキュア リアルタイム トランスポート プロトコル (SRTP) を介した SIP シグナリングを使用するように設定できます。ただし、次の例に示すように、これらの機能を設定で有効にする必要があります。また、動的 SIP プロキシ検出を使用する場合、DNS SRV の優先順位はこのような静的パラメータ (%USE_TLS_WXT%) を上書きし、DNS SRV で優先順位が高い場合は非 TLS 転送が使用されます。動的 SIP プロキシ検出の詳細については、セクション [6.1.6 動的 SIP プロキシ検出](#) を参照してください。

動的プロキシ検出が使用されない場合、SIP の TLS を有効にすると、その検出が使用されます。

ネットワークで SIP ALG が使用されている場合の SIP ポートおよびトランスポートプロトコルの推奨事項の詳細については、『*Webex for Cisco BroadWorks ソリューション ガイド*』を参照してください。

使用する証明書は有効である必要があることに注意してください。さらに、中間証明書もリンクされるように、証明書チェーンは無傷でなければなりません。広く使用されている証明書は、既定でデバイス上に存在するように使用することをお勧めします。通常、これは行われませんが、デスクトップマシンに証明書を手動または一括プロビジョニングを使用してローカルに追加することもできます。

メディア暗号化に関連する **SRTP** を有効にするには、別の設定があります。

RTPに加えて、RTCPトラフィックは、前の設定を使用してRTPと同じメカニズムで保護できます。

SIP/TLS暗号については、[付録A: TLS 暗号を参照してください](#)。

SRTP は、メディア ストリームのセキュリティを 3 つの異なる側面で提供するために使用されます。

- 機密性（データは暗号化されています）
- 認証(相手方または当事者の身元保証)
- 誠実さ(リプレイ攻撃などの対策)

メディアフレームワークの現在のバージョンは、保護用の **AES 128 Counter Mode** と、認証用の **Hash Message Authentication Code (HMAC)-SHA-1** をサポートしています。 マスターキーのサイズは16バイトで、マスターソルトは14バイトです。

メディア フレームワークは、フル（80 ビット）認証タグとショート（32 ビット）認証タグの両方をサポートします。 クライアントは、**SIP** シグナリングの一部として **SDP** 内のキーを交換し、コールの両側は使用するキーを反対側に送信します。

SRTP は、次の例に示す設定を使用して有効にできます。 現在の実装では、**SDP** セキュア RTP プロファイルのみが使用され、**Audio Visual Profile (AVP)** および **Secure Audio Visual Profile (SAVP)** エントリ用のマルチライン **SDP** がサポートされています。 SRTP の実装は、さまざまな **SBC** を使用した通常の展開設定で正常にテストされています。 **AVP** プロファイルを使用した暗号化のみをサポートするエンドポイントとの相互運用性テスト (IOT) はサポートされていません。

SRTP に関連するマルチライン **SDP** 手順を実装し、複数の **m** ラインを常に使用できるようにします。 **AVP**と**SAVP**には別々の**m**線が使用されます。

ただし、**SBC** 設定には慎重に考慮する必要があります。特に、**SDP** の **RTP/SAVP** に関連付けられている着信「**m=**」回線が削除されないようにする必要があります。これは、場合によっては **SRTP** コールがブロックされる可能性があるためです。

しかし、いくつかの異なるネットワーク構成が可能であり、一部の展開では**SBC**がメディアトラフィックに関与しない一方、他の展開では、**SBC**に対する各クライアント**RTP**メディアレッグは、**SBC**を介して個別に暗号化およびネゴシエートされます。一部の展開では、**SBC** は複数の **SDP** 回線を許可しません。

SBC は、コールセットアップ時に **SDP m** 回線の順序を変更し、**AVP**（非暗号化）または **SAVP**（暗号化）**m** 回線を最初に設定することもできます。したがって、最初の動作する**m**ラインを選択するクライアントは、暗号化または暗号化されていないトラフィックのいずれかを好むように作られています。 さまざまな **SRTP** 設定オプションは次のとおりです。

- 必須 – 通話設定では、最初の **SDP** には、提供時に **SAVP m-line** のみが含まれており、応答時に **SDP** で **SAVP m-line** のみを受け入れるため、**SRTP** 通話のみが可能です。

- 優先 - コールセットアップでは、最初の SDP には AVP と SAVP m ラインの両方が含まれますが、SAVP は最初に提供され、優先順位を表示します。応答時に、最初の m 回線ではない場合でも利用可能な場合、クライアントは SAVP を選択します (SIP 仕様に従い、応答時に m 回線の順序は変更されません)。
- オプション - コールセットアップ時、最初の SDP には、提供時に SAVP と AVP の M 行の両方が含まれますが、AVP は最初に優先順位を表示します。応答すると、クライアントは最初の m 回線、AVP または SAVP を選択します。
- SRTP が有効になっていない - 提供する際に、最初の SDP に SAVP m-line がありません。応答時に SAVP は受け入れられないため、RTP コールのみ可能です。
- [転送 (Transport)]: 転送プロトコルに基づいて SRTP モードを自動的に選択します。TLS を使用する場合、必須 SRTP モードが有効になります。TCP または UDP を使用する場合、SRTP は使用されません。

SRTP と RTP は、コールの両方向で対称です。つまり、プロフィールの送受信は同じです。

```
<config>
<protocols><sip>
<secure>%USE_TLS_WXT%/</secure>
```

```
<config>
<protocols><rtp>
<secure enabled="%SRTP_ENABLED_WXT%" mode="%SRTP_MODE_WXT%" rekey-
always="%ENABLE_REKEYING_WXT%"/>
```

SRTP が有効になっている場合は、Secure Real-Time Control Protocol (SRTCP) も使用されます。

一部の展開では、SRTP の再キーはサポートされていません。したがって、SRTP 再キーを有効または無効にする設定パラメータがあります。ただし、rfc3264に従って更新されたSDPで受信された場合は常に新しいキーが使用されます。コンフィギュラビリティは、新しいキーの送信にのみ適用されます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_TLS_WXT%	false	true、false	<p>「false」に設定すると、SIP TLS は無効になります。</p> <p>「true」に設定すると、SIP TLS が有効になります。</p> <p>6.1.6動的 SIP プロキシ検出</p> <p>を使用する場合、このパラメータは無視されることに注意してください。</p>

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SRTP_ENABLED_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、SRTPは無効になります。 「true」に設定すると、SRTPが有効になります。
%SRTP_MODE_WXT%	オプション	必須、推奨、オプション、転送	コール設定での優先 SRTPの方法を定義します。 デフォルト値は「オプション」です。
%ENABLE_REKEYING_WXT%	true	true、false	SRTP の SIP (SDP) 再キーを有効にします。

メモ: ICE サポートが有効になっている場合 (6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ) を参照)、再キーは常に実行されます (構成からの %ENABLE_REKEYING_WXT% の値は無視されます)。

6.1.3 SRTP 用 3GPP SIP ヘッダー

新しい 3GPP 仕様では、セキュア リアルタイム トランスポート プロトコル (SRTP) を使用するには、追加の SIP ヘッダーが必要です。詳細については、3GPP TS 24.229 および以下を参照してください。

<https://tools.ietf.org/html/draft-dawes-dispatch-mediasec-parameter-07>

この仕様で要求されるヘッダーは、この仕様が使用されていない展開で SIP コールを切断する場合があります。したがって、これらのヘッダーは、サーバ側がサポートしている環境でのみ使用することを推奨します。

ヘッダーの使用を有効にすることだけが設定可能です。個々のヘッダーにはこれ以上の設定機能はありません。すべてのヘッダーが有効または無効になっています。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-mediasec enabled="%USE_MEDIASEC_WXT%"/>
```

次のタグがこの機能を制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_MEDIASEC_WXT%	false	true、false	SRTP ネゴシエーションの 3GPP SIP ヘッダーを有効にします。

6.1.4 TCP、TLS、または UDP の使用とキーパリーブの強制

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、SIP シグナリングと RTP メディアの両方に TCP、TLS、UDP のいずれかを使用するように設定できます。クライアントのデフォルトは TCP であることに注意してください。TCP キープアライブがない場合、SIP TCP 接続は非アクティブ状態の期間が経過した後に閉じられることに注意してください。

次の例では、この設定ノードを示します。

```
<config>
<protocols><sip>
<transports>
  <tcp-size-threshold>%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%/tcp-size-threshold>
```

次のタグは、クライアントが TCP または UDP を使用するかどうかを制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値 (バイト)	説明
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	0	0	TCP を使用するように強制します。 クライアントに TCP または UDP を使用する決定はサービスプロバイダ次第ですが、デフォルト値「0」で TCP を使用することをお勧めします。
	0	1 から 99,000	メッセージ サイズがここで指定した値より低い場合、UDP を強制的に使用します。 メッセージサイズが設定値より大きい場合、デフォルトで TCP になります。UDP を使用するには、1500 がデフォルトの推奨です。
	0	100000	UDP を使用するように強制します。

同じ設定ノードには、次の例に示すように、UDP、TCP、および TLS キープアライブのパラメータもあります。

```
<config>
```

```
<protocols><sip>
<transports>
  <udp>
    <keepalive enabled="true">
      <timeout>20</timeout>
      <payload>crlf</payload>
    </keepalive>
  </udp>
  <tcp>
    <keepalive enabled="false">
      <timeout>0</timeout>
      <payload></payload>
    </keepalive>
  </tcp>
  <tls>
    <keepalive enabled="false">
      <timeout>0</timeout>
      <payload></payload>
    </keepalive>
  </tls>
</transports>
```

可能なパラメータは次のとおりです。

- **TCPまたはTLSキープアライブ**を有効にする、可能な値 - **true/false**、ノードがない場合はデフォルトは「**false**」です。この機能が有効になっている場合、SIPに**UDP**トランスポートが使用されている場合でも、**TCP**キープアライブが送信されることに注意してください。
- **UDPキープアライブ**を有効にする、可能な値 - **true/false**、ノードが見つからない場合のデフォルトは「**false**」です。この機能が有効になっている場合、SIPに**TCP**トランスポートが使用されている場合でも、**UDP**キープアライブが送信されることに注意してください。さらに、SIPに**TCP**が使用されている場合でも、クライアントは**RFC 3261**に従って**UDP**経由のトラフィックも受け入れます。
- タイムアウトは、キープアライブメッセージが送信された後の非アクティブ状態の最大時間を秒単位で指定します。値がないということは、プロトコルで**keepalive**が無効になっていることを意味します。
- **keepalive**メッセージのペイロード、可能な値（値がないということは、プロトコルで**keepalive**が無効になっていることを意味します）：
 - **Crlf**（クレフ）
 - **Null**（使用しない）
 - カスタム文字列（**使用不可**）

```
<config>
<protocols><sip>
<transports>
  <tcp-size-threshold>%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%</tcp-size-threshold>
  <udp>
    <keepalive enabled="true">
      <timeout>20</timeout>
      <payload>crlf</payload>
    </keepalive>
  </udp>
```

```
<tcp>
  <keepalive enabled="false">
    <timeout>0</timeout>
    <payload></payload>
  </keepalive>
</tcp>
```

キーパリーブは、NATトラバーサルのために使用して、NATバインディングをわずかな余分なトラフィックで開いたままにすることができます。

キーパリーブのサーバの IP アドレスとポートは、SIP プロキシ検出の通常の手順を使用して決定されます。SIP ポートと SIP 動的プロキシ検出を介して取得したトランスポートプロトコルの選択は、静的ポートまたはトランスポート設定を上書きすることに注意してください。動的プロキシ検出の詳細については、セクション [6.1.6動的 SIP プロキシ検出を参照してください](#)。

6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト

以前は、SIP ソケットを開くタイムアウトは TCP では 5 秒、TLS では 10 秒にハードコードされていました。これらのタイムアウトは設定可能になりました。

```
<config>
  <protocols>
    <sip>
      <transports>
        <udp>
          ...
        </udp>
        <tcp>
          ...
          <connect-
timeout>%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%</connect-timeout>
          </tcp>
          <tls>
            <connect-
timeout>%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%</connect-timeout>
            </tcp>
          </transports>
```

次のタグは、ソケット接続タイムアウト（ミリ秒）を制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	5,000	<integer> - ミリ秒単位のタイムアウト	TCP トランスポートが使用されたときのソケット接続タイムアウト。
%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	10000	<integer> - ミリ秒単位のタイムアウト	TLS トランスポートが使用されたときのソケット接続タイムアウト。

6.1.6 動的 SIP プロキシ検出

SIP 動的プロキシ検出機能を有効にするには、次の例を参照してください。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy-discovery enabled="%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%"
tcp="%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%" udp="%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%"
tls="%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%">
  <record-name>%SBC_ADDRESS_WXT%</record-name>
  <domain-override>%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%</domain-override>
</proxy-discovery>
</config>
```

DNS SRV からのトランスポートプロトコルのエントリは、このセクションで提供される手順に従って多くが利用可能な場合にどのトランスポートプロトコルエントリが使用されるかを制御できます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	false	true、false	音声およびビデオ コールの動的 SIP プロキシ検出を有効にします。 推奨値は「true」です。
%SBC_ADDRESS_WXT%	空	文字列	この Cisco BroadWorks タグは通常、レコード名パラメータに使用されます。有効な URL である必要があります。IP アドレスであるべきではありません。 詳細については、 第5.6システム デフォルト タグ 項を参照してください。 例: sbc.domain.com (sbc.domain.com)
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	空	文字列	このカスタムタグは、ドメインオーバーライドに使用されます。 詳細については、次のセクションを参照してください。 例: その他.domain.com
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル (TCP) の DNS SRV 結果は破棄されます。 「true」の場合、このトランスポートプロトコル (TCP) の DNS SRV の結果が使用されます。SRVの優先順位に応じて、別のトランスポートが選択される場合があります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル（UDP）の DNS SRV 結果は破棄されます。 「true」の場合、このトランスポートプロトコル（UDP）の DNS SRV の結果が使用されます。SRVの優先順位に応じて、別のトランスポートが選択される場合があります。
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル（TLS）の DNS SRV 結果は破棄されます。 「true」の場合、このトランスポートプロトコル（TLS）の DNS の結果が使用されます。SRVの優先順位に応じて、別のトランスポートが選択される場合があります。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT%	true、false	true	DNS バックアップサービスを有効または無効にします。 有効にすると、SIP プロキシ アドレスに対して A/AAAA 解決が実行されます。SRV/NAPTR サービス検出が有効になっている場合にのみ考慮されます。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT%	true、false	true	「true」に設定し、NAPTR サービス ディスカバリが失敗するか、結果を返さない場合、設定されたホストに対して SRV サービス ディスカバリが実行されます。 「false」に設定すると、SRV 検出は実行されません。
%PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT%	true、false	false	OS DNS キャッシュのバイパスを可能にします。

DNS を使用すると、クライアントは RFC 3263 に従って SIP プロキシの IP アドレス、ポート、およびトランスポートプロトコルを取得できます。

DNS SRV、Naming Authority Pointer（NAPTR）、および A レコードクエリがサポートされています。ログイン時、3ステップのフローは次のとおりです。

1. 上記の<record-

name>フィールドを使用してNAPTRクエリを実行し、トランスポートプロトコルを含むサーバURIを取得します。 <record-

name>パラメータの値は、DNSが解決する完全なドメインである必要があり、IPアドレスにすることはできません。

2. SRV クエリを使用して NAPTR クエリで見つかった項目を解決し、最終的なサーバ URI

とポートを取得します。 SRV クエリで使用されるドメイン部分は、NAPTR

クエリの結果から取得され、最終的なサーバ URI（およびポート）を検索します。 DNS

SRV クエリから受信したポートは、DNS SRV エントリが利用可能な場合に使用されます。

ポートは、設定ファイルからのみ設定ファイルのスタティック プロキシに適用され、SRV を使用して解決された URI には適用されないことに注意してください。

さまざまなレコード名の使用方法については、次の例を参照してください。

NAPTR が見つからない場合、クライアントは<domain>

パラメータから取得したレコード名で SRV クエリを試します。ただし、<domain-override>

パラメータが存在し、<domain-override> が使用され、TCP、UDP、および TLS

(*_sip_protocol* [UDP、TCP、または TLS])

の個別のエントリを自動的に検索しようとします。 Stream Control Transmission

Protocol (SCTP) はサポートされていません。 SRV

クエリで結果が得られない場合、プロキシ検出は失敗し、エンド

ユーザにはコールが利用できないことを示すエラーが表示されます。 この場合、SIP

登録はありません。 ただし、すべての SRV

クエリが失敗した場合、またはそこで受信したサーバが機能しない場合でも、フォールバック

として、クライアントは設定されたスタティック

プロキシが機能するかどうかをチェックします。これは、<PROXY ADDRESS>

で指定された URI への A クエリのみで、動作する SIP 登録を提供する IP

アドレスを生成するかどうかを確認するためです。

この最後の手段の場合、ポートとトランスポートは*tcp-*

*threshold*と<*secure*>のパラメータから実行されます。

3. A レコードクエリを使用して検出された URI を解決します。受信した最終的な IP アドレスは、SIP プロキシへの作業接続を取得するために受信された順序で試行されます。この順序は、DNS のサービス プロバイダーによって定義できます。A レコードルックアップが成功する最初の SIP プロキシ URI が選択され、動作しなくなるか、クライアントがログアウトするまで使用されます。A-query ステップでは、複数の IP アドレスが受信された場合でも、一度に1つのアドレスだけが使用されます。ただし、すべての SRV エントリは、ログアウトまたはネットワークが失われるまで解決されます。

重要な注記

メモ1: DNS プロキシ検出により、トランスポートプロトコルの動作する SIP プロキシ URI を受信して SRV ステップでトランスポートプロトコルを選択すると、設定ファイルで UDP または TCP を選択するために通常使用される `tcp-threshold` パラメータが上書きされます。これは、SIP/TLS の設定にも適用されます。DNS の優先度に応じて TCP または UDP が使用されます。

メモ2: SRV

経由で受信された項目は、設定ファイルの静的プロキシよりも優先されます。NAPTR 順序は参照されず、SRV 優先順位のみカウントされます。SRV がトランスポートプロトコル、優先順位、重量が等しい複数の項目で発生した場合、受信した項目はランダムに選択されます。このリリースでは NAPTR ウェイトはサポートされていませんが、SRV ウェイトはサポートされています。SRV の優先順位を最初に確認し、同じ優先順位の項目については、次に特定のサーバが試行される可能性を決定するために重み付けを行います。

注3: オプション の `domain-override` パラメータを使用すると、NAPTR の結果が省略されたときに、SIP ドメイン設定パラメータの名前以外の A レコード名を SRV で解決できます。 `domain-override` パラメータの使用例については、次の例を参照してください。

注4: クライアントは DNS 操作にオペレーティングシステム プリミティブを使用し、通常は DNS 応答の TTL を尊重するために DNS 応答がキャッシュされます。

注5: NAPTR レコードの DNS タイプ (サービス) は RFC 3263

手順に従う必要があります。そうしないと、DNS 解決に失敗する可能性があります。
たとえば、SIP over TLS には SIPS+D2T を使用する必要があります。

注6: クライアントは、NAPTR

サービスの特定のプレフィックスのみをサポートします。

以下に、サポートされているプレフィックスを示します。

SIP+D2U -> _sip._udp

SIP+D2T -> _sip._tcp

SIPS+D2T -> _sips._tcp

SIPS+D2T -> _sips._tls

NAPTR 応答に、サービス

タイプと一致しないプレフィックスのレコードが含まれている場合、このレコードは無視されます。

例 1: ドメインオーバーライド設定パラメータなしで DNS プロキシ検出を使用する

以下は、SIP over TCP のみを使用され、ステップ 1 の NAPTR

クエリが結果を返すときに、SIP プロキシ検出を使用した設定の例です。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true" >
  <record-name>record-domain.com</record-name>
  <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

この結果、プロトコル レベルでは次の手順を実行します。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIP+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.
2. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.
3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4
```

その結果、SIP 登録はポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して TCP 経由で、IP アドレス 1.2.3.4 に対して行われます。

例 2: 設定ファイルで domain-override パラメータを使用する

以下は、SIP ドメインがプロキシ ドメインと異なり、UDP 上の SIP のみが使用され、NAPTR クエリが結果を返さない SIP プロキシ検出を使用した設定の 2 番目の例です。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true">
  <record-name>record-domain.com</record-name>
  <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコルレベルでは次の手順を実行します。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, no answer.
2. SRV query for _sip._tcp.override-domain.com (from configuration file),
answer
_sip._tcp.override-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.override-domain.com.
3. A-record query for test.override-domain.com, answer:
test.sipgeooverride-domain.com. 16 IN A 4.3.2.1
```

その結果、SIP 登録はポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して UDP 経由で、IP アドレス 4.3.2.1 に対して行われます。

例 3: SRVの優先順位の使用

次の例は、SIP over TCP のみが使用され、ステップ 1 の NAPTR クエリが結果を返すときに、SIP プロキシ検出を使用した設定の例ですが、異なる優先順位を持ついくつかの NAPTR レコードと SRV レコードが受信されます。この場合、このリリースイベントでは SRV の優先度だけが重要になりますが、さまざまな優先度を持ついくつかの NAPTR レコードも受信されます。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true">
  <record-name>record-domain.com</record-name>
  <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコルレベルでは次の手順を実行します。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIPS+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.
28591 IN NAPTR 120 10 "S" "SIPS+D2U" "" _sip._udp.test.sip.record-domain.com.

2. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
```

```
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.

SRV query for _sip._udp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._udp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
20 10 5062 test.sipgeo.record-domain.com.

3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4
```

その結果、SIP 登録は、ポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して TCP を介して、UDP と TCP の両方をサポートする IP アドレス 1.2.3.4 に対して行われます。

例4: サービスがサービスタイプと一致しない場合に、NAPTR で DNS プロキシ検出を使用する

以下は、SIP over

TCPとTLSが使用され、ステップ1のNAPTRクエリが結果を返すときに、SIPプロキシ検出を使用した設定の例です。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true" tcp="true" udp="false" tls="true">
  <record-name>record-domain.com</record-name>
  <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

この結果、プロトコル レベルでは次の手順を実行します。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIPS+D2T" "" _sip._tls.test.sip.record-
domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIP+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.

2. For the first record we have service type "SIPS+D2T" and the prefix is
"sip._tls.". Since this prefix doesn't match the service type (see Note 6
above) it will be ignored.

3. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.

3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4
```

その結果、SIP 登録はポート 5061 (SRV ステップで受信) を使用して TCP 経由で、IP アドレス 1.2.3.4 に対して行われます。

6.1.7 SIP の優先ポート使用状況

別のソフトウェアパッケージがクライアントと同じマシンで実行され、デフォルトの SIP ポートを占有している場合があります。SIP に別のポートを使用するようにクライアントを設定するには、*preferred-port* パラメータを使用できます。クライアントは、*preferred-port* パラメータで指定された設定されたポート値を使用しようとしませんが、使用すると、クライアントは設定された値を超えるポート値を段階的に試行します。たとえば、優先ポートの値が「6000」で、そのポートが取得された場合、クライアントは未使用のポートを見つけるまで、6001、6002、6003などを試行します。未使用のポートが見つかったら、それを独自の SIP 通信に使用します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SOURCE_PORT_WXT%	5060	番号	通信に優先するローカル SIP ポートを指定します。 例: 5060

6.1.8 SIP フェールオーバーとフェールバック

SIP フェールオーバーとフェールバックは、Cisco BroadWorks の手順に従います。このためには、複数のプロキシ（通常は SBC）を設定する必要があります。

クライアント側では、プロキシを複数の IP アドレスに解決する必要があります。次のいずれかの方法でこれを実現できます。

- SIP プロキシ検出が有効になっており、DNS サーバに SBC FQDN の NAPTR および/または SRV レコードがあります（セクション [6.1.6動的 SIP プロキシ検出](#) を参照）。または
- SIP プロキシ アドレスは FQDN として提供され、複数の IP アドレスに解決されます（セクション [6.1.1SIP サーバーの設定](#) を参照）。

オペレーティング システム DNS キャッシュは、不要な DNS トラフィックを回避するために使用されます。リスト内の IP アドレスの最大数にハードコードされた制限はありません。

サインイン時に、複数の IP アドレスが解決された場合、それらは優先順位によって順序付けられます。クライアントは最初に使用可能な IP アドレスを使用し始めます。

6.1.8.1 SIP フェールオーバー

SIP フェールオーバーは、ソケットエラー、リクエストタイムアウトエラー、またはサーバからの決定的なエラー応答のいずれかによってトリガーされる場合があります。

- ソケットエラー - ネットワーク接続が失われた場合と同様に、クライアントとサーバ間のソケットが壊れているか閉じている場合、クライアントはすぐに反応し、フェールオーバーをトリガーします。
- タイムアウト（SBC がハングする場合など） - SIP T1 に基づく：
 - SIP INVITE - INVITE リクエストがタイムアウトすると、クライアントは次の利用可能な SBC (IP) に登録され、INVITE を再試行します。
 - 別の SIP リクエスト - クライアントは次の利用可能な SBC (IP) に登録しようとします。
- サーバから受け取った決定的なエラー応答：
 - サーバから SIP REGISTER への次の SIP エラー応答は、フェールオーバーをトリガーします。
 - 5日
 - FCトウルク
 - SIP REGISTER に対する次の SIP 4xx 応答は、フェールオーバーを引き起こしません。
 - 401 権限がありません
 - 403 Forbidden
 - 404 見つかりません
 - 407 プロキシ認証が必要です
 - 423 インターバルが短すぎます
 - さらに、SIP INVITE への 4xx エラー応答はフェールオーバーをトリガーしませんが、5xx と 6xx はフェールオーバーをトリガーします。

フェールオーバーがトリガーされると、クライアントはリストから次の使用可能な IP アドレスを取得します。SIP T1 タイマーは、リスト上のプロキシが次のプロキシに移動する前に試行される時間を定義します。通常、32 秒の値が使用されます（64*T1）。すべての IP アドレスが失敗した場合、クライアントは SIP 接続のユーザ インターフェイス エラーを表示します。フェールオーバーが発生したときに VoIP コールが進行中の場合、コールは終了します。

SIP フェールオーバー ロジックは、いくつかの設定パラメータに依存します。

- SIP フェールオーバータイマー - SIP タイマー T1、T2、および T4 は設定ファイルで公開されますが、変更することは推奨されません。

```
<config><protocols><sip>
<timers>
  <T1>500</T1>
  <T2>4000</T2>
```

```
<T4>5000</T4>
</timers>
```

- T1 - ネットワークの往復遅延の時間（ミリ秒）。
- T2 - 非招待要求と招待応答を再送信するまでの最大時間（ミリ秒）。
- T4 - メッセージがネットワークに残るまでの最大時間（ミリ秒）。
- SIP プロキシ アドレスと SIP プロキシ検出
 - セクション [6.1.1 SIP サーバーの設定](#) を参照してください。
 - セクション [6.1.6 動的 SIP プロキシ検出](#) を参照してください。
- フェールオーバー設定を登録する（以下を参照）

フェールオーバーの場合、Webex アプリケーションは 2 つの **Contact** ヘッダーで **SIP REGISTER** を送信します。1 つは古いセッション用で、2 つ目は新しいデバイス情報用です。古いセッションの連絡先ヘッダーは、データをクリーンアップするように **SBC** に通知するために含まれています。このヘッダーには **expires=0** と **q=0.5** が含まれます。

新しいデバイス情報が含まれる連絡先ヘッダーには、**<q-value>** タグから読み取られた **q** 値もあります。**<q-value>** タグの値は、特定の連絡先の基本設定または優先順位を示すために使用されます。0 から 1.0 の範囲で、1.0 が最も優先度が高く、0 が最も低いです。このタグには値を制御するカスタムタグがありません。1.0 にハードコードされています。展開で使用する **SBC** にリバース ロジックがあり、最大優先度で **q=0.0** を扱う場合、値は手動で調整できます。

リリース 42.11 以降、設定テンプレートに新しい **<register-failover>** セクションが導入されます。アプリケーションが古いデバイス情報をクリーンアップするために **Contact** ヘッダーを送信するかどうかを制御するために、新しい設定可能なパラメータ **<registration-cleanup>** が追加されました。一部の **SBC** は、ソケット切断時に古いセッションをすぐにクリーンアップするため、古いセッションの **Contact** ヘッダーの存在は必要ありません。デフォルトでは、登録クリーンアップロジックが有効になっています。

一貫性を保つため、**<q-value>** タグも同じ **<register-failover>** セクションに移動します。

例:

```
<config>
<protocols><sip>
  <q-value>1.0</q-value> <!-- DEPRECATED -->
  <register-failover>
    <registration-
cleanup>%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%</registration-cleanup>
    <q-value>1.0</q-value>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	true	true、false	SIP フェールオーバーの場合に古いデバイス情報のクリーンアップを制御します。

6.1.8.2 SIP フェイルバック

優先順位によって優先順位がないプロキシにクライアントが接続されている場合、優先順位が最も高い IP に再接続しようとします。フェイルバックの時間は、DNS TTL 管理設定に基づいています (セクション [6.1.8.4DNS TTL の管理](#) を参照)。フェールバック タイマーに到達したときにコールが進行中の場合、クライアントはすべてのコールが完了するまで待機し、フェールバック手順をトリガーします。SIP 接続はモバイルの通話中にのみアクティブであるため、これはデスクトップ クライアントに対してのみ有効であることに注意してください。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT%	true	true、false	SIP フェールバックを有効/無効にします。
%SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT%	900	60を超える	SIP フェールバック タイムアウト (秒単位)。
%SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	false	true、false	SIP フェールバックのランダムピリオド [0-10]% を追加します。

6.1.8.3 IP バージョンを強制する

Webex クライアントは、DNS を介して解決済みホストのリストを発注し、SIP フェールオーバーの場合にそれらを反復する方法を設定できます。すべてのモードでは、優先順位と重量が尊重されます。

サポートされる構成:

- dns - DNS クエリによって返されるすべてのアドレスを使用します
- ipv4 - IPv6 アドレスをフィルタリングする
- ipv6 - IPv4 アドレスをフィルタリングする
- prefer-ipv4 – IPv6 (リリース 42.9) の前に IPv4 アドレスを注文します。
- prefer-ipv6 – IPv4 (リリース 42.9) の前に IPv6 アドレスを注文します。
- nat64 – IPv6 アドレスを無視し、IPv4 アドレスを注文します (リリース 44.2)

環境/ネットワーク構成に異なるモードが必要でない限り、デフォルト値 (dns) を使用することを推奨します。

「dns」設定では、IPv4 アドレスは、指定されたホストの IPv6 アドレスよりも優先されます。IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を持つ 2 つのホストがある場合、順序は IPv4(host1)、IPv6(host1)、IPv4(host2)、IPv6(host2) です。

「prefer-ipv4」モードでは、IPv4 アドレスは IPv6 アドレスの前に注文されます (IPv4 および IPv6 グループ内の注文は残ります)。

例: IPv4(host1)、IPv4(host2)、IPv6(host1)、IPv6(host2)。

「prefer-ipv6」モードでは、順序は逆です。IPv6 アドレスは IPv4 アドレスの前に配置されます。

例: IPv6(host1)、IPv6(host2)、IPv4(host1)、IPv4(host2)。

「nat64」モードでは、IPv6 アドレスは無視され、IPv4 の順序が尊重されます。IPv6 プレフィックスが検出されました。各 IPv4 アドレスに対して、各 Pref64 プレフィックスおよび/またはサフィックスとの組み合わせが作成されます。

例: Pref64(1)::IPv4(host1), Pref64(2)::IPv4(host1)::Suff64(2), IPv4(host1)::Suff64(3), Pref64(1)::IPv4(host2), Pref64(2)::IPv4(host2)::Suff64(2), IPv4(host2)::Suff64(3)。

```
<config>
<protocols><sip><transports>
<enforce-ip-version>%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%</enforce-ip-
version>
```

現在使用されているサーバの DNS レコードの TTL が期限切れになったときに、DNS 解決が再

DNS 解決が再実行された後、このパラメータは、現在の接続が完全に機能している場合でも

サーバ A と SRV レコードの TTL が異なる場合、小さい値が選択されます。

このパラメータを無効にすると、TTL が期限切れになったときに DNS 操作は再実行されず、15 分ごとに実行されます。

このパラメータは SIP でのみ機能します。

プロキシ アドレス パラメータで IP アドレスを使用する場合、DNS TTL 管理機能を使用できないことに注意してください。

メモ: モバイルクライアントは通話中に SIP 接続のみであるため、これはデスクトップのみの機能です。

```
<config>
<protocols><sip>
<refresh-on-ttl enabled="%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%"
  use-random-factor="%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	false	false、true	「false」に設定すると、SIP では DNS TTL 管理が無効になります。 「true」に設定すると、SIP に対して DNS TTL 管理が有効になります。
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	false	false、true	有効にすると、DNS TTL に 0 ~ 10% のランダムな期間を追加します。

メモ: DNS

TTL ランダムファクタを有効にして、DNS へのリクエストの急増や、アプリケーションサーバーへの再接続の試みの急増を防ぐことを強くお勧めします。

6.1.9 SIP SUBSCRIBE および REGISTER 更新およびサブスクリプション再試行

Communicator は、SIP SUBSCRIBE および REGISTER のリフレッシュ間隔の設定をサポートします。SIP SUBSCRIBE には、更新間隔（秒単位）と、エラー（秒単位）がある場合、クライアントが SIP SUBSCRIBE を再試行するまで待機する時間に関する別のパラメータがあります。*subscription-retry-interval* の推奨最大値は 2000000 秒ですが、負、0、または空の値の場合は 1800 秒が使用されます。サブスクリプション更新で負の値を入力すると、*Expires* ヘッダーが消去され、1 回限りの SUBSCRIBE が作成されます。

クライアントが提案する SIP REGISTER 更新タイマーは秒単位で設定できますが、SIP 仕様に従って、サーバは値を上書きできます。現在、クライアントは、常に設定された値を使用するのではなく、サーバが提案した値を記憶し、その後の更新を行います。

最後に、SIP セッション（SIP INVITE および SUBSCRIBE）の期限切れ値を設定することもできます（秒単位）。

```
<config>
<protocols><sip>
<subscription-refresh-interval>10800</subscription-refresh-interval>
<subscription-retry-interval>60</subscription-retry-interval>
<registration-refresh-interval>300</registration-refresh-interval>
<session>
    <expires-value>3600</expires-value>
</session>
```

6.1.10 REGISTER で P-Associated-URI を使用する

関連する 200 OK 応答を登録および処理する場合、次のパラメータが使用されます。

パラメータが「false」に設定されている場合、クライアントは *P-Associated-URI* を使用せず、代わりに独自の SIP URI の ID を使用します。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-alternative-identities>%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%</use-alternative-identities>
```

パラメータが「true」に設定されている場合、クライアントは、REGISTER の *P-ASSOCIATED-URI* ヘッダーから独自の ID を取得します。さらに、これらの URI は連絡先リスト内の連絡先として表示されません。200 OK 応答からのすべての発信 SIP リクエスト（INVITE、SUBSCRIBE、CANCEL、INFO、および REFER）の最後の

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	false	true、false	<p>SIP REGISTER での代替 ID の使用を有効にします。</p> <p>「true」に設定すると、クライアントは発信 SIP 要求の最後の <i>P-Associated-URI</i> ヘッダーから独自の ID を取得します。</p> <p>「false」に設定すると、発信 SIP 要求の独自の ID が独自の SIP URI から取得されます。</p>

6.1.11 SIP P-Early Media (PEM) ヘッダー

SIP *P-Early Media* (PEM) ヘッダーは、たとえば、トラストドメイン内の IMS 環境で使用して、他のネットワークがすべてのアーリーメディアを許可する場合など、ネットワークが複数の SIP アーリーメディアダイアログを承認できるようにします。

設定パラメータにより、SIP シグナリングでの広告 PEM サポートが有効になります。実際の初期メディア処理ロジックは、サポートされている PEM ヘッダー値に基づいて動作する PEM ケースと非 PEM ケースの両方で同じです。

```
<config>
<protocols><sip>
<support-p-early-media>%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%</support-p-early-media>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	false	true、false	SIP シグナリングでクライアント広告の PEM サポートを有効にするには、「true」に設定します。 SIP シグナリングでクライアント広告の PEM サポートを無効にするには、「false」に設定します。

6.1.12 SIP UPDATE サポート

SIP 更新は、たとえば、一部の IMS 展開で、代替の RE-INVITE の代わりに必要です。クライアントは、メディアストリームのセットやコーデックなどのセッションのパラメータを更新できますが、SIP ダイアログの状態には影響しません。

典型的なユースケースは、例えばリングバックトーンとプレアラートを同時に使用する場合など、初期のメディアに関連しています。

SIP UPDATE は、現在、プレダイアログ ユースケース (アーリーメディア) で受信された場合にのみサポートされており、アクティブダイアログではサポートされていません。たとえば、再招待 (RE-INVITE) がまだ使用されているコールの保留/再開などです。

このリリースでは、SIP UPDATE (メディア変更) を使用してビデオを音声に追加することはできません。さらに、クライアントはリソース予約による完全な IMS ロングコールフローをサポートしていません。

```
<config>
<protocols><sip>
<support-update enabled="%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%" />
```


タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	false	true、false	<p>「false」に設定すると、SIP UPDATE サポートは無効になります。</p> <p>「true」に設定すると、SIP UPDATE サポートが有効になります。</p>

6.1.13 レガシー SIP INFO FIR

このクライアントは、SIP INFO メディア制御要求を介してビデオ キーフレームを要求する従来の方法をサポートします。これは、一部のデバイスで RTCP-FB FIR への応答に問題があり、場合によっては RTCP がリモートエンドポイントにスルーされないため、ビデオなしまたは一方方向ビデオにつながる可能性があるためです。詳細は、RFC 5168を参照してください。

```
<config>
<protocols><sip>
<force-sip-info-fir enabled="%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	false	true、false	<p>「false」に設定すると、SIP INFO FIR サポートは無効になります。</p> <p>「true」に設定すると、SIP INFO FIR サポートが有効になります。</p>

6.1.14 NAT トラバーサル の SIP rport 管理

クライアントは、NAT トラバーサル の SIP rport メカニズムを使用するように設定できます。通常、NAT トラバーサル のための唯一の解決策ではなく、SBCがこの目的のために主に使用されることに注意してください。rportの仕様については、RFC 3581を参照してください。

ネットワークで SIP アプリケーション レイヤ ゲートウェイ (ALG) が使用されている場合の SIP ポートとトランスポート プロトコルの推奨事項の詳細については、『Webex for Cisco BroadWorks ソリューション ガイド』を参照してください。

「rport」文字列は、設定に関係なく、発信 SIP 要求に常に存在することに注意してください。このパラメータは、SIP の「received」ヘッダーと「rport」ヘッダーでサーバから受信した IP アドレスとポートの使用にのみ影響します。この機能を有効にすると、SIP 要求の SIP Contact ヘッダーに「received」ヘッダーと「rport」ヘッダーの値が使用されます (REGISTER 応答に「received」ヘッダーがない場合でも)。

Preferred-port パラメータは、SIP Contact ヘッダーで使用されるポートを定義する点に関連しています。SIP ポートの割り当てに関する詳細は、セクション [6.1.7 SIP の優先ポート使用状況](#) を参照してください。

クライアントソケットのローカルポートを **use-local-port** があります。これは、（**Contact** ヘッダーに設定するように強制する、別の設定パラメータ **Contact** ヘッダーから）クライアントが実際の IP を持つことを検出する SBC で使用され、SBC はクライアントへの要求に対して別のソケットを確立しようとします。ほとんどの場合、ファイアウォールは SBC とクライアントの間に位置し、クライアントへの着信接続を拒否します。

メモ: IPv6 環境では、すべてのアドレスが本物であり、SBC は（**連絡先** ヘッダーから）リスニングクライアントアドレスへの接続を確立しようとします。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-rport enabled="%ENABLE_USE_RPORT_WXT%" use-local-
port="%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	false	true、false	音声コールとビデオコールの rport を有効にします。
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	false	true、false	クライアントのソケットのローカルポートを SIP <i>Contact</i> ヘッダーに追加するかどうかを制御します。

6.1.15 SIP セッション ID

有効にすると、初期登録時にローカル セッション ID が生成されます。セッション ID は、そのデバイスの接続/セッションの寿命、不在中のすべてのダイアログ、REGISTER、SUBSCRIBE、NOTIFY などに使用されます。バインディングが失われるまで同じセッション ID が使用されます。登録バインディングが失われた場合（DNS ルックアップ、接続リセット、電話リセットなど）、新しいローカルセッション ID が生成されます。

セッション ID の値を使用して、そのデバイスに関連付けられたダイアログの完全なセットを検索できます。

```
<config>
<protocols><sip>
```

```
<sip-sessionid enabled="%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	false	true、false	SIP セッション ID の使用を制御します。

6.1.16 着信通話拒否の動作

クライアントは、**486**または**603**の通話を拒否する柔軟性を提供します。

クライアントが**603 Decline**を使用してコールを拒否するように設定されている場合、話中転送および無応答時転送サービスが期待通りに機能しない場合があります。

```
<config>
<services><calls>
<reject-with-486 enabled="%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	true	true、false	着信 SIP コールを拒否するために使用される SIP エラー コードと理由を制御します。 有効にすると、 486 一時利用不可 が使用されます。 それ以外の場合は、 603 Decline が使用されます。

6.1.17 リアルタイム転送プロトコルのポート範囲

クライアントは、**SRTP** にも適用される **Real-Time Transport Protocol (RTP)** ストリームに定義されたポート範囲を使用するように設定できます。この設定は、次の例に示すタグを使用して、オーディオストリームとビデオストリームのポート範囲制限値を設定することによって行われます。

```
<config>
<protocols><rtp>
<preferred-audio-port-start>%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%/preferred-audio-port-start>
<preferred-audio-port-end>%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%/preferred-audio-port-end>
<preferred-video-port-start>%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%/preferred-video-port-start>
```

```
<preferred-video-port-end>%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%</preferred-video-port-end>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	8000	番号	オーディオポート範囲の開始。
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	8099	番号	オーディオポート範囲の終了。
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	8100	番号	ビデオ ポート範囲を開始します。
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	8199	番号	ビデオ ポート範囲の終了。

メモ: ポート範囲は、重複しないように設定する必要があります。

6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)

クライアントは、エンドポイント間のメディア パスの最適化（ピアツーピア方式）を可能にする Interactive Connectivity Establishment（ICE）ネゴシエーションをサポートします。これにより、データの遅延を低減し、パケット損失を低減し、アプリケーションを展開する際の運用コストを削減します。

現在の実装は STUN サーバをサポートしていますが、TURN はサポートされていません。

ICE サポートが有効になっている場合、SRTP の再キーは常に実行されます (セクション [6.1.2 SIP Over TLS およびセキュア リアルタイム トランスポート プロトコル](#) を参照)。

```
<config>
<protocols><rtp>
  <ice enabled="%ENABLE_RTP_ICE_WXT%" mode="%RTP_ICE_MODE_WXT%"
    service-uri="%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%" port="%RTP_ICE_PORT_WXT%"/>
</rtp>
</protocols>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	false	true、false	ICE サポートを有効/無効にします。
%RTP_ICE_MODE_WXT%	lcestunさん	lcestunさん	ICE サポートモード。 現在サポートされている値は「lcestun」のみです。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	(空)	有効な STUN サーバ URI または (空)	STUN サーバ URI。
%RTP_ICE_PORT_WXT%	3478	ナンバー (0 ~ 65535)	STUN サーバ ポート。

6.1.19 RTCPのMUX

RTCP MUX は設定可能です。この機能により、クライアントは RTP と RTCP に同じポートを使用します。SIP/SDP シグナリング レベルでは、ライン `a=rtcp-mux` が SDP に追加されます。さらに、さまざまなモードが可能です。

- 下位互換モード (つまり、行 `a=rtcp-mux` は SDP には表示されません)
- 多重化モード (`a=rtcp-mux` ラインは SDP で 2 回表示されます。 `m=audio` セクションで 1 回、`m=video` セクションで 2 回目)

ビデオと音声は同じポートを使用しません。

```
<config>
<protocols><rtp>
<mux enabled="%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%"/>
```

SRTP コールでは RTCP MUX を使用できないことに注意してください。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	true	true、false	RTCP MUX を有効にするには、「true」に設定します。 RTCP MUX を無効にするには、「false」に設定します。

6.1.20 転送

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、出席者 (コンサルティング)、セミコンサルティング、ダイレクト (ブラインド) コール転送をサポートします。

半協議型コール転送では、コールがリモート呼び出し元によってピックアップされる前に、発信者が転送を完了できます。呼び出し元側で呼び出しが開始され、対応する SIP 通知（180 呼び出し中）が発信者側で受信された後にのみ、半協議完了ボタンが有効になります。ブラインド転送は、UIで「今すぐ転送」と呼ばれます。

メモ: SIP 180 リンギング

は、一部の環境、一部の番号、または一部のクロスサーバー通信シナリオではトリガーされない場合があります。

Webex アプリのリリース 43.9

では、同じタイプの別のスタンドアロン通話への転送が導入されます。Webex アプリで終了した通話は、ローカル エンドポイントで終了した他の通話に転送できます。また、リモート デバイスで終了したコールは、リモート エンドポイントで終了したコールに転送できます。この機能には設定可能なオプションがありません。

リリース 43.12 以降、Webex アプリは [転送]

メニュー項目が選択されている場合に現在の通話を自動的に保留にするかどうかを制御する設定オプションを追加します。この動作は、新しい`auto-hold`属性によって制御されます。デフォルトでは、自動保留は無効になっています。

```
<config>
<services><calls>
  <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%"
    xsi-enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%"
    type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"
    auto-hold="%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%"/>
</calls>
</services>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、通話転送が有効になります。 「false」に設定すると、通話転送は無効になります。
%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%	false	true、false	別のローケーションで終了したリモート（XSI）コールの転送オプションを有効にします。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%	満	トークファースト、ブラインド、フル	BroadWorks 設定でユーザが使用できる転送タイプを指定します。
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	false	true、false	ユーザが通話中の画面メニューから [転送 (Transfer)] オプションを選択すると、アクティブなコールが自動的に保留になるかどうかを制御します。

6.1.21 N-way 会議コール と参加者

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの SIP を介したアドホック (N-Way) 会議コールの可用性を制御できます。さらに、N-way の所有者は、SIP SUBSCRIBE/NOTIFY および会議イベントパッケージを介して参加者の完全なリストを表示できます。オーナーのクライアントは、参加者に対して同じ情報が前のコール情報 NOTIFY にある間、会議 URI への INVITE に応答して送信された **Contact** ヘッダーを介して SIP SUBSCRIBE を送信する URI を学習します。200 OK メッセージの SIP

Cisco BroadWorks システム設定 (*maxConferenceParties*) は、会議参加者の最大数を設定するために使用されます。特定のコールの場合、「参加者の追加」通話中コントロールオプションまたは Cisco BroadWorks N-way Calling 機能を使用して、ユーザーが持つか、または追加できるアクティブな同時パーティの数を示します。

この情報は、次のコマンドライン インターフェイス (CLI) コマンドを使用して、アプリケーション サーバ (AS) から取得されます。

```
AS_CLI/SubscriberMgmt/Policy/CallProcessing/Conferencing> get
```

```
Example output:
maxConferenceParties = 6
conferenceURI =
```

maxConferenceParties の値を取得したら (4~15 の範囲内)、それに応じて %MAX_CONF_PARTIES_WXT% タグを設定する必要があります。

```
<config>
<services><calls>
<conference enabled="%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%">
  <service-uri>sip:%BWNWORK-CONFERENCE-SIPURI-1%</service-uri>
  <subscribe-conference-info enabled="%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%">
    <max-nway-participants>%MAX_CONF_PARTIES_WXT%</max-nway-participants>
  </conference>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CONFERENC E_CALLS_WXT%	false	true、false	ユーザに対して [会議 (Conference)] オプションを有効にするかどうかを制御します。
%ENABLE_NWAY_PART ICIPANT_LIST_WXT%	false	true、false	N-way オーナー参加者リストを有効にするには、「true」に設定します。 N-way オーナー参加者リストを無効にするには、「false」に設定します。
%MAX_CONF_PARTIES _WXT%	10	4から15までの数 (空)	クライアントによって強制される最大 N 方向の参加者番号 (たとえば 10) を指定します。 サーバー側には独自の制限があります。 空の値は、N-way 参加者制限のクライアント側の強制を無効にします。

6.1.22 コールプル

コールプル機能は、次の例に示すように、1つの設定パラメータを使用して有効にできます。

```
<config>
<services><calls>
<call-pull enabled="%ENABLE_CALL_PULL_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_PULL_WX T%	false	true、false	コールプルを有効にします。

6.1.23 コールパーク/保留解除

グループコールパーク機能を使用すると、継続中の VoIP コールを Call Park サーバに転送できます。これにより、発信者は別のことを実行し、同じユーザーまたは別のユーザーによって取得できます。進行中のコールは、コールパークグループ内で最初に利用可能な内線番号に対してパークされます。

コール取得は、ユーザがコールをパークした直後の設定可能な秒数で、ダイアログでコールをパークすることによって実行できます。または、パークされたコールは、コール検索オプションを選択し、番号または内線番号を入力して、ユーザまたは別のユーザによって取得できます。

```
<config>
<services><calls>
<call-park enabled="%ENABLE_CALL_PARK_WXT%"
timer="%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	false	true、false	コール パーク/取得を有効にします。
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	10	5から30までの数	[パークされたコール (Call Parked)] ダイアログが正常に表示されてから自動的に閉じられるまでの秒数を指定します。

6.1.24 通話の統計

セッション開始プロトコル (SIP) BYE メッセージの通話終了統計をレポートすることで、通話が終了したときに通話統計をリモートエンドに送信できます。コール統計は、SIP BYE メッセージまたは対応する **200 OK** 応答の新しいヘッダーとして送信されます。この統計には、送受信された **Real-time Transport Protocol (RTP)** パケット、送受信された合計バイト、失われたパケットの総数、遅延ジッタ、往復遅延、および通話時間が含まれます。

```
<config>
<services><calls>
<call-statistics enabled="%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	false	true、false	通話メトリクスのキャプチャを有効にするには、「true」に設定します。 通話メトリクスのキャプチャを無効にするには、「false」に設定します。

6.1.25 コール自動回復 / シームレスなコールハンドオーバー

ユーザが継続中の VoIP コールを持っている間、クライアントはスイッチングネットワークでのコール自動回復をサポートしています。通話自動リカバリは、WiFi ネットワークを切り替えながら、Cellular Data-to-WiFi と WiFi-to-Cellular Data の両方向に機能します。コールは 1 分以内に回復され、停止します。継続中の VoIP コールが複数ある場合は、アクティブな VoIP コールだけが復元されます。

Cellular Data-to-WiFi 移行では、クライアントは終了またはセルラー データ ネットワークが失われるまで、セルラー データで継続中の VoIP コールを維持します。

```
<config>
<services><calls>
<auto-recovery enabled="%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	false	true、false	ユーザに対して自動リカバリメカニズムを有効にするかどうかを制御します。

6.1.26 通話の録音

コール録音機能はクライアントによってサポートされており、機能のサーバー側の可用性および設定オプションによって異なります。この機能は、有効な XSI イベント チャンネル（セクション [6.1.33 XSI イベント チャンネル](#) を参照）と、X-BroadWorks-Correlation-Info SIP ヘッダーを送信するように設定されたアプリケーション サーバ（AS）によって異なります（Cisco BroadWorks 版 Webex ソリューション ガイドを参照）。

この機能が無効になっている場合、ユーザーには録画ボタンとオプションはありません。通話の録音は、通話ベースではなく、ユーザーごとに動作します。つまり、通話の参加者の 1 人が通話録音をサポートしている場合、その通話を録音できます。

コール録音機能が有効になっている場合、コールが録音されているときには常に視覚的な表示があります。次の通話録音モードは、Cisco BroadWorks でサポートされています。

常時

- 通話録音は、通話確立時に自動的に開始されます。
- ユーザーは通話の録音を停止/一時停止できません。

Always with Pause/Resume サポート

- コール録音は、コール確立時に自動的に開始されますが、ユーザーはコールを一時停止して再開することができます。
- ユーザーとのインタラクションの可能性:

- 録画が進行中です - **録画を一時停止**します。
- 録画が一時停止中です - **録画を再開**します。

オンデマンド

- コールが確立されると、サーバでコール録音が始まります。
- ユーザが通話中に [録音の開始 (Start Recording)] オプションを押すと、通話録音は保存され、起動から通話を保持します。 そうしないと、ユーザから開始録音が始まらない場合、コール録音はサーバ上で削除されます。
- ユーザーとのインタラクションの可能性:
 - まだ録画が始まっていません - **録画を開始**してください。
 - 録画が進行中です - **録画を一時停止**します。
 - 録画が一時停止中です - **録画を再開**します。

ユーザーが開始したオンデマンド

- ユーザは、通話中に何度でも通話録音を開始、停止、一時停止、再開できます。
- 通話録音の起動ごとに、別の通話録音があります。
- ユーザーとのインタラクションの可能性:
 - まだ録画が始まっていません - **録画を開始**してください。
 - 録画が進行中です - 録画の**停止**と**一時停止**のアクション。
 - 録音が一時停止中です - 録音の**停止**と**再開**のアクション。

ユーザーに割り当てられた通話録音モードは、Control Hub から選択できます。

```
<config>
<services><calls>
<record enabled="%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	false	true、false	通話録音コントロールを有効にします。

6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの Cisco BroadWorks ボイスメールとビジュアル ボイスメールの可用性を制御できます。 ボイスメールでは、Cisco BroadWorks システム タグ (%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%) が使用されます。

Visual Voicemail (VVM) は音声のみに対応しています。サポートされている形式は、H264 ビデオを含む wav、ulaw、mov です (音声のみとして再生されます)。これにより、ユーザーは着信ボイスメールをリストビューで表示し、個々の項目を再生できます。この機能は Xsi に基づいていますが、新しいボイスメールの通知は SIP 経由で提供されるため、通知が機能するには SIP を有効にする必要があります。さらに、通知が届くには SIP SUBSCRIBE for Message Waiting Indicator (MWI) 設定が必要で、ビジュアルボイスメールが機能するには MWI を有効にする必要があります。SIP 設定の詳細については、セクション [6.1.1 SIP サーバーの設定](#) を参照してください。

ビジュアルボイスメールの Cisco BroadWorks リリースおよびパッチ要件については、『[Webex for Cisco BroadWorks ソリューションガイド](#)』を参照してください。

ビジュアルボイスメールは、設定で個別に有効にする必要があります。

ビジュアルボイスメールを使用するには、CommPilot ポータルで次の設定が必要です。

- 音声メッセージングが有効
- 「メッセージが届いたら、統合メッセージングを使用する」オプションが有効になっています
- [電話メッセージ待機インジケータを使用] オプションが有効になっています

ユーザーの Cisco BroadWorks 側にビジュアルボイスメールサービスが割り当てられていない場合、サービスの設定は自動的に無効になります。

SIP 登録を無効にすると、新しいボイスメールの MWI も無効になります。MWI の有効化の詳細については、次の表を参照してください。

UI にボイスメールメッセージ情報を表示するには、クライアントはサーバから SIP MWI 通知（つまり、ボイスメールイベントパッケージ）を受信する必要があります。サブスクリプションオプションについては、次の表を参照してください。また、ビジュアルボイスメール通知が機能するには、MWI が必要であることに注意してください。

ボイスメールイベントパッケージへの SIP サブスクリプションが失敗した場合、クライアントはそうように設定されたときに再試行し続けることに注意してください。SIP SUBSCRIBE 再試行設定の詳細については、セクション [6.1.9 SIP SUBSCRIBE および REGISTER 更新およびサブスクリプション再試行](#) を参照してください。

```
<config>
<services><calls>
<mwi enabled="%ENABLE_MWI_WXT%" type="%MWI_MODE_WXT%"/>
<voice-mail enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%" visual-voicemail="%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%">
  <center-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%</center-number>
</voice-mail>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	false	true、false	ボイスメールのサポートを有効にするには、「true」に設定します。 ボイスメールのサポートを無効にするには、「false」に設定します。
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、VVMは無効になります。 「true」に設定すると、VVMが有効になります。 実際の VVM 属性の前に voice-mail enabled=false が後方互換性のためにまだ使用されていることに注意してください。
%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%	空	番号	クライアントは通常、ボイスメールをダイヤルするときに、既存の Cisco BroadWorks システム タグを使用して指定されたこの番号を呼び出します。
%ENABLE_MWI_WXT%	false	true、false	MWI を有効にするには、「true」に設定します。 。 MWI を無効にするには、「false」に設定します。 。
%MWI_MODE_WXT%	空	暗黙的、明示的	MWI が有効になっている場合、MWI イベント パッケージの SIP SUBSCRIBE を送信するには、「明示的」に設定します。 。 「implicit」を使用すると、MWI が有効になっている場合、MWI イベント パッケージの SIP SUBSCRIBE は送信されません。 空の場合、MWI は無効になります。

6.1.28 Webex Calling のボイスメールの文字起こし

この機能により、ボイスメール メッセージはテキストに変換され、Webex Calling デスクトップ およびモバイル アプリのビジュアル ボイスメール メッセージ ビューに表示されます。

この機能は、次の場合にのみ、ユーザーに対して有効にする必要があります。

1. アプリは Webex Calling 展開で実行されています。
2. ビジュアル ボイスメール機能がユーザーに対して有効になっています。
3. この機能は設定で有効になっています (<services><voice-mail><transcription> タグの enabled 属性は “true” に設定する必要があります)。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%	false	true、false	[Webex Calling のみ] ビジュアルボイスメールが有効になっている場合にのみ、ボイスメールの文字起こしの可用性を制御します。

6.1.29 通話設定

6.1.29.1 通話転送常時

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの Cisco BroadWorks Call Forwarding Always サービスの可用性を制御できます。

```
<config>
<services><supplementary-services>
<call-forwarding-always enabled="%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	false	true、false	Call Forwarding Always サービスの可用性を制御します。 デフォルトでは、この機能は無効になっています。

メモ: 常に通話転送とボイスメールへの通話転送 ([6.1.29.2ボイスメールへのコール転送](#)) を一緒に使用して、Webex
アプリで「通話転送」設定を表示または非表示にできます。
両方のタグが無効になっている場合、Webex
アプリの「通話転送」設定は非表示になります。

6.1.29.2 ボイスメールへのコール転送

リリース 43.9 以降、Webex

アプリはボイスメールへの転送の可用性を制御するオプションを提供します。

デフォルトでは、この機能は有効になっており、次の設定オプションを使用して無効にできます。

```
<config>
<services>
  <voice-mail>
    <forwarding enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%	true	true、false	ボイスメールへの転送の可用性を制御します。 デフォルトでは、この機能は有効になっています。

メモ1:

この機能は、ユーザーに割り当てられる「ボイスメッセージングユーザ」または「サードパーティのボイスメールサポート」サービスのいずれかに依存します。

メモ2: ボイスメールへのコール転送と常にコール転送 ([6.1.29.1通話転送常時](#))

を一緒に使用して、Webex

アプリで「コール転送」設定を表示または非表示にできます。

両方のタグが無効になっている場合、Webex

アプリの「通話転送」設定は非表示になります。

6.1.29.3 BroadWorks Anywhere (シングル ナンバー リーチ)

次のカスタム タグは、BroadWorks Anywhere の可用性と Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの設定の可用性を制御します。クライアント内のこの機能の名前は *マイ番号の管理* です。

```
<config>
<services><supplementary-services>
<broadworks-anywhere enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%">
  <description enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%" />
  <alert-all-locations
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%" />
  <call-control enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%" />
  <diversion-inhibitor
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%" />
  <answer-confirmation
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%" />
</broadworks-anywhere>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	false	true、false	設定レベルで BroadWorks Anywhere (BWA) を有効にします。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	true	true、false	ユーザが BWA ロケーションの説明を利用できるかどうかを制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、BWA サービスのすべてのロケーションにアラートがユーザーに使用可能になります。 BWA サービスのすべてのロケーションにアラートを送信できないようにするには、「false」に設定します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	false	true、false	アプリケーションが [すべてのロケーションにアラート (Alert All Locations)] 状態を有効にするかどうかを制御し、2 番目以降の新しい BWA ロケーションを追加します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	false	true、false	ユーザが BWA ロケーションのコール制御を使用できるかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションのコール制御のデフォルトの状態を制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの転用阻害剤をユーザに使用できるかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの Diversion Inhibitor のデフォルト状態を制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	false	true、false	ユーザが BWA ロケーションの応答確認を利用できるかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの応答確認のデフォルトの状態を制御します。

6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは設定 (セルフケア) ポータルへのアクセスを提供し、ユーザはアプリケーションとサービスの設定の一部を構成できます。

さらに、クライアントは、代わりに **Call Settings Web View (CSWV)** を使用するオプションを提供します。これにより、ユーザはサーバーベースのコール設定をさらに制御できます。個別のタグを使用して、Web ベースの通話設定で特定のサービスを表示するかどうかを制御できます。

メモ: Call

Center (セクション [6.1.31 コールセンター/コールキューのログイン/ログアウト](#) を参照) や BroadWorks Anywhere (セクション [6.1.29.3 BroadWorks Anywhere](#) を参照) など、アプリケーションですでに表示される設定を非表示にすることをお勧めします。Remote Office サービスは、BroadWorks Anywhere サービスによって継承されているため、非表示にすることをお勧めします。

次のカスタム タグを使用して、設定（セルフケアまたは CSWV）ポータル URL を設定できます。タグが空の場合、設定ポータルへのリンクはアプリケーション内のユーザーには表示されません。

```
<config>
<services>
<web-call-settings target="%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%"
  <url>%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%</url>
<branding-enabled="%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%">
  <service-settings>
    <service name="Call Forwarding Always"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Call Forwarding Busy"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Call Forwarding Not Reachable"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFNr_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Call Forwarding No Answer"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Do Not Disturb"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Anonymous Call Rejection"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Simultaneous Ring Personal"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Sequential Ring"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Automatic Callback"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Call Waiting" visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Calling Line ID Delivery Blocking"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Personal Assistant"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Call Center - Standard"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="BroadWorks Anywhere"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="BroadWorks Mobility"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Remote Office" visible="%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%"/>
    <service name="Voice Messaging User"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%"/>
  </service-settings>
<userportal-settings> <url>%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%</url></userportal-
settings>
</web-call-settings>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	外部	外部、csw	管理ポータル モードを制御します。 外部ブラウザで設定済み設定ポータル URL を開くには「外部」に設定します。 追加のパラメータセクション<services><web-call-settings>を使用して、埋め込みブラウザでCSWポータルを開いてcswに設定してPOSTリクエストを作成します。
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	空	URL 文字列	設定ポータルの URL。 例: https://settings.webex.com
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [常にコール転送 (Call Forwarding Always)] オプションがユーザーに表示されているかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [サイレント (DND) (Do Not Disturb (DND))] オプションがユーザーに表示されているかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、ユーザーに対して匿名着信拒否 (ACR) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [話中転送 (CFB) (Call Forwarding Busy (CFB))] オプションがユーザーに対して表示されるかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNRR_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [コール転送が到達不可 (CFNR) (Call Forwarding Not Reachable (CFNR))] オプションがユーザーに表示されているかどうかを制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [無応答コール転送 (CFNA) (Call Forwarding No Answer (CFNA))] オプションがユーザに対して表示されるかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [同時呼び出しパーソナル (SIMRING) (Simultaneous Ring Personal (SIMRING))] オプションがユーザに表示されているかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [シーケンシャルリング (SEQRING) (Sequential Ring (SEQRING))] オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザに対して Remote Office (RO) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [自動コールバック (ACB) (Automatic Callback (ACB))] オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で [コール待機 (CW) (Call Waiting (CW))] オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、ユーザに対して [発呼回線 ID 配信ブロック (CLIDB) (Calling Line ID Delivery Blocking (CLIDB))] オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で Personal Assistant (PA) オプションがユーザに表示されているかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で BroadWorks Anywhere (BWA) オプションがユーザーに対して表示されるかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	true	true、false	ウェブベースの設定でコールセンターオプションがユーザーに対して表示されるかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で BroadWorks モビリティ (BWM) オプションがユーザに表示されているかどうかを制御します。 現在、Cisco BroadWorks 版 Webex と BroadWorks Mobility 間の相互運用性の問題により、推奨値は「false」です。
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザに対して音声管理 (VM) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%	false	true、false	新しい通話設定 WebView ブランディングを使用するかどうかを制御します。 サーバ側の CSWV バージョンが 1.8.6 以上の場合に有効にします。 そうでない場合はfalseのままにします。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	電子メール/ボイスメールメッセージのオプションが Web ベースの設定に表示されているかどうかを制御します。
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	空	URL 文字列	ユーザー設定ポータルの URL を指定します。 この機能を有効にして、UI で [ユーザーポータルのアクセス (Access User Portal)] ボタンを表示するには、このカスタムタグを空にしないでください。 例: https://settings.webex.com
%USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT%	外部	外部、内部	埋め込みまたは外部ブラウザで URL を開くかどうかを指定します。
%USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT%	false	true、false	組み込みブラウザが設定されている場合にのみ適用されます (USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT=internal)。有効にすると、HTTP POST 要求が使用され、BroadWorks の短命トークンが BODY の一部として追加されます。無効にすると、URL は HTTP GET で開きます。

メモ1: 通話設定 WebView URL には常に末尾の「/」が設定されている必要があります。

例: `http(s)://<XSP-FQDN>/<CSW-Context-Path>/`

メモ2: サポートされている通話設定 WebView アプリケーションの最小バージョンは 1.7.5 です。

Cisco BroadWorks リリース 21.0 へのインストールについては、『*Webex for Cisco BroadWorks ソリューションガイド*』に記載されている追加手順を参照してください。

6.1.31 コールセンター/コールキューのログイン/ログアウト

Webex アプリは、コールセンター（コールキュー）エージェント設定へのアクセスを提供します。ユーザーがコールセンターにプロビジョニングされている場合、この機能により、ユーザーはコールセンターにログインし、利用可能なコールキューを表示したり、キューに参加または参加解除したり、自動コール分配（ACD）ステータスを設定したりできます。

デスクトップリリース 42.8 およびモバイルリリース 42.12 以降、コールセンター（コールキュー）エージェントは、コール設定 Web ビューに基づいていません（セクション [6.1.30 設定ポータル およびウェブベースの通話設定](#) を参照）。コールセンター（コールキュー）エージェントの設定は、モバイル Webex アプリのデスクトップと設定のフッターからアクセスできます。

```
<config>
<services>
<call-center-agent enabled="%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	false	true、false	コールセンターのサポートを有効にします。

6.1.32 XSI ルートとパス

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、サインインに使用されるものと異なるように設定する必要がある場合は、次のタグを使用して、XSI ルート、アクション、イベント パスを制御します。

XSI Root を変更する主な理由は、設定レベルでロードバランシングを実装することですが、代わりに HTTP レイヤーでロードバランシングを使用することをお勧めします。

通常、Events パスと Actions パスはブランディング要件により変更され、クライアントによって実行される XSI HTTP 要求の URL パスから *com.broadsoft* ドメイン参照を削除します。

```
<config>
<protocols><xsi>
  <paths>
    <root>%XSI_ROOT_WXT%/root>
    <actions>%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%/actions>
    <events>%XSI_EVENTS_PATH_WXT%/events>
  </paths>
```

タグ	省略した場合 のデフォルト	サポートさ れる値	説明
%XSI_ROOT_WXT%	設定フェッチ に使用される 元のフェッチ を引き続き使 用します。	URL 文字列	すべての XSI 操作の XSI ルート。 例: https://domain.com/
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	/com.broadso ft.xsi-actions/ /com.broadso ft.xsi-actions/ /com.broadso ft.xsi-actions/ /com.broadso ft.xsi-actions/ /com.broadso ft.xsi-actions/	文字列	XSI アクションパスを指定します。 「/」 で開始および終了し、アクション コンテキストのみを含める必要があり ます。 例: /com.domain.xsi-actions/ /com.domain.xsi-actions/ /com.domain.xsi-actions/
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	/com.broadso ft.xsi-events/ /com.broadso ft.xsi-events/ /com.broadso ft.xsi-events/ /com.broadso ft.xsi-events/ /com.broadso ft.xsi-events/ /com.broadso ft.xsi-events/ /com.broadso ft.xsi-events/ /com.broadso ft.xsi-events/ /com.broadso ft.xsi-events/ /com.broadso ft.xsi-events/ /com.broadso ft.xsi-events/	文字列	XSI Events パスを指定します。 「/」 で開始および終了し、イベントの コンテキストのみを含める必要があり ます。 例: /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/ /com.domain.xsi-events/

6.1.33 XSI イベント チャンネル

XSI Event チャンネルは、次のようなさまざまなサービスに使用されます。

- XSI 中間コール制御
- コール設定ステータスの通知
- 通話の録音

XSI Events のハートビートは、XSI Event チャンネルを開いたままにするために使用され、ハートビート間隔は次のパラメータを使用して指定できます。

```
<config>
<protocols><xsi>
<event-channel enabled="%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%">
```



```
<heartbeatInterval> %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%</heartbeatInterval>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	true	true、false	XSI Event チャンネルが有効になっているかどうかを制御します。 通話中制御サービス関連イベントなど、受信するには「true」に設定する必要があります。 推奨値は「true」です。
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	10000	番号	これは、XSI Event チャンネルのハートビート（ミリ秒）です。 デフォルトは「10000」です。

6.1.34 コーデックの設定

Cisco BroadWorks 版 Webex は、さまざまな音声およびビデオ コーデックを提供します。コーデックの各リストは、*config/services/calls/*の下にあります。各コーデックの優先順位は、0.0（最小）から1.0（最高）の値である *audio/codecs* および *video/codecs* セクションの *XML 属性優先順位* を使用して変更できます。

```
<video><codecs>
  <codec name="H264" payload="109" resolution="CIF" framerate="25"
  bitrate="768000" priority="1.0">
    <packet-mode>0</packet-mode>
</codec>
```

クライアントは **H.264** をビデオ コーデックとしてサポートします。ビデオ解像度の属性を使用して、次のいずれかの使用可能な値を設定できます。SUBQCIF、QCIF、CIF、4CIF、VGA、HD。

設定でビットレートが入力されていない場合、デフォルトのビットレート値が使用されます。解像度とフレームレートごとのデフォルトビットレートの値を、次の表に示します。

解像度	ビデオサイズ *	FPS (1秒あたりのフレーム)	解像度および FPS ごとのデフォルトのビット レート値
SUBQCIF	128 x 96	15	128000
QCIF	176 x 144	30	192000
CIF	352 x 288	15	384000
CIF	352 x 288	30	768000

解像度	ビデオサイズ *	FPS (1秒あたりのフレーム)	解像度および FPS ごとのデフォルトのビット レート値
VGA	640 x 460	15	2000000
4CIF	704 x 576	25	2000000
HD	960 x 720	30	2000000

* アドバタイズされた最大ビデオ解像度。Cisco BroadWorks 版 2 つの Webex クライアント間の通話中の実際のビデオ解像度は、両方のクライアントの機能によって異なります。2 つのクライアントのうち低くなり、両方のクライアントで同じになります。

ビデオ通話のビデオ解像度は、セッションのセットアップ中にネゴシエートされ、2 つのエンドポイントの機能に基づいています。ビデオ通話の解像度は両方のエンドポイントで同じです。つまり、Cisco BroadWorks 版 Webex エンドポイントに異なる機能がある場合（そのため、異なる解像度をサポート）、低い解像度がコールに対してネゴシエートされます。ネットワーク状態が悪化すると、通話中にビデオ解像度が変更される場合があります。この場合、2 つのモバイル エンドポイントが異なるビデオ解像度を使用している可能性があります。

パケット化モードは、SingleNAL (0) または Non-interleaved (1) に設定できます。テンプレートはデフォルトで SingleNAL を使用します (<packet-mode>0</packet-mode>)。

複数の電話イベント設定もサポートされています。コーデックのネゴシエーション中に、クライアントは複数の電話イベントを含む、設定されたすべてのコーデックを送信します。オーディオコーデックが選択されると、オファアの電話イベントが検索されます。オファアにネゴシエートされた音声コーデックのサンプルレートを持つ電話イベントがある場合、この電話イベントが選択されます。それ以外の場合は、リスト内の最初の電話イベントが使用されます。オファアの電話イベントがまったくない場合、インバンドデュアルトーンマルチ周波数 (DTMF) が使用されます。

設定されたコーデックの例:

```
<codec name="telephone-event" payload="100" in-band="false" />
<codec name="telephone-event" payload="101" clockrate="48000" in-band="false" />
```

サンプルレートが 48kbps のオーディオコーデックがネゴシエートされている場合、ペイロード 101 の電話イベントが使用されます。

Cisco BroadWorks 版 Webex は、次のコーデックを正式にサポートしています。

- 音声
 - OPUS
 - G.722
 - G.729
 - PCMU (G.711U)

- PCMA (G.711A)
- iLBC
- ビデオ
 - H.264

6.1.35 SIP-URI ダイヤリング

現在、BroadWorks を介した SIP-URI ダイアルは使用できず、デフォルトでは、すべての SIP-URI コールは Locus 経由でルーティングされます。一部の環境では、これは望ましくなく、そのようなコールはブロックされるべきです。

メモ: これは、Locus コールが無効になっている場合にのみ適用されます。
この場合のみ、SIP URI ダイアル ブロッキングが機能します。

このオプションは、次の設定で提供されます。

```
<config>
  <services>
    <calls>
      <sip-uri-dialing enable-locus-
calling="%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%"/>
```

タグ	省略した 場合のデ フォルト	サポートさ れる値	説明
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	true	true、false	SIP-URI を Locus 経由でルーティングする (true) か、ブロックする (false) かを制御します。

6.1.36 すべてのデバイスでの通話履歴

クライアントは、コール履歴をローカルに保存する代わりに、サーバから保存および取得する機能を提供します。これにより、すべてのデバイスで通話履歴が統合されます。

メモ:
通話履歴または重複レコードの欠落を避けるために、クライアント側とサーバー側で統一された通話履歴を同時に有効にする必要があります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT%	false	true、false	アプリケーションが Unified Call History またはクライアント側（ローカル）を使用する必要があるかどうかを制御します。

6.1.37 ビデオ通話を無効にする

リリース 41.9 では、ビデオ コールを無効にする機能が追加されました。BroadWorks がサポートする VoIP コールと Locus（無料）VoIP コールに対して、この機能を制御するための個別の設定オプションがあります。

機能が有効で、機能タグが「false」に設定されている場合:

- ユーザーは「ビデオで着信を承諾する」設定が表示されません
- 受け入れられた場合、すべての着信ビデオ通話は音声通話になります
- ユーザーはビデオへのコールをエスカレーションすることができず、ビデオエスカレーションは自動的に拒否されます

ビデオ コールが有効になっている場合、新しい設定プロパティが追加され、[ビデオで着信コールを受け入れる] 設定のデフォルト値が制御されます。デフォルトでは、この機能はデスクトップでオンになり、モバイルとタブレットでオフになります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT%	true	true、false	BroadWorks を介した SIP ビデオ コールの可用性を制御します。
%ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT%	true	true、false	Locus（無料）ビデオ通話の可用性を制御します。
%VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT%	デスクトップ - true モバイル/タブレット - false	true、false	[ビデオで着信を受け付ける] 設定のデフォルト値を制御します。

6.1.38 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーションレポート

デスクトップおよびタブレットの Webex クライアントは、BroadWorks 版 Webex 展開の E911 緊急コールプロバイダーとして、RedSky、Intrado、または帯域幅を使用した E911 ロケーションレポートをサポートします。E911 プロバイダーは、デバイスごとのロケーション サポート (Webex デスクトップ アプリとタブレット アプリと HELD 対応の MPP デバイス) と、米国、その領土 (グアム、プエルトリコ、ヴァージン諸島)、およびカナダのみの PSAP に緊急通話をルーティングするネットワークを提供します。サービスはロケーションに基づいて有効にできます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	false	true、false	E911 プロバイダーの緊急ロケーションプラットフォームを有効にします。
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%	空	文字列	HELD プロトコルをサポートする E911 プロバイダー緊急ロケーションプラットフォームへの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	空	文字列	E911 プロバイダーの HTTPS 要求に使用される顧客 ID (HeldOrgId、CompanyID)。
%BWE911-SECRETKEY%	空	文字列	E911 プロバイダーの HTTPS 要求を認証する秘密。
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%	空	CSV 文字列	E911 プロバイダーでサポートされている緊急番号のリスト。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	0 (ユーザーには再度プロンプトが表示されません)	ナンバー [0 - 43200]	現在のロケーションが入力されていないか、無効な場合、ユーザーに緊急ロケーションを更新するようにリマインドするために使用される、分単位のタイムアウト。 有効にする場合、推奨される値: 1440年 (永明2年)。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	-1 (ユーザーは常にダイアログをキャンセルできます)	数字 [-1 - 100]	ロケーションが必須になる前に、ユーザーがロケーション ダイアログを閉じることを許可された時間 (つまり、ロケーション ウィンドウを閉じることはできません)。 可能な値: <ul style="list-style-type: none"> ▪ N = -1 (ユーザーは常にダイアログをキャンセルできます) ▪ N = 0 (ユーザーはダイアログをキャンセルできません - 常に必須の場所) ▪ N > 0 (ユーザーは、必須になる前に [N 回] ダイアログをキャンセルできます)

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	攻撃的な once_per_login	一度ログインする	E911 ロケーション プロンプトの動作を定義します。 「アグレッシブ」の値は、各ネットワークが未知の場所に変更された場合にダイアログを表示し、「once_per_login」の値は、ダイアログを 1 回だけ表示し、ユーザのさらなるポップアップと注意散漫を防止します。

メモ1: BWE911-***タグは「動的組み込みシステムタグ」です。
詳細については、第5.7Cisco BroadWorks [動的組み込みシステムタグ](#)項を参照してください。

メモ2: VOIP コールが無効になっている場合、緊急ダイヤルシーケンスの唯一の意味のある値 (%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%) は cs のみです。

6.1.39 アイデンティティとしての PAI

着信コールの場合、この新しいパラメータは、SIP From ヘッダーと P-Asserted-Identity (PAI) ヘッダーの優先度、および発信回線 ID として使用するものを制御します。着信 SIP INVITE に X-BroadWorks-Remote-Party-Info ヘッダーがある場合、SIP From ヘッダーと PAI ヘッダーよりも優先して使用されます。着信 SIP INVITE に X-BroadWorks-Remote-Party-Info ヘッダーがない場合、この新しいパラメータは、SIP From ヘッダーが PAI ヘッダーよりも優先されるか、またはその逆であるかを決定します。

<use-pai-as-calling-identity> タグの enabled 属性が “true” に設定されている場合、PAI ヘッダーは From ヘッダーよりも優先的に使用されます。この発信者 ID は、連絡先を解決し、ユーザに提示するために使用されます。

発信コールの場合、このロジックは適用されません。18X、200 OK 応答では、接続された回線 ID が受信されるため、Webex アプリケーションは常に優先度を持つ SIP PAI ヘッダーを使用します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%USE_PAID_AS_CALLING_IDENTITY_WXT%	false	true、false	ユーザーに提示された発信 ID を SIP From または SIP P-Asserted-Identity ヘッダーから取得するかどうかを制御します。PAI ヘッダーを優先的に使用するには、「true」に設定します。

6.1.40 画面共有を無効にする

リリース 42.5 では、画面共有の可用性を制御する機能が追加されました。画面共有が無効になっている場合:

- 1 ～ 1 回の通話で画面共有を開始するオプションが表示されない
- 受信画面共有要求が拒否され、ユーザーに有益なメッセージが表示されます

デフォルトで、この機能は有効です。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT%	true	true、false	ユーザーに対して画面共有を有効にするかどうかを指定します。

6.1.41 スпам通話の表示

機能トグル (展開タイプごと) が有効で、設定ファイルで機能が有効になっている場合、Webex アプリは NewCall プッシュ通知または通話履歴レコードの一部として受信された場合、スパム通話検証ステータスを示す新しいパラメータを処理します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT%	false	true、false	Webex Calling のみの着信通話画面と通話履歴のスパム通話通知の可用性を制御します。

6.1.42 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張

ノイズ除去は、PSTN またはモバイル デバイスで Webex 以外のユーザーと通話するときに、通話するユーザーにより良い通話エクスペリエンスを提供します。リリース 43.12 では、デフォルトでノイズ除去がオンになっています。

Webex アプリのリリース 44.2 では、ナローバンド PSTN 通話用の新しい着信音声メディア スピーチ AI の機能強化が導入されました。

- 狭帯域幅の PSTN スペクトルの帯域幅を拡張してノイズを除去することで、音声品質を向上させる新しい帯域幅拡張アルゴリズムが追加されました。拡張された帯域幅は、明瞭性を高め、リスニング疲労を減少させます。
- 既存のノイズ除去アルゴリズムが強化され、保留音やその他のオーディオトーン (ビープ信号など) の制限が削除されます。
- この機能を有効にすると、ユーザーは「スマートオーディオ - 外部」インジケータを表示し、着信オーディオメディアのスピーチ AI 強化を制御できます。

デフォルトでは、これらの音声強化は有効化され、オンになっています。ユーザは、[音声設定 (Audio Preferences)] の [スマート音声設定 (Smart Audio Settings)] を使用して、初期状態を制御できます。


```
<config>
  <services>
    <calls>
      <speech-enhancements enabled="%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	false	true、false	外部（着信）メディアの音声強化を有効にします。

メモ: ノイズ除去は追加の音声拡張機能の一部となり、<noise-removal> タグは新しい <speech-enhancements> タグによって廃止されました。ノイズ除去のカスタム タグ %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% も非推奨です。

6.1.43 QoS DSCP マーキング

QoS DSCP マーキングは、Webex アプリ通話メディア RTP パケット（音声とビデオ）でサポートされています。DSCP は、ネットワークデータのトラフィック分類を決定します。これは、どのネットワークトラフィックがより高い帯域幅を必要とし、優先度が高く、パケットをドロップする可能性が高いかを判断するために使用できます。

メモ: Microsoft Windows オペレーティングシステムの最近のバージョンでは、アプリケーションが直接送信パケットに DSCP または UP を設定することは許可されていません。代わりに、UDP ポート範囲に基づいて DSCP マーキングポリシーを定義するために、グループポリシーオブジェクト（GPO）の展開が必要です。

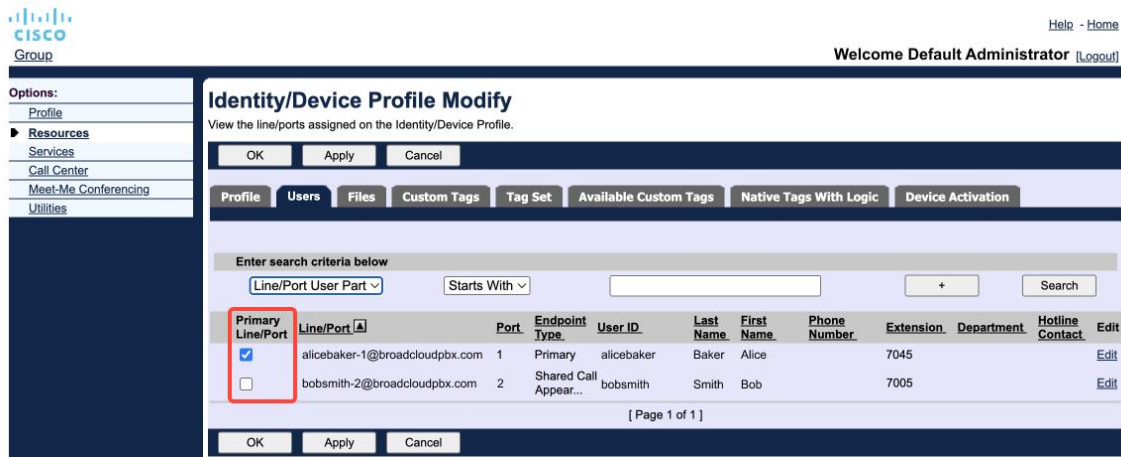
タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_AUDIO_QOS_WXT%	true	true、false	音声通話の QoS を有効にします。
%AUDIO_QOS_VALUE_WXT%	46	0-63 から	音声コールに対して選択した QoS タイプの QoS 値を指定します。 メモ: 値が指定されていない場合、または値が正常に解析できなかった場合、デフォルト値が使用されます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_VIDEO_QOS_WXT%	true	true、false	ビデオ通話の QoS を有効にする
%VIDEO_QOS_VALUE_WXT%	34	0-63 から	ビデオ コールで選択した QoS タイプの QoS 値を指定します。 メモ: 値が指定されていない場合、または値が正常に解析できなかった場合、デフォルト値が使用されます。

6.1.44 プライマリプロフィール

共有回線の統合により(0

[共有回線アピランス](#))、ユーザーの回線が別のユーザーと共有されている場合、同じタイプの複数のプロフィールがユーザーに設定されている可能性があります。電話サービスにサインインする正しいプロフィールを選択するには、Cisco BroadWorks が拡張され、ユーザーがデバイスを所有しているか、すなわちデバイスのプライマリ回線/ポートが割り当てられているかどうかを示します。Cisco BroadWorks の更新の詳細については、「[Webex クライアントの共有回線をサポートするためのデバイスリストの所有者フラグ](#)」にチェックを入れます。



The screenshot shows the 'Identity/Device Profile Modify' page in the Cisco BroadWorks administration portal. The page title is 'Identity/Device Profile Modify' with a subtitle 'View the line/ports assigned on the Identity/Device Profile.' Below the title are tabs for 'Profile', 'Users', 'Files', 'Custom Tags', 'Tag Set', 'Available Custom Tags', 'Native Tags With Logic', and 'Device Activation'. The 'Profile' tab is selected. A search bar is present with the text 'Enter search criteria below'. Below the search bar is a table with columns: 'Primary Line/Port', 'Line/Port', 'Port', 'Endpoint Type', 'User ID', 'Last Name', 'First Name', 'Phone Number', 'Extension', 'Department', 'Hotline Contact', and 'Edit'. The first row is highlighted with a red box, indicating the primary line/port. The first row contains a checked checkbox, the email 'alicebaker-1@broadcloudpbx.com', port '1', 'Primary' endpoint type, user ID 'alicebaker', last name 'Baker', first name 'Alice', phone number '7045', extension '7045', and department '7045'. The second row contains an unchecked checkbox, the email 'bobsmith-2@broadcloudpbx.com', port '2', 'Shared Call Appearance' endpoint type, user ID 'bobsmith', last name 'Smith', first name 'Bob', phone number '7005', extension '7005', and department '7005'. At the bottom of the table is a pagination indicator '[Page 1 of 1]'.

管理ポータルアイデンティティ/デバイスプロフィールのプライマリ回線/ポート設定

ログイン時に、Webex アプリケーションは、指定されたタイプで使用可能なデバイスの数をチェックします。プロフィールが 1 つだけ設定されている場合（ユーザの回線が別のユーザと共有されていない）、電話サービスはプライマリフラグを確認せず、使用可能な single プロフィールを使用してサインインします。特定のプラットフォーム（デスクトップ、モバイル、タブレット）に複数のプロフィールが設定されている場合、ユーザーが所有するデバイスが使用されます。

リリース 43.2 以降、新しい設定オプション (**device-owner-restriction**) が追加され、プライマリプロファイルの制限を適用するかどうかが制御されます。Webex アプリケーションがプライマリではない回線/ポートプロファイルを使用して電話サービスにサインインできるようにするために使用できます。この設定オプションは、ユーザに設定されているプロファイルの数に関係なく、すべての設定に適用されます（**デバイスの所有権制限が有効で、対応するプラットフォームにプライマリ回線/ポートを持つデバイスが存在しない場合、電話サービスは接続されません**）。

同じ制限は、ユーザーがデスクトップ Webex アプリでペアリングできるデバイスに適用されます。ユーザーは、所有しているデバイスでのみ表示およびペアリングできます。これにより、共有または仮想回線が割り当てられている別のユーザーのデバイスとペアリングできなくなります。同じ設定パラメータの値も、この制限に適用されます。

```
<config>[設定]
<services><calls> (サービス)
<device-owner-restriction enabled="%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%	true	true、false	デバイス所有者の制限を制御します。電話サービスが特定のデバイスのプライマリプロファイルを使用する場合

メモ: 所有者の制限を有効にすることをお勧めします。無効にすると、電話サービスはサインインした最初のプロファイルを使用します。同じタイプのユーザに対して複数のプロファイルが設定されている場合、いくつかの問題が発生する可能性があります。

6.1.45 ブロック リスト (Webex Calling のみ)

43.5 以降、Webex アプリはユーザー定義の電話番号ブロック リストを導入します。この機能が有効になっている場合、ユーザーは特定の番号からの着信コールをサーバー側でブロックし、ユーザーのデバイスで配信しないように指定できます。ユーザは、これらのブロックされたコールを通話履歴で確認できます。

ユーザーは、[通話設定 (Calling Preferences)] と [通話履歴 (Call History)] の 2 つの場所からブロック リストを設定できます。基本設定では、ブロックされた番号のリストを表示して編集できます。[通話履歴 (Call History)] では、ユーザが定義したブロック リストによってブロックされたコールの通話履歴レコードを確認できます。これらのレコードは、番号がユーザー定義のブロック リストにある場合に表示をブロックし、ユーザーは指定されたレコードの番号を直接ブロック解除するオプションがあります。ブロックオプションも利用できます。

ユーザー定義ブロック リストに追加された番号のルール:

■ 番号フォーマット

- Calling 基本設定からのブロックは、Webex アプリで E.164 形式の制限をローカルに適用します
- 通話履歴からのブロックは、すべての Webex Calling レコードに対して許可されます
- Cisco BroadWorks は、番号形式に基づいてブロック リストに追加された新しい番号の要求を許可または拒否できます。

■ 内部番号 - 内部番号からの着信は、ユーザー定義のブロック リストの一部である場合でも、ユーザーに配信されます。

ユーザー定義ブロック リストは、Cisco BroadWorks で構成され、ユーザーのすべての WxC デバイスに適用されます。この機能は、管理者定義ブロック リストとともに機能します。このブロック リストは、ユーザーによって構成可能ではなく、Control Hub を通じて管理者によってのみ制御できます。管理者が定義したブロック リストによってブロックされた着信コールの通話履歴レコードはありません。

ユーザー定義ブロック リストは、STIR/SHAKEN、管理者定義ブロック リスト、および匿名コール拒否ポリシーの後に適用されます。

```
<config>
<services><calls>
<call-block enabled="%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	true	true、false	ユーザー定義のブロック リストを有効にする 「true」に設定すると、通話設定と通話履歴のブロック リストが表示されます。

メモ: この機能は、ユーザーに割り当てられている Cisco BroadWorks Call Block サービスによって異なります。

6.1.46 メディア適応とレジリエンス実装 (MARI)

6.1.46.1 率の適応

Webex アプリケーションには、音声ビデオ パケット損失の影響を受けないようにするためのアダプティブ メディア クオリティ テクニックがすでに統合されています。また、ビデオがビデオ レートの適応を活用して、輻輳時に使用される帯域幅を管理できるようにします。

レート適応または動的ビット レートの調整は、コールレートをパケット損失条件に基づいて、使用可能な可変帯域幅、ダウンスピード、またはビデオ ビット レートのアップスピードに合わせます。エンドポイントは、受信者からパケット損失があることを示すメッセージを受信するときにビットレートを減らし、パケット損失が減少すると、ビットレートのアップスピードが発生します。

レート適応メカニズムの使用を制御する設定は設定できません。

6.1.46.2 転送エラー修正 (FEC) およびパケット再送信 (RTX)

リリース **43.4** 以降、**Webex** アプリはメディア適応メカニズムに、オーディオメディアとビデオメディアの両方に対する転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX) のサポートを追加します。

FECは、事前に決定されたアルゴリズムを使用して、送信された情報に冗長性を提供します。冗長性により、受信者は送信者に追加のデータを尋ねることなく、限られた数のエラーを検出して修正することができます。**FEC**は、データの再送信を要求するためにリバースチャネル (RTCP など) を必要とせずにエラーを修正する機能を提供しますが、この利点は、固定されたより高い転送チャネル帯域幅 (送信されたパケット数) のコストです。

エンドポイントは、**768 kbps** 未満の帯域幅で **FEC** を使用しません。また、**FEC**を導入する前に、少なくとも**1.5%**のパケット損失が発生している必要があります。エンドポイントは通常、**FEC**の有効性を監視し、**FEC**が効率的でない場合は使用されません。

FECは、再送信よりも多くの帯域幅を消費しますが、遅延は少なくなります。**RTX**は、小さな遅延が許可され、帯域幅の制約がある場合に使用されます。大きな遅延と十分な帯域幅の場合、**FEC**が望ましい。

Webex アプリは、特定のメディア ストリームのネゴシエートされた帯域幅と遅延許容度に応じて、**RTX** または **FEC** を動的に選択します。**FEC**は、ビデオデータの冗長化により帯域幅の使用率が高くなりますが、失われたパケットを回復するための追加の遅延は発生しません。**RTX**は帯域幅の使用率向上に貢献しませんが、**RTP** パケットは、受信者が **RTCP** フィードバック チャネルのパケット損失を示す場合にのみ再送信されます。**RTX**は、**RTCP** パケットが送信者から受信者に到達し、再送信されたパケットが送信者から受信者に到達するのにかかる時間のために、パケットの回復遅延を導入します。

RTX を有効にするには、**FEC** を有効にする必要があります。

```
<config><services><calls>
<audio>
  <audio-quality-enhancements>
```

```

    <mari>
      <fec enabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%">
        <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
        <payload>111</payload>
        <max_esel>1400</max_esel>
        <max_n>255</max_n>
        <m>8</m>
        <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
        <non_seq>1</non_seq>
        <feedback>0</feedback>
        <order>FEC_SRTP</order>
      </fec>
      <rtx enabled="%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%">
        <mari-rtx>90000</mari-rtx>
        <payload>112</payload>
        <time>180</time>
        <data-flow>1</data-flow>
        <order>RTX_SRTP</order>
      </rtx>
    </mari>
  ...
<video>
  <video-quality-enhancements>
    <mari>
      <fec enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%">
        <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
        <payload>111</payload>
        <max_esel>1400</max_esel>
        <max_n>255</max_n>
        <m>8</m>
        <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
        <non_seq>1</non_seq>
        <feedback>0</feedback>
        <order>FEC_SRTP</order>
      </fec>
      <rtx enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%">
        <mari-rtx>90000</mari-rtx>
        <payload>112</payload>
        <time>180</time>
        <data-flow>1</data-flow>
        <order>RTX_SRTP</order>
      </rtx>
    </mari>
  
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	false	true、false	音声通話の FEC を有効にする
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	false	true、false	音声通話の RTX を有効にする (有効な音声 FEC が必要)
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	false	true、false	ビデオ通話の FEC を有効にする

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	false	true、false	ビデオ通話の RTX を有効にする (有効なビデオ FEC が必要)

6.1.47 同じユーザーとの同時通話

1 台のデバイスで同じユーザーとの同時コールのサポートを追加します。

この機能は、コールの提示された ID が接続された ID と同じではない一部の展開に役立ちます。これにより、出席した転送を元のパーティに戻すことができなくなります。この機能を有効にすると、ユーザは同じリモートパーティで複数の同時コールを処理できます。

```
<config>
  <services>
    <calls>
      <simultaneous-calls-with-same-user
enabled="%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	false	true、false	Webex アプリで同じユーザーとの単一または複数の WxC 通話のみを使用できるかどうかを指定します。

6.1.48 RTCP-XRについて

リリース 43.8 以降、Webex アプリは通話中に RTCP-XR パケット交換のネゴシエーションを追加します。ネゴシエーションは SIP INVITE セッションの確立中に発生します。両方のエンドポイントが RTCP-XR パケットをサポートしている場合、Webex Media Engine はこれらのパケットの交換を開始し、アダプティブ コール品質メカニズムを支援します。この機能はデフォルトで有効になっています。

さらに、Webex Calling のみの場合、これらの追加のメトリックは SIP BYE を通じて送信され、このようにして Control Hub で公開されます。

```
<config>
<protocols><sip>
```

```
<rtcp-xr>
  <negotiation enabled="%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	true	true、false	RTCP-XR ネゴシエーションとパケット交換を有効にして、通話品質を向上させます。 デフォルトで有効になっています。

6.1.49 コール転送情報

Webex アプリのリリース 44.2 では、通話に関連する画面と通話履歴の通話転送とリダイレクト情報の可視性を制御するための設定可能なオプションが導入されています。

```
<config>
<services><calls>
<call-forwarding-info enabled="%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	true	true、false	通話転送およびリダイレクト情報の可視性を制御します。 [true] に設定すると、通話関連の画面と通話履歴に情報が表示されます。

メモ: この機能では、Cisco BroadWorks 側でリダイレクト情報 (Diversion または History-Info) を有効にする必要があります。

6.1.50 発信者 ID (Webex Calling のみ)

Webex Mobile (リリース 44.2) およびデスクトップ (リリース 44.3) アプリでは、ユーザーが発信通話の優先外部発信者 ID を選択するための新しい機能が導入されています。利用可能なオプションのリストには以下が含まれます。

- 直通回線 (デフォルト)
- ロケーション番号
- 同じ組織のカスタム番号

- ユーザーが参加しているコール キュー。これにより、エージェントは発信者 ID 番号を使用できます
- ユーザーが参加しているハント グループ。これにより、エージェントは発信者 ID 番号を使用できます。
- 発信者 ID を非表示

注意:

- Webex Calling のみ
- オプションの一覧は回線によって異なります。
 - プライマリ回線 – オプションのフルセット
 - 共有回線 – 利用できません
 - 仮想回線 – 通話キューオプションのみ
- すでに選択した ID が利用できなくなった場合、ユーザーのデフォルトの発信者 ID が使用されます。
- 緊急コールは、常にユーザーの緊急コールバック番号を使用します
- セクション <services><call-center-agent> の下で <outgoing-calls> タグを廃止します

利用可能なオプションのリストは、管理ポータルから設定できます。 また、Webex アプリでのこれらの機能強化の可用性を制御するための個別の DMS カスタム タグもあります。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <additional-numbers enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%" />
      <call-center enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%" />
      <hunt-group enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%" />
      <clid-delivery-blocking enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%" />
    </outgoing-calls>
  </caller-id>
</calls>
</services>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	false	true、false	発信コールの発信回線 ID 番号の選択を有効にします。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	false	true、false	ユーザに設定された追加番号の可用性を制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	false	true、false	ユーザに設定されたコールセンター（DNIS）番号の可用性を制御します。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	false	true、false	ユーザに設定されたハントグループ番号の可用性を制御します。
"%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	false	true、false	発信コールの選択として発信者 ID 配信ブロックを有効にします。

6.2 デスクトップのみの機能

6.2.1 強制ログアウト

この機能により、Cisco BroadWorks は同じデバイス タイプでオンライン クライアント インスタンスを追跡し、そのうちの 1 つをいつでもオンラインにすることができます。Cisco BroadWorks がクライアントにログアウトするように通知すると、SIP 接続が終了し、クライアントはコールが接続されていないことを示します。

この機能は、同様のクライアントが同時にオンラインになる可能性がある一部の展開で必要であり、副作用を引き起こします。1 つの例は、職場および自宅にデスクトップ マシンを持つユーザーで、どの SIP 登録がアクティブであるかに応じて、着信コールがいずれかのクライアントによってのみ受信されます。

強制ログアウトはSIPに基づいているため、クライアントは**bsoft-call-info**パラメータ値に関係なく、**From**のSIP SUBSCRIBEを送信します。ヘッダーに特別な**appid**値。Cisco BroadWorks が同じ **appid**で複数のクライアント インスタンスをオンラインで検出すると、古いクライアント インスタンスに特別な SIP NOTIFY が送信され、ログアウトします。たとえば、クライアント側のこの識別子の使用に制限はありませんが、デスクトップクライアントは同じ**appid**値を持つこととなります。**appid-value**は、サービスプロバイダによって設定されます。

強制ログアウトを使用するには、SIP Call-Info サブスクリプションを有効にする必要があります。

この機能に必要な Cisco BroadWorks パッチとリリースの詳細については、『*Webex for Cisco BroadWorks ソリューションガイド*』の「Cisco BroadWorks ソフトウェア要件」のセクションを参照してください。

設定の詳細については、次の例を参照してください (SIP はこのリリースでサポートされている唯一の制御プロトコルです)。

```
<config>
<services>
<forced-logout enabled="%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%" control-protocol="SIP"
appid="%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	false	true、false	強制ログアウトを有効にします。
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	空	文字列	Appid は、相関関係のためにサーバ側で使用されます。これは任意の文字列です。 例: 「123abc」

6.2.2 コールピックアップ

コール ピックアップは、選択したユーザがコール ピックアップ グループ内の任意の呼び出し回線に応答できるマルチユーザ サービスです。コール ピックアップ グループは管理者によって定義され、グループ内のユーザが互いのコールをピックアップできるサブセットです。

次のピックアップ ケースがサポートされています。

- ブラインド コール ピックアップ
- ダイレクト コール ピックアップ（ユーザは、各機能アクセス コードにダイヤルしてから、呼び出し中の電話機の内線番号を入力して、グループ内の別の電話にダイレクト コールに応答できます）。

```
<config>
<services><calls>
<call-pickup blind="%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%"
directed="%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	false	true、false	ブラインドコールピックアップを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	false	true、false	ダイレクト コールピックアップを有効にするには、「true」に設定します。

6.2.3 Boss-Admin (Executive-Assistant) サポート

Cisco BroadWorks の Executive-Assistant 機能として知られる Boss-Admin では、アシスタントがエグゼクティブに代わって操作し、「エグゼクティブ」としてコールのスクリーニング、応答、発信を行うことができます。1人のアシスタントは複数のエグゼクティブを持つことができ、次のことが可能です。

- コールを発信するときに、目的のロールを選択します。
- エグゼクティブに代わって着信コールに応答し、エグゼクティブにコールをプッシュします。それに加えて、通常のコール管理オプションはすべて利用できます。
- 着信コールが実際にエグゼクティブ向けであることを確認してください。

エグゼクティブとエグゼクティブ アシスタントは、次の機能を提供する 2 つの相互に関連する Cisco BroadWorks サービスです。

- エグゼクティブ サービスを使用しているユーザーは、コールを管理するアシスタントのプールを定義できます。アシスタントは、エグゼクティブ アシスタント サービスが割り当てられている同じグループまたはエンタープライズのユーザーの中から選択する必要があります。
- エグゼクティブ アシスタント サービスを使用しているユーザーは、エグゼクティブに代わってコールに応答して開始できます。
- エグゼクティブとそのアシスタントは、アシスタントに転送するコール、アシスタントが着信コールについてどのようにアラートを発信するか、アシスタントに転送するコールのうちどれをエグゼクティブに提示してスクリーニングするかを指定できます。

```
<config>[設定]
<サービス>
<executive-assistant enabled="%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	false	true、false	Boss-Admin 機能を有効にするには、「true」に設定します。

メモ: 機能Boss-Admin (Executive-Assistant) サポートは、共有回線との組み合わせでは利用できません。

6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーションする (Webex Calling のみ)

クライアントは、進行中の SIP 通話を Webex Calling 経由でミーティングにエスカレーションする機能を提供します。標準のアドホック会議の代わりにこの機能を使用することで、ユーザーはミーティング中にビデオと画面共有を使用できるようになります。

```
<config>
<services><calls>
  <escalate-to-webex-meeting
enabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	false	true、false	「true」に設定して、[Webex ミーティングにエスカレート] メニュー オプションを有効にします。

6.2.5 卓上電話制御通話 – 自動応答

自動応答を使用すると、ユーザはクライアントの発信コールに卓上電話制御（DPC）を使用して、タッチ応答がゼロの MPP 電話を管理できます。

選択した MPP 電話機には、発信 DPC コールの音声/ビデオが転送されます。

自動応答は、プライマリおよびプライマリ以外のプロビジョニングされたデバイスで機能します。ユーザーがペアリング可能な複数の登録済み卓上電話を持っている場合、選択された/ペアリングされたデバイスのみが自動応答します。

```
<config>
<services><calls>
<deskphone-control auto-answer="%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%	true	true、false	「true」に設定すると、卓上電話制御の自動応答が有効になります。

メモ: DPC モードの間、自動応答は着信コールに影響を与えないため、デスクフォンが着信コールの呼び出し音を鳴らします。

6.2.6 トーン通知による自動応答

この機能は、着信コール要求で指定されている場合、ローカル デバイスの着信コール応答の自動サポートを有効にします。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、バックエンドから要求された場合、自動着信コール応答が有効になります。

6.2.7 卓上電話のコントロール – 通話中コントロール – 会議

この機能により、別のロケーションで終了したりリモート（XSI）通話の会議とマージ オプションが有効になります。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、別のロケーションで終了したりリモート（XSI）コールの会議とマージオプションが有効になります。

6.2.8 コール ピックアップの通知

コール ピックアップ通知は、ユーザが監視するように設定されているユーザへの着信コールがあるかどうかを知る機能を提供します。コール ピックアップ通知は、コール ピックアップ グループとビジー ランプ フィールド サービスを通じて設定されたウォッチリストに対して受信できます。

コール ピックアップ通知は、監視対象のユーザーが物理的に互いに近寄らず、同僚の電話の呼び出し音が聞こえない場合に便利です。

6.2.8.1 にぎやかなランプ畑

デスクトップ Webex アプリケーションは、ビジー ランプ フィールド（BLF）ウォッチリストのメンバーが、アラート状態の着信コールを持っている場合に通知を表示します。通知には、発信者と着信コールを受信したユーザに関する情報があり、コールをピックアップ、サイレンス、または通知を無視するオプションがあります。ユーザによる着信コールに応答すると、ダイレクト コール ピックアップが開始されます。

リリース 43.4 以降、BLF で監視されるユーザーのリストは、通話用のマルチコールウィンドウ（MCW）で利用できます（Windows でのみ利用可能）。MCWにおけるBLFリストの統合には以下が含まれます。

- コールをピックアップするか、アラートを無視するオプションを使用して、着信コールを監視します。
- BLF ユーザーの完全なリストを参照してください。
- ユーザーのプレゼンスを監視する - 豊富なプレゼンスは、Webex Cloud エンタイトルメントを持つユーザーのみ利用できます。
ベーシック（テレフォニー）プレゼンスは、BroadWorks のみのユーザーに対してのみ利用できます。
- BLF ユーザーとの通話を開始します。
- BLF ユーザーとのチャットを開始する - Webex Cloud エンタイトルメントを持つユーザーのみ利用できます。
- 連絡先として BLF ユーザーを追加します。

```
<config>[設定]
  <services>
    <calls>
      <busy-lamp-field enabled="%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%">
      <display-caller enabled="%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
      <notification-delay time="%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	false	true、false	コールをピックアップする機能を持つ他のユーザに対して、ビジー ランプ フィールドのモニタリングと呼び出し中の通知を有効にします。
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	true	true、false	呼び出し中の通知で発信者の表示名/番号を表示できます。
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	0	0 ~ 60	呼び出し中の通知がユーザーに表示されるまでに何秒遅れるかを制御します。

メモ: この機能は、ダイレクト コール ピックアップ サービスによって異なります。

6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)

リリース 44.2 以降、Webex アプリケーションは Webex Calling 展開のグループ コール ピックアップ (GCP) 通知のサポートを追加します。これにより、コール ピックアップ グループで監視されているすべてのユーザーの着信コールについてユーザーに通知できます。

コール ピックアップ

グループのユーザ部分の着信コールの場合、呼び出し元がコールに応答する機会が与えられます。Control Hub で設定可能な GCP 通知遅延があります。

設定された時間内に呼び出し元がコールを処理しない場合、GCP 通知がグループに送信されます。

同じコール ピックアップ

グループ内で複数のコールが発生した場合、受信した時間に基づいて順次処理されます。最も古いコールの通知は最初にグループに送信され、処理されると、次の通知がグループに送信されます。

通知は、Control Hub

管理ポータルの設定に応じて、音声のみ、ビジュアルのみ、または音声とビジュアルです。

視覚的な GCP 通知がある場合、ユーザはコール

ピックアップ機能を使用してコールをピックアップできます。

音声のみの通知が設定されている場合、ユーザーは着信コールの視覚的な通知が表示されず、特定の着信音が聞こえ、Webex アプリで利用可能なコール ピックアップ メニューから、または FAC コード (*98) と内線を手動でダイヤルしてコールをピックアップできます。

ユーザは、アプリケーション設定を通じて GCP 通知をミュートできます。

この設定は、すべてのコール ピックアップ通知 (BLF および GCP) に適用され、デフォルトでは通知はミュートになっています。

この機能は、プライマリ回線、およびユーザーに割り当てられた共有回線または仮想回線に対して機能します。

```
<config>
<services><calls>
  <group-call-pickup-notifications enabled="%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%">
    <display-caller enabled="%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%" />
    <max-timeout value="%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%" />
  </group-call-pickup-notifications>
  ...
</services><protocols><sip>
  <lines>
    <line>
      <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
      ...
    </line>
    <line>
      <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-2%</group-call-pickup>
      ...
    </line>
    ...
  </lines>
</sip>
</protocols>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	false	true、false	グループ コール ピックアップ通知を有効にする
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	true	true、false	呼び出し中の通知で発信者の表示名/番号を表示できるようにする
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	120	5 ~ 120	ユーザーに GCP 通知が利用できる最大時間を定義する
%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%	false	true、false	対応する回線にコール ピックアップ グループが設定されているかどうかを示します

メモ1: これは Webex Calling のみの機能です。

メモ2: この機能は、ユーザに設定されているコール ピックアップ グループによって異なります。

6.2.9 リモートコントロールイベントパッケージ

クリックしてダイヤルするには、BroadWorks レセプションニストのシンクライアントや Webex アプリが通話デバイスである Go インテグレーターなどのクライアントで、通話を受信したり、Webex アプリを保留/再開したりするときに、リモートコントロールイベントパッケージが優先されるようになりました。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_REMOTE_CONTROL_EVENT_S_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、リモートコントロールをユーザに対して有効にするように指定します。

6.2.10 コール キュー エージェント CLID の選択

エージェントが顧客にコールを発信する場合、顧客には個人または企業の CLID ではなく、適切な通話回線 ID (CLID) を確認してもらいます。たとえば、エージェント Mary Smith がテクニカル サポート コール キューに参加している場合、顧客を呼び出すときに、Mary は顧客に CLID を Mary Smith ではなくテクニカル サポートとして表示することを要求します。

Control Hub または CommPilot の管理者は、発信 CLID に使用するコール キューの 1 つ以上の DNIS 番号を指定できます。エージェントは、発信コールを行うときに CLID として使用する DNIS 番号の 1 つを選択するオプションがあります。Webex アプリは、エージェントが CLID として使用する DNIS を選択する機能を提供します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_CENTER_AGENT_OUTGOING_CALLS_WXT%	false	true、false	Call Center キューに代わって発信コール (CLID 選択) を有効にします。

6.2.11 サバイバビリティ ゲートウェイ (Webex Calling のみ)

リリース 43.2 以降、Webex アプリケーションはサバイバビリティ コールモードのサポートを追加します。機能が有効で Webex Cloud 接続がない場合、Webex アプリケーションはサバイバビリティ モードで実行できます。このモードでは、ユーザが使用できる通話機能が制限されています。

ローカル サバイバビリティ ゲートウェイは、顧客によって展開されます。

```
<config>
<protocols>
<sip>
<survivability-gateway enabled="%ENABLE_SURVIVABILITY_GATEWAY_WXT%" fallback-time="%SURVIVABILITY_FALLBACK_TIME_WXT%">%BWSURVIVABILITYGATEWAY%</survivability-gateway>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SURVIVABILITY_GATEWAY_WXT%	false	true、false	サバイバビリティモードのサポートを有効にします。
%SURVIVABILITY_FALLBACK_TIME_WXT%	30	>=30	フォールバック時間を指定します (SSE へのサバイバビリティ ゲートウェイ)

メモ: この機能は、オンプレミスからクラウド通話ソリューションへの移行に自信を提供します。

6.2.12 共有回線アピアランス

リリース 42.12 以降、Webex アプリケーションは複数の回線のサポートを追加します。Webex ユーザーはプライマリ回線を持ち、最大 9 回線を他のユーザーと共有できます。

管理者は、共有回線ごとに共有コール アピアランスを設定する必要があります。

Webex クライアントは 12 時間以内の回線設定の更新を検出し、ユーザーにアプリケーションの再起動を要求します。ユーザーを再ログインすると、回線の更新がすぐに適用されます。

リリース 43.12 以降、Webex

アプリが強化され、共有回線で保留中のコールを移動する（ローカルで再開する）ことができ、別のユーザーまたは別のデバイスで同じユーザーによって処理されます。

詳細については、[6.2.15 通話を移動](#)を参照してください。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%	false	true、false	複数回線のサポートを有効にします（設定されている場合）。無効 ("false" に設定) の場合、設定された最初の行だけがアプリケーションによって使用されます。

メモ: 機能 [Boss-Admin \(Executive-Assistant\) サポート](#) は、共有回線との組み合わせでは利用できません。

6.2.13 仮想回線 (Webex Calling のみ)

Webex Calling 展開のみの場合、Webex

アプリは仮想回線を使用したマルチライン構成をサポートします。

機能的には、仮想回線を使用した設定は、共有回線を使用したマルチ回線と一致します。ユーザー用に設定された仮想回線を確認し、着信および発信コールに使用できます。最大 10 個の仮想回線と共有回線を組み合わせて設定できます。

リリース 43.4 では、仮想回線のサポートが拡張され、コール パークとコール パーク取得が追加されます。

リリース 43.12 以降、Webex

アプリが拡張され、別のユーザーまたは別のデバイス上の同じユーザーによって処理される仮想回線で保留中の通話を移動（ローカルで再開）できます。詳細については、[6.2.15通話を移動](#)を参照してください。

以下は、仮想回線のサポートに関連する設定テンプレートの変更を示します。

```
<config>
<protocols>
  <sip>
    <lines multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
      ...
      <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-1%">
        <external-id>BWUSEREXTID-1%</external-id>
        ...
      </line>
      <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-2%">
        <external-id>BWUSEREXTID-2%</external-id>
        ...
      </line>
      ...
      <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-10%">
        <external-id>BWUSEREXTID-10%</external-id>
        ...
      </line>
    </sip>
  </protocols>
```

6.2.14 リモート ミュート制御イベント パッケージ (Webex Calling のみ)

リリース 43.9 以降、Webex アプリは音声メディア ストリームのリモート ミュート コール制御のサポートを追加します。これにより、Webex アプリが発信側デバイスである BroadWorks Receptionist シン クライアントのような別の場所から進行中のコールをミュート/ミュート解除できます。

この機能は、新しい SIP `x-cisco-mute-status` 情報パッケージによって異なります。コール SIP INVITE セッションの確立中に `Recv-Info:x-cisco-mute-status` ヘッダーを受信した場合、音声通話セッションのミュート状態に更新 (ローカルまたはリモート) すると、Webex アプリは `Info-Package:x-cisco-mute-status;muted=true` (または `muted=false`) で SIP INFO を送信します。ミュートされたパラメータは、音声メディアストリームの更新された状態を表します。

ミュートまたはミュート解除は、ローカルまたはリモートロケーションからトリガーできます。リモート アップデートは、*Event* で `SIP NOTIFY` をトリガーします。ミュート (またはミュート解除) は、アプリケーション サーバーから Webex アプリに送信されます。Webex アプリはリモート リクエストを尊重し、オーディオ メディア ストリーム状態の更新後に、`Info-Package:x-cisco-mute-status;muted=true` (または `muted=false`) を使用して `SIP NOTIFY` を送信します。

```
<config>
<services>
  <calls>
    <remote-mute-control enabled="%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
<code>%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%</code>	false	true、false	「true」に設定すると、リモートミュートコール制御がユーザーに対して有効になります。

6.2.15 通話を移動

Webex アプリは、別のロケーションで終了した VoIP コールの通話監視と通話制御を提供します。これは現在、ユーザーのプライマリ回線でのみ使用できます。

リリース 43.12 以降、Webex アプリが拡張され、共有回線と仮想回線でも別のロケーションで終了した通話が表示されます。このようなコールは、情報目的で進行中のコール領域に表示され、制御するオプションはありません。

このようなコールが保留中の場合にのみ、ユーザーはそれを選択してローカルデバイスに移動し、コール画面から再開できます。

このメカニズムは、コールが別のロケーションで同じユーザによって処理された場合や、同じ回線を使用して別のユーザによって処理された場合に便利です。

Webex アプリは、保留中の通話をペアリングされたデバイスに移動することはできません。ユーザがデバイスとペアリングされている場合、まず接続を切断してから、保留中のコールをローカルで再開できます。

共有および仮想回線のコール モニタリングは、SIP Call-info イベント パッケージによって異なります。

ユーザのプライマリ回線のコールのモニタリングは、XSI イベント (アドバンスド コール イベント パッケージ) に依存し、ローカル デバイスにコールを移動することはできません。このタイプのコールでは、コールプル (6.1.22 [コール プル](#)) 機能を使用できます。コールプルはユーザーの最後のアクティブ コールに対してのみ機能し、共有回線と仮想回線のメカニズムは保留中のユーザーのすべてのコールに対して機能します。

1. 使用事例 1:

- a. Alice には、デスクトップとデスクの電話のプロファイルに Bob の回線が割り当てられています。
- b. Alice は Desk Phone を通して Charlie と通話しています。Alice はデスクトップ アプリで進行中の通話を見ることができます。
- c. Alice はデスクの電話からコールを保留にします。Alice はデスクトップ アプリからコールを再開できます。

2. 使用事例 2:

- a. Alice には、デスクトップとデスクの電話のプロファイルに Bob の回線が割り当てられています。
- b. Bob は Charlie と通話しています。Alice はデスクトップ アプリで進行中の通話を見ることができます。
- c. Bob は Charlie と通話を保留にします。Alice はデスクトップ アプリから Charlie と通話を再開できます。

3. 使用事例 3:

- a. Alice には、デスクトップとデスクの電話のプロファイルに Bob の回線が割り当てられています。
- b. Alice は、デスクトップ アプリから卓上電話とペアリングされています。
- c. Bob は Charlie と通話しています。Alice はデスクトップ アプリで進行中の通話を見ることができます。
- d. Bob はチャーリーとの通話を保留にします。Alice はデスクトップ アプリから Charlie との通話を再開できません。

- e. Alice はデスクトップ アプリをデスクフォンから切断します。Alice はデスクトップ アプリから Charlie との通話を再開できます。

```
<config>
<services><calls>
  <call-move>
    <move-here enabled="%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%" />
  </call-move>
</calls>
</services>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	false	true、false	ローカル デバイスでコールの移動を有効にします。 複数回線のユースケースのロケーション/ユーザー間の保留/再開に使用されます。

6.3 モバイルのみの機能

6.3.1 緊急コール

Cisco BroadWorks 版 Webex はネイティブ緊急通話をサポートしています。

この機能を有効にすると、発信 VoIP コールの開始時に、アプリケーションはダイヤル番号を分析し、設定された緊急番号のリストと比較します。番号が緊急番号として識別された場合、アプリケーションは設定されたダイヤル動作を実行します。ダイヤルシーケンスタグを使用して設定できます。

サポートされているモード:

- **cs-only** – ネットワークが利用可能な場合、クライアントはセルラーネットワークを介してのみ緊急コールを発信します。
- **cs-first** – 緊急通話を開始すると、クライアントは現在のデバイスが接続されているネットワークタイプを確認します。セルラーネットワークが利用可能な場合、クライアントはセルラーネットワーク経由でコールを発信します。セルラーネットワークが利用できないが、セルラーデータ/WiFi ネットワークが利用可能な場合、クライアントはセルラーデータ/WiFi ネットワークを介してコールを VoIP コールとして配置します。また、緊急コールがセルラーネットワークを介して配置されている場合、クライアントは、緊急コールを VoIP として再試行するようにユーザに提案します。
- **voip のみ** – セルラー データ/WiFi ネットワークが利用可能な場合、クライアントは緊急コールを VoIP としてのみ配置します。
- **cs-voip** – クライアントは、デバイスがネイティブ回路スイッチ (CS) コールとして起動できるかどうかを分析します (CS ネットワークが利用できるかどうかを考慮しません)。デバイスがネイティブコールを開始できる場合、緊急番号は緊急 CS コールとしてダイヤルされます。それ以外の場合、コールは VoIP としてダイヤルされます。

メモ: VOIP コールが無効になっている場合、緊急ダイヤルシーケンスの唯一の意味のある値 (%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%) は cs のみです。

サインイン時にユーザーに緊急コールの免責事項メッセージが表示されます。設定オプションでは制御されません。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	false	true、false	緊急コールの検出を有効にするには、「true」に設定します。 デフォルト値は空です。
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	cs のみ	cs のみ、cs ファースト、voip のみ、cs voip	緊急コールのダイヤル シーケンス モードを制御します。
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	[911、112]	CSV リスト	緊急番号の CSV リスト。 例: 911112

6.3.2 コールのプッシュ通知

着信コールを受信すると、モバイル クライアントは最初にプッシュ通知（PN）を受信します。SIP REGISTER セッションを確立するタイミングを制御するために使用できる設定パラメータがあります。

1. プッシュ通知を受信したとき、または
2. ユーザがコールを受け入れる場合。

第二のアプローチが推奨されます。ただし、最初のケースと比較して、コールが確立される前に遅延が追加されます。

iOS 13 の要件によると、VoIP PN は着信コールにのみ使用する必要があります。その他の通話関連のイベントでは、通常の PN を使用する必要があります。

この要件を満たすために、新しいPN登録APIが導入され、Application Serverに対応するパッチを適用する必要があります。バックエンドが iOS 13 PN をサポートするように設定されていない場合、設定パラメータを使用して、すべてのコール関連イベントが VoIP PN 経由で配信されるレガシープッシュ通知の使用を強制できます。

呼び出し中のコールが別のロケーションの呼び出し元によって受け入れられた場合、発信者が閉じられた場合、またはボイスメールにリダイレクトされた場合など、アプリケーション サーバ (AS) によって送信されるプッシュ通知があります。iOS 13 では、このタイプのプッシュ通知が通常のものになり、いくつかの制限があります。Apple Push Notification Service (APNS) によって遅延したり、まったく配信されない場合があります。不在または遅延したコール更新 PN を処理するために、設定可能な呼び出しタイムアウトが追加され、最大呼び出し時間を制御できます。最大呼び出し時間に達すると、呼び出し先の呼び出しは停止され、コールは見逃されたものとして処理されます。発信者側では、アプリケーション サーバ (AS) で設定された無応答呼び出しポリシーが実行されるまで、コールが呼び出し状態のままになる場合があります。

アプリケーションの動作を一貫させるには、設定可能な呼び出しタイマーが Android と iOS の両方に適用されます。

プッシュ通知として着信コールを受信したときのコールの拒否動作を指定するには、別の設定オプションが追加されます。クライアントは、コールを無視するか、拒否が「true」または「false」に設定された Xsi を介してサーバに応答するように設定できます。この場合、割り当てられた Cisco BroadWorks コール処理サービスが適用されます。「decline_false」が設定されている場合、発信者が放棄するか、無応答タイマーが期限切れになるまで、コールが鳴り続け、関連するコール処理サービスが開始されます。「decline_true」が設定されている場合、拒否の理由はコール処理を指定します。辞退の理由が「ビジー」に設定されている場合、サーバーはただちにビジー処理サービスを強制します。「temp_unavailable」が設定されている場合、一時利用できない処理サービスが適用されます。

```
<config>
<services>
  <push-notifications-for-calls enabled="true"
    connect-sip-on-accept="%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%"
    ring-timeout-seconds="%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%"/>
  <calls>
    <reject-with-xsi mode="%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%"
      declineReason="%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%"/>
  
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	false	true, false	SIP REGSITER セッションが確立されたときの制御 - 着信通話のプッシュ通知を受信したとき、または受諾したとき。
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	35	[0 ~ 180]	PN 経由で受信したコールの着信呼び出し時間の最大数を制御します。 指定された期間内にCallUpd PNが受信されなかった場合、不在着信として扱われます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	拒否フォールス	無視、decline_true、decline_false	コールの拒否動作を指定します。
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	取り込み中	ビジー、temp_unavailable	拒否モードが「decline_true」に設定されている場合、コールの拒否の理由を指定します。

6.3.2.1 MWIについて

MWI 機能を有効にすると、モバイル Webex クライアントは MWI プッシュ通知をサブスクライブして、ユーザーのボイスメールで更新を受信し、通知します。通知の数を減らし、不要な注意散漫を避けるために、場合によっては MWI プッシュ通知が抑制されます。たとえば、ユーザーがボイスメールメッセージを聞いている場合、またはモバイル Webex クライアント内から既読としてマーキングされている場合（未読数が減少しています）。これを制御する設定可能なオプションはありません。

MWIの詳細については、セクション [6.1.27ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ](#)を参照してください。

6.3.2.2 リング スプラッシュ

BroadWorks サービス（DND など）は、着信がリダイレクトされたときに呼び出しリマインダを送信できます。Webex モバイル クライアントは、リング スプラッシュ プッシュ通知を有効にし、BroadWorks によってトリガーされたときにユーザーに表示するように設定できます。

```
<config>
<services>
<ring-splash enabled="%ENABLE_RING_SPLASH_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_RING_SPLASH_WXT%	false	true、false	BroadWorks設定でRing Splashを有効にします。

6.3.3 単一のアラート

Mobile Single Alert機能は、BroadWorks Mobilityサービスを活用した固定モバイルコンバージェンス(FMC)/モバイルネットワークオペレータ(MNO)展開を対象としています。それなしでは、Webex クライアントにログインして着信コールを受信すると、ユーザーはネイティブコールとプッシュ通知 (VoIP) コールの 2 つのコールを同時に受信します。この機能が有効になっている場合、アプリケーションはログイン時にユーザーの BroadWorks Mobility ロケーションのモビリティアラートを無効にし、ログアウト時にアラートを有効にします。この機能を使用するための重要な前提条件は、ユーザが BroadWorks モビリティ サービスを割り当てられ、正確に 1 つのロケーションを設定することです。

```
<config>
<services><calls>
<single-alerting enabled="%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	false	true、false	シングルアラートを有効にするには、「true」に設定します。

6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)

アウトバウンドクリックしてダイヤルすることで、エンド ユーザは個人の回路 スイッチングされた携帯電話でコールを発信し、ビジネス DN を発信回線 ID として配信できます。

モバイル Webex クライアントは、BroadWorks Anywhere サービスを使用してクリックしてダイヤル (コールバック) 通話をサポートします。Webex アプリケーションの BroadWorks Anywhere ロケーションは、単一番号リーチ (SNR) ロケーションと呼ばれます。

この機能が有効になっている場合、ユーザーはデバイス ペアリング メニューから SNR の場所を選択できます。SNR ロケーションとペアリングすると、すべての発信コールが [クリックしてダイヤル (コールバック) (Click to Dial (Call Back))] コールを使用して開始されます。二重アラートを防ぐために、着信コールのプッシュ通知は無効になります。

ユーザが [クリックしてダイヤル (Click to Dial)] コールを開始すると、選択した SNR ロケーションで着信コールが予想される情報を含む発信コール画面が表示されます。この画面は、設定可能なタイマーに基づいて自動的に閉じられます。

SNR ロケーションから切断すると、アプリケーションは再び着信コールのプッシュ通知に登録されます。

```
<config>
<services>
<dialing>
```

```
<call-back enabled="%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%"
timer="%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	false	true、false	「true」に設定して、クリックしてダイヤル（コールバック）コールを有効にします。
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	10	[3-20]	コールバック画面が自動的に閉じられるまでの秒数を制御します。

6.3.5 MNO サポート

6.3.5.1 ネイティブ ダイアラーとの通話

この機能により、BroadWorks Mobility (BWM) サービスを活用したモバイル ネットワーク オペレータ (MNO) 展開のサポートが追加されます。ユーザには BroadWorks モビリティ サービスが割り当てられ、少なくとも 1 つのロケーションが設定されていると想定されます。

ネイティブ ダイアラを介してコールを開始するユーザーの機能は、**ネイティブ**設定タグによって制御されます。有効にすると、アプリケーションはネイティブ ダイアラーを起動し、コールを発信します。さらに、VoIP コールの可用性は **voip** タグによって制御されます。VoIP コールが有効または無効にできる展開要件に基づいています。

VoIP およびネイティブ通話が有効になっている場合、ユーザーはどのオプションを使用するか選択できます。

<dialing-mode> タグは、ユーザが着信および発信コールの開始/受信方法を選択できるかどうかを制御します。ネイティブ コールと VoIP コールの両方を有効にする必要があります。

リリース 43.12 以降、ネイティブのダイヤル設定が拡張され、カスタムプレフィックスを発信コール番号に事前ペンドイングする機能が提供されます。これは、ダイヤルされた番号が **FAC** コードで始まる場合にのみ、Webex アプリから開始されたセルラー コールに適用されます。

この機能は、統合された Cisco BroadWorks アプリケーション サーバにリダイレクトされる代わりに、コールが Telecom バックエンドによって処理される MNO 展開を使用する顧客にとって便利です。セクション **<dialing><native>** の下に新しい **<fac-prefix>** タグが追加され、テレコムはこの問題を解決するために使用できます。

```
<config>
<services>
  <dialing>
    <voip enabled="%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%"/>
    <native enabled="%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%" enable-bwks-mobility-
dependency="%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%">
      <fac-prefix value="%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%"/>
    </native>
  <dialing-mode enabled="%ENABLE_DIALING_MODE_WXT%" default="%DIALING_MODE_DEFAULT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	true	true、false	VoIP 通話オプションを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	false	true、false	ネイティブ通話オプションを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_DIALING_MODE_WXT%	false	true、false	[基本設定 (Preferences)] の [コール設定 (Call Settings)] を使用して、ユーザによるダイヤルモードの選択を有効にします。
%DIALING_MODE_DEFAULT_WXT%	VoIP	voip、ネイティブ	[基本設定 (Preferences)] でダイヤルモードが有効になっている場合に選択されるデフォルトのダイヤルモードを指定します。
%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%	false	true、false	ネイティブ コールの可用性は、BroadWorks モビリティ サービスの割り当てとユーザに設定されているモビリティ ロケーションに依存するかどうかを制御します。
%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%	空	文字列	FAC コードで始まる番号への発信コールがセルラーコールとして開始される場合、先頭に付けるプレフィックスを指定します。 デフォルトでは、FAC プレフィックスは定義されておらず、タグは空です。

メモ1:

少なくともvoipとネイティブのいずれかのコールを有効にする必要があります。

メモ2:

ネイティブコールのみが有効な場合、MNO 展開では、クライアントが BWM アラートを無効にしないように、シングルアラートを無効にすることを推奨します。

注3:

ネイティブコールとvoipコールの両方が有効になっている場合、MNO展開では、ダブルアラートが発生しないように、シングルアラートを有効にすることをお勧めします。

6.3.5.2 通話中のコントロール

この機能により、モバイル Webex クライアントは、Cisco BroadWorks に固定されているモバイル デバイスの XSI ネイティブ コールを介して制御できます。XSI 通話コントロールは、次の場合にのみ使用できます。

- BroadWorks Mobility (BWM) サービスがユーザーに割り当てられ、
- BMWのモバイルIDは1つしか設定されていません、
- ネイティブダイヤルモードはユーザーによって選択されます(詳細については、セクション [6.3.5.1 ネイティブダイヤラーとの通話](#))。
- BMWのサービスを通じてBroadWorksに固定された通話があり、
- モバイル デバイスで進行中のセルラー コールがあります。

リリース 43.10 では、Webex アプリで提示された 2 つのセルラー コール間の関連付けを作成し、ユーザーが転送を完了するためのオプションを提供することで、コンサルティング転送の処理が向上します。また、ユーザが同じデバイスで 2 つの独立したセルラーコールを持っている場合、転送メニューが強化され、それらの間に関連付けが作成されていない場合でも、1 つを他方に転送できます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT%	false	true、false	MNO 環境の XSI コール制御を有効にします。
%XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT%	MNO_アクセス	MNO_Access, MNO_ネットワーク	<p>アプリケーションで使用される XSI MNO 展開タイプを制御します。</p> <p>次のいずれかの値になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ MNO_Access - すべてのリモート (XSI) コールを、以下のノードで定義されたデバイスタイプで表示します。 ▪ MNO_Network - すべてのリモート (XSI) コールが表示されます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%DEPLOYMENT_DE VICE_TYPE_1_WXT %, %DEPLOYMENT_DE VICE_TYPE_2_WXT %, %DEPLOYMENT_DE VICE_TYPE_3_WXT %	""	文字列	MNO_Access 展開タイプで使用するデバイス タイプ名。
%ENABLE_XSI_HOL D_CALLS_WXT%	true	true、false	XSI モバイル コールのユーザに対して [コール保 留 (Call Hold)] アクションを使用可能にするか どうかを制御します。

6.3.5.3 発信通話回線 ID (CLID) – デュアル ペルソナ

モバイル リリース 42.12 では、Webex アプリにより、ユーザーは発信通話の開始時にリモート側に提示された通話回線 ID (CLID) を選択できます。

ユーザが Cisco BroadWorks モビリティ、モバイルネットワークオペレータ (MNO) 展開の典型的な構成、およびネイティブ通話が有効な場合、ユーザは通話しているユーザに提示する ID を選択できます。ユーザーはビジネスまたは個人の ID を選択できます。また、自分のアイデンティティを非表示にするオプションと、匿名として提示されるコールがあります。

VoIP コールの場合、ユーザーには CLID を制御するオプションもあります。この場合、使用可能なオプションは、ID を非表示にするかどうかを制御することだけです。

ペルソナ管理と CLID ブロッキングは、個別の設定オプションによって制御されます。

```
<config>
<services>
<dialing>
  <calling-line-id-delivery-blocking
enabled="%ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT%"/>
  <mobility-persona-management
enabled="%ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT%"/>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CLID_DELIVERY_B LOCKING_WXT%	false	true、false	発信回線 ID の配信ブロックを有効にします。 これは、ユーザーのすべての発信タイ プのコールに適用されます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT%	false	true、false	展開タイプが MNO_Access または MNO_Network として設定されている場合、ネイティブコールの個人管理を有効にします。 (BroadWorks Mobility はネイティブコールに使用され、すべてのネイティブコールは BroadWorks にアンカーされます)

6.3.5.4 ネイティブコールの通知

MNO を使用して展開されたユーザーの場合、この機能によりネイティブ通話の通知バナーが追加され、Webex アプリで制御できます。この通知はプッシュ通知に依存し、通話が確立されるとアプリケーション サーバーから送信されます。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT%	true	true、false	MOBILE_CALL_INFO プッシュ通知のサブスクリプションを有効にします。

6.3.5.5 ネイティブコールをコンバージド ミーティングに移動

MNO を使用して展開されたユーザーの場合、この機能により、1 対 1 コールの方の当事者のネイティブ ボイス コールをミーティングにエスカレーションできます (相手が Webex ユーザーではない場合でも)。リモート ユーザーが Webex ユーザーの場合、ミーティングに参加すると、当事者は次のことができるようになります。

- ミーティング チャットで Webex を開始する
- ビデオを追加 (音声はネイティブコールで継続されることに注意してください)
- 画面/コンテンツを共有する
- ミーティング録画のトリガー

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	false	true、false	パワーアップを有効にします (招待とミーティング、ビデオミーティングアクション)。

6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット

Android Webex アプリ (モバイルおよびタブレット) のリリース 43.7 では、新しい通話制御ウィジェット (バブル) が正式に導入され、モビリティ サービスを使用して Cisco BroadWorks に固定されたネイティブ通話の追加の通話制御が提供されます。ウィジェットはネイティブUIの上部に表示され、ユーザーに次の操作を許可します。

- 保留/再開
- Blind/Consultative Transfer– Webex アプリの転送ダイアログにユーザーを配置します。
- 完全転送 – 協議転送を完了するオプションを提供します (リリース 43.10)
- ビデオミーティング – Webex ミーティングに参加者を移動します。
- 通話を終了

```
<config>
<services><calls>
  <hold xsi-enabled="%ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT%" widget-enabled="%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%"/>
  <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%" xsi-enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%" widget-enabled="%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%" type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"/>
  <escalate-to-webex-meeting enabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%" widget-enabled="%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
</calls>
</services>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットでの保留アクションの可用性を制御します。
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットの [転送 (Transfer)] および [転送完了 (Complete Transfer)] アクションの可用性を制御します。

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットでのビデオ ミーティングアクションの可用性を制御します。

6.3.6 着信Caller ID

リリース 44.2 では、Cisco BroadWorks アプリケーションサーバによって提供される名前と番号に基づいて、ユーザに表示されるリモートパーティ発信者 ID を制御する機能が追加されます。名前と番号が指定されている場合、Webex アプリは着信通話画面とトーストに番号を追加し、不在着信通知 (形式: *名前 (番号)*) 番号が名前として設定されている場合、アプリは重複を回避し、番号を 1 回表示します。

強化を制御するための個別の設定オプションがあります。
無効にすると、アプリには名前または番号のいずれかが表示されます (名前は優先順位が付いています)。

```
<config>
<services><calls>
  <caller-id>
    <incoming-calls>
      <append-number
enabled="%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    </incoming-calls>
    <missed-calls>
      <append-number
enabled="%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    </missed-calls>
  </caller-id>
</calls>
</services>
</config>
```

タグ	省略した場合のデフォルト	サポートされる値	説明
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	false	true、false	着信コール通知の名前にその番号を追加するかどうかを制御します。
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	false	true、false	不在着信通知の名前にその番号を追加するかどうかを制御します。

7 早期フィールドトライアル（ベータ）機能

最新リリースの BETA には機能がありません。

8 Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング

次の表に、Cisco BroadWorks 版 Webex のカスタム タグを一覧表示し、UC-One のレガシー カスタム タグに一致させます。

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	%ENABLE_REJECT_WITH_486_DESKTOP%	%ENABLE_REJECT_WITH_486_MOBILE%
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	適用なし	%REJECT_WITH_XSI_MODE_MOBILE%
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	適用なし	%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_MOBILE%
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	%ENABLE_TRANSFER_CALLS%	%ENABLE_TRANSFER_CALLS_MOBILE%
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	適用なし	%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_MOBILE%
%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%	%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_DESKTOP%	適用なし
%MAX_CONF_PARTIES_WXT%	%MAX_CONF_PARTIES%	適用なし
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	%ENABLE_CALL_PULL_DESKTOP%	%ENABLE_CALL_PULL_MOBILE%
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	N/A	%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_MOBILE%
%ENABLE_MWI_WXT%	%DESKTOP_MWI_ENABLE%	%ENABLE_MWI_MOBILE%
%ENABLE_MWI_WXT%	%DESKTOP_MWI_ENABLE%	%ENABLE_MWI_MOBILE%
%MWI_MODE_WXT%	%DESKTOP_MWI_MODE%	%MWI_MODE_MOBILE%
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL%	適用なし
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	%ENABLE_FORCED_LOGOUT%	適用なし
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	%FORCED_LOGOUT_APPID%	適用なし
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	適用なし	適用なし

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	適用なし	適用なし
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	適用なし	適用なし
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	適用なし	適用なし
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	適用なし	適用なし
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	適用なし	適用なし
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	%USE_RPORT_IP%	%ENABLE_USE_RPORT_MOBILE%
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	N/A	%RPORT_USE_LOCAL_PORT_MOBILE%
%USE_TLS_WXT%	%USE_TLS%	N/A
%SBC_ADDRESS_WXT%	%SBC_ADDRESS%	%SBC_ADDRESS%
%SBC_PORT_WXT%	%SBC_PORT%	%SBC_PORT%
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	%USE_PROXY_DISCOVERY%	%USE_PROXY_DISCOVERY_MOBILE%
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	%USE_TCP_FROM_DNS%	N/A
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	%USE_UDP_FROM_DNS%	N/A

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	%USE_TLS_FROM_DNS%	適用なし
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	%DOMAIN_OVERRIDE%	%DOMAIN_OVERRIDE%
%SOURCE_PORT_WXT%	%SOURCE_PORT%	%SOURCE_PORT%
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES%	適用なし
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	%TCP_SIZE_THRESHOLD%	適用なし
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	%SIP_REFRESH_ON_TTL%	適用なし
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_DESKTOP%	%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_MOBILE%
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	%ENABLE_PEM_SUPPORT_DESKTOP%	適用なし
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	適用なし	適用なし
%SRTP_ENABLED_WXT%	%USE_SRTP%	%SRTP_ENABLED_MOBILE%
%SRTP_MODE_WXT%	%SRTP_PREFERENCE%	%SRTP_MODE_MOBILE%
%ENABLE_REKEYING_WXT%	%ENABLE_RE_KEYING_DESKTOP%	%ENABLE_RE-KEYING_MOBILE%
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START%
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END%
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START%
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END%
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	%ENABLE_RTCP_MUX%	%ENABLE_RTCP_MUX%
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL%	適用なし
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	%CHANNEL_HEARTBEAT%	%CHANNEL_HEARTBEAT_MOBILE%
%XSI_ROOT_WXT%	%XSI_ROOT%	%XSI_ROOT%
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	適用なし	%XSI_ACTIONS_PATH_MOBILE%
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	適用なし	%XSI_EVENTS_PATH_MOBILE%

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	適用なし	%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_MOBILE%
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	適用なし	%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_MOBILE%
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLI_ND_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	適用なし	適用なし
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_URL%
%USE_MEDIASEC_WXT%	%USE_MEDIASEC_MOBILE%	%USE_MEDIASEC_DESKTOP%
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	%ENABLE_CALL_CENTER_DESKTOP%"	適用なし
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	適用なし	適用なし
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFN_R_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFN_R_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFN_A_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFN_A_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE%

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_STANDARD_SETTINGS_CC_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	適用なし	%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE%
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	適用なし	適用なし
%DIALING_CALL_BACK_TIME_R_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_DESKTOP%	適用なし
%PN_FOR_CALLS_RING_TIME_OUT_SECONDS_WXT%	適用なし	%PN_FOR_CALLS_RING_TIME_OUT_SECONDS_MOBILE%
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	%ENABLE_CALL_RECORDING_DESKTOP%	%CALL_RECORDING_MOBILE%
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	適用なし	%ENABLE_SINGLE_ALERTING%
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	%ENABLE_CALL_PARK_DESKTOP%	適用なし
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	適用なし	適用なし
%RTP_ICE_MODE_WXT%	適用なし	適用なし
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	適用なし	適用なし
%RTP_ICE_PORT_WXT%	適用なし	適用なし
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%	適用なし	適用なし

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_ LOCUS_CALLING_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_UNIFIED_CALL_ HISTORY_WXT%	適用なし	適用なし
%WEB_CALL_SETTINGS_BRA NDING_ENABLED_WXT%	適用なし	適用なし
%USER_PORTAL_SETTINGS_ URL_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_DEVICE_OWNER_ RESTRICTION_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC _WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX _WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC _WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX _WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CALL_BLOCK_WX T%	適用なし	適用なし
%ENABLE_WIDGET_HOLD_C ALLS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_WIDGET_TRANSF ER_CALLS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_WIDGET_CALLS_E SCALATE_TO_WEBEX_MEETI NG_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_SIMULTANEOUS_ CALLS_WITH_SAME_USER_ WXT%	適用なし	適用なし
%SIP_REGISTER_FAILOVER_ REGISTRATION_CLEANUP_W XT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CALL_MOVE_HER E_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_SPEECH_ENHANC EMENTS_WXT%	適用なし	適用なし
%DIALING_NATIVE_FAC_PRE FIX_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_TRANSFER_AUTO _HOLD_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOT IATION_WXT%	適用なし	適用なし

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップレガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_DESKTOP%	適用なし
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_DESKTOP%	適用なし
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	適用なし	適用なし
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	適用なし	適用なし
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	適用なし	適用なし

メモ: N/A は、UC-One で機能を制御する対応するカスタム タグがないことを示します。デスクトップ タグとモバイル レガシー タグの両方に N/A を指定すると、Cisco BroadWorks 版 Webex タグが新しく、UC-One のカスタム タグで制御されなかった新しい機能または既存の機能のいずれかを制御します。

9 付録A: TLS 暗号

BroadWorks 版 Webex クライアントは、追加のセキュリティ強化を備えた OpenSSL に基づいた Cisco SSL を使用します。

10 付録B: DM タグプロビジョニング スクリプト

カスタム DM タグの数は、多くの顧客が新しい設定パラメータのタグを好むため、リリースごとに増加しました。これらのカスタム DM タグをより簡単にプロビジョニングするためのメカニズムを提供するために、このセクションには、カスタム DM タグに値を割り当てるために、アプリケーション サーバ (AS) 側で実行できるスクリプトが含まれています。このスクリプトは、特にカスタム DM タグの大部分が使用される新しい展開を意図しています。

このスクリプトは、カスタム DM タグが作成されている新しい展開でのみ有効であることに注意してください。既存のカスタム DM タグを変更するには、次のスクリプトのコマンドを「add」から「set」に変更する必要があります。

カスタム タグがいくつか設定されているスクリプト テンプレート (実際の展開では、カスタム タグのより大きなリストを入力する必要があります)。次の例はモバイル向けです。デスクトップの場合は、Connect_Tags の代わりに BroadTouch_tags タグセットを使用します。タブレットの場合は、Connect_Tags の代わりに ConnectTablet_Tags タグセットを使用します。

```
%% ***** Connect_Tags - ファイルを読み込む
*****
%%
%% の説明:
%% -----
%% - この読み取りファイルは、BroadWorks 版 Webex の作成、追加、設定に使用できます
%% クライアントのカスタムタグ
%% - %%
を使用して、展開固有のステップに基づいて不要なステップをコメントアウトします。
%% サービスの要件:
%% ステップ 1 -- 新規展開のみ、初期タグセットラベルを作成する
%% ステップ 2 -- 新しいカスタムタグを追加します (新しいタグごとにエントリが必要です)
%% ステップ 3 -- 既存のカスタムタグの値を設定する (該当するタグごとに入力が必要)
%% ステップ 4 -- タグ設定を表示および視覚的に確認する
%%
%% - コマンドシンタックスを尊重し、必要に応じてファイルを編集、変更します。
ファイルの保存 (例: WxT_Tags.txt)
%% - ディレクトリ /tmp の下で SFTP 読み取りファイルを AS に
%% - AS、bwcli にログイン (管理者としてのログイン)
%% - bwcli から次のコマンドを実行します。 AS_CLI> r /tmp/ WxT_タグ.txt
%% - 結果を確認する
%%
%% -----
%% ステップ 1: Connect タグセットラベルの作成 - Connect_Tags
%% -----
すべて終了;システム;DeviceTagSet
```

```

Connect_Tags を追加
%% -----
-----
%% ステップ 2: BWKS カスタム タグの WxT を追加
%% 例 – すべてのモバイルタグについては、以下のリストを参照してください-----
-----
すべて終了;システム;DeviceTagSet;タグ
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% true
%% -----
-----
%% ステップ 3: Connect カスタム タグの設定 (タグがすでに存在する場合)
%% 例 – すべてのモバイルタグについては、以下のリストを参照してください。
set tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% isOverridable
真のタグ値 false
%% -----
-----
%% ステップ 4: カスタムタグが正しく定義され、設定されていることを確認する
%% -----
-----
すべて終了;システム;DeviceTagSet;タグ
tagSetName Connect_Tags を取得
すべて終了する

```

次のリストには、Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるすべてのカスタム タグと、例 (デフォルトまたは推奨) の値が含まれます。一部のタグには、対応する展開に固有の値 (サーバアドレスなど) が必要であることに注意してください。そのため、これらのタグはスクリプトの最後に追加されますが、空のままであり、それらを指定するために追加のセットコマンドを追加する必要があります。

10.1 デスクトップ

```

add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_CONFERERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REMOTE_CONTROL_EVENTS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CONFERERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true

```

```

add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%
false
add tagSetName BroadTouch_tags
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%
false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName BroadTouch_tags
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName BroadTouch_tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT% 900
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName BroadTouch_tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true

```



```

add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %FORCED_LOGOUT_APPID_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_CENTER_AGENT_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_MULTI_LINE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true

```

```
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT% 120
```

10.2 モバイル

```
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName Connect_Tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
```

```

add tagSetName Connect_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName Connect_Tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName Connect_Tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName Connect_Tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName Connect_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName Connect_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName Connect_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName Connect_Tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName Connect_Tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNH_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT% cs-only
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT% 911,112
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT% decline_false
add tagSetName Connect_Tags %REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT% busy
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false

```

```
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT% 35
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName Connect_Tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_VOIP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_MODE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_MODE_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT% MNO_Access
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName Connect_Tags %USE_PAIR_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RING_SPLASH_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%
```



```
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
```

10.3 タブレット

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CONFERENCING_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
```

```

add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNK_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT% cs-only
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT% 911,112
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT% decline_false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT% busy
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT% 35
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun

```

```

add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_VOIP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_MODE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_MODE_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT% MNO_Access
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RING_SPLASH_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%
true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false

```

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%  
false  
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false  
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false  
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%  
false  
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
```

10.4 システム タグ

以下は、BroadWorks 版 Webex で使用されるシステム タグの一覧です。

```
%BWNWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%  
%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%  
%BWLINEPORT-n%  
%BWHOST-n%  
%BWAUTHUSER-n%  
%BWAUTHPASSWORD-n%  
%BWE164-n%  
%BWNAME-n%  
%BWEXTENSION-n%  
%BWAPPEARANCE-LABEL-n%  
%BWDISPLAYNAMELINEPORT%  
%BWLINEPORT-PRIMARY%  
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%  
%BWE911-CUSTOMERID%  
%BWE911-SECRETKEY%  
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%  
%BW-MEMBERTYPE-n%  
%BWUSEREXTID-n%
```


11 頭字語と略語

このセクションでは、このドキュメントに含まれる頭字語と略語を一覧表示します。頭字語と略語は、その意味とともにアルファベット順に列挙されています。

ACB	自動コールバック
ACD	自動コール分布
ACR	匿名コールの拒否
AES	高度な暗号化標準
ALG	アプリケーションレイヤゲートウェイ
API	アプリケーションプログラミングインターフェイス
APK	アプリケーションパッケージ
APNS	Appleプッシュ通知サービス
ARS	自動ビットレートの選択
AS	アプリケーションサーバ (Cisco BroadWorks)
AVP	オーディオ ビジュアル プロファイル
BW	ブロードワークス
BWA	BroadWorksの拠点
BWKS	ブロードワークス
BWM	BroadWorks モビリティ
BYOD	オリジナルデバイスの導入
CC	コールセンター
CFB	通話転送がビジー
CFNA	着信転送の応答なし
CFNR	コール転送に到達できません
CIF	共通の中間フォーマット
CLI	コマンドラインインターフェイス
CLID	通話回線 ID
CLIDB	通話回線 ID の配信ブロック

CRLF	キャリッジリターンラインフィード
CS	回路スイッチ
CSWV	コール設定 Web ビュー
CW	コール待機
DB	データベース
DM	デバイスの管理
DND	応答不可
DNS	ドメイン名システム
DPC	デスクフォン コントロール
DTAF	デバイスタイプのアーカイブファイル
ECACS	緊急呼 アドレス変更サービス
FMC	固定モバイル収束
FQDN	完全修飾ドメイン名
HMAC	ハッシュメッセージ認証コード
ICE	インタラクティブ接続の確立
iLBC	インターネット低ビットレートコーデック
IM	インスタントメッセージ
IM&P	インスタントメッセージとプレゼンス
IOT	相互運用性テスト
IP	インターネットプロトコル
JID	Jabber 識別子
M/O	必須/オプション
MNO	モバイルネットワークオペレータ
MTU	最大伝送ユニット
MUC	マルチユーザーチャット
MWI	メッセージ待機インジケータ
NAL	ネットワーク抽象化レイヤ

NAPTR	命名権ポインタ
NAT	ネットワークアドレス変換
OTT	トップページ
PA	パーソナルアシスタント
PAI	P-アサート済み-アイデンティティ
PEM	P-アーリーメディア
PLI	画像損失の表示
PLMN	パブリックランドモバイルネットワーク
PN	プッシュ通知
QCIF	四半期共通中間フォーマット
QoS	サービスの質
RO	リモートオフィス
RTCP	リアルタイム制御プロトコル
RTP	リアルタイムプロトコル
SaaS	サービスとしてのソフトウェア
SAN	サブジェクト代替名
SASL	シンプルな認証とセキュリティレイヤ
SAVP	安全な音声ビデオプロファイル
SBC	セッション ボーダー コントローラ
SCA	共有コール アピアランス
SCF	セッションの継続性機能
SCTP	ストリーム制御伝送プロトコル
SDP	セッション定義プロトコル
SEQRING	シーケンシャルリング
SIMRING	同時リング
SIP	セッション開始プロトコル
SNR	信号対ノイズ比

SNR	単一番号リーチ
SRTCP	安全なリアルタイム制御プロトコル
SRTP	安全なリアルタイム転送プロトコル
SSL	セキュアソケットレイヤー
STUN	NAT用セッショントラバーサルユーティリティ
SUBQCIF	サブクォーターCIF
TCP	伝送制御プロトコル
TLS	トランスポート レイヤ セキュリティ
TTL	生きる時間
リレー NAT を使用した TURN	トラバーサル
UDP	ユーザーデータグラムプロトコル
UI	ユーザーインターフェイス
UMS	メッセージング サーバ (Cisco BroadWorks)
URI	Uniform リソース識別子
UVS	ビデオサーバー (Cisco BroadWorks)
VGA	ビデオグラフィックスアレイ
VoIP	ボイスオーバー IP
VVM	ビジュアル ボイスメール
WXT	Webex
XMPP	Extensible Messaging and Presence プロトコル
XR	拡張レポート
Xsp	Xtendedサービスプラットフォーム
Xsi	Xtendedサービスインターフェイス